**科目名:** 心理臨床学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00100001

**担当者:** 吉田 圭吾 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:スクールカウンセラー、学生相談、心療内科カウンセラー、自死遺族相談

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 修論の研究に向けて、個々の卒業論文の発表を通じて、心理学における研究の方法論と視点とを獲得する。特に、1) 観察・測定される事実と体系的な理論との関連、2) 研究における科学性と臨床における個別性とがどのような関わりをもっているか、3) 基礎的な研究の方法論と臨床における技術との対応関係について理解する、4)本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を追行する。
また、各自の研究計画に対応した論文をまとめて発表することで、個々の領域において理解しておかなければならない基本事項を再確認するとともに、研究の方向性を探ることを目的とする。

**到達目標:** 1. 発表やディスカッションへの参加を通じて、発表技術の向上を図るとともに、論理的に問題解決に結びつける能力を培う。
2. 研究の方法論と具体的な進め方について、質の高い先行研究やミーティングから学び、独自の発想とモチベーションを高める。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション(ゼミ配属説明、スケジュール、教員研究分野理解)
2. 卒業論文の発表(1)
3. 卒業論文の発表(2)
4. ゼミ配属について
5. 個別指導開始(研究倫理指導)
6. 個別指導
7. 個別指導
8. 個別指導
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. まとめとレポート(修士論文のテーマについて)

**特記事項:** なし

**授業方法:** 基本的に対面で行うが、事情によりオンラインで行うときもある。
1. 講義
2. 卒論の発表とディスカッション
3. 卒論の発表とディスカッション
4. 講義
5. 教員の説明と指導
6. 教員の説明と指導
7. 教員の説明と指導
8. 教員の説明と指導
9. レポート作成と発表
10. レポート作成と発表
11. レポート作成と発表
12.レポート作成と発表
13. レポート作成と発表
14. レポート作成と発表
15. レポート作成

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 復習（180分）（研究倫理について）
2. 卒論発表の整理(180分)（卒論をまとめる）
3. 卒論発表の整理（180分）（卒論をまとめる）
4. 文献調べ（180分）研究分野について調べる）
5.文献調べ（180分）（研究分野について調べる）
6. 文献調べ（180分）（文献を読む）
7. 文献調べ（180分）（文献を読む）
8. 文献調べ（180分）（文献を読む）
9. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
10. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
12. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
13. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
14. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
15. レポート作成（180分）（修士論文のテーマについて）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 基礎的な研究の方法論を理解することができる。（60~69点）
研究の方法論と臨床心理学的な研究との対応関係を理解できる。（80~100点）

---

**課題へのフィードバック：**

希望者に口頭でフィードバック

---

**教科書：** なし

**参考書：** 講義内で紹介

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

大学院での研究の基盤となる重要な授業です。主体的に取り組んでください。4月中旬より下旬まで各自ゼミ選択のために個別相談、5月初旬にゼミ配属希望提出、配属決定、5月中旬より個別指導というスケジュールになります。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00100003

**担当者:** 吉野 俊彦 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 修論の研究に向けて、個々の卒業論文の発表を通じて、心理学における研究の方法論と視点とを獲得する。特に、1) 観察・測定される事実と体系的な理論との関連、2) 研究における科学性と臨床における個別性とがどのような関わりをもっているか、3) 基礎的な研究の方法論と臨床における技術との対応関係について理解する。
また、各自の研究計画に対応した論文をまとめて発表することで、個々の領域において理解しておかなければならない基本事項を再確認するとともに、研究の方向性を探ることを目的とする。

**到達目標:** 1. 発表やディスカッションへの参加を通じて、発表技術の向上を図るとともに、論理的に問題解決に結びつける能力を培う。
2. 研究の方法論と具体的な進め方について、質の高い先行研究やミーティングから学び、独自の発想とモチベーションを高める。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 卒業論文の発表(1)
3. 卒業論文の発表(2)
4. ゼミ配属について
5. 個別指導（研究倫理指導を含む）
6. 個別指導
7. 個別指導
8. 個別指導
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. まとめとレポート（修士論文のテーマについて）

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。

**授業方法:**
1. 講義
2. 卒論の発表とディスカッション
3. 卒論の発表とディスカッション
4. 講義
5. 教員の説明と指導
6. 教員の説明と指導
7. 教員の説明と指導
8. 教員の説明と指導
9. レポート作成と発表
10. レポート作成と発表
11. レポート作成と発表
12.レポート作成と発表
13. レポート作成と発表
14. レポート作成と発表
15. レポート作成

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 復習（180分）（研究倫理について）
2. 卒論発表の整理(180分)（卒論をまとめる）

3. 卒論発表の整理（180分）（卒論をまとめる）
4. 文献調べ（180分）（文献を読む）
5. 文献調べ（180分）（文献を読む）
6. 文献調べ（180分）（文献を読む）
7. 文献調べ（180分）（文献を読む）
8. 文献調べ（180分）（文献を読む）
9. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
10. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
11. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
12. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
13. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
14. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
15. レポート作成（180分）（修士論文のテーマについて）

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：** 基礎的な研究の方法論を理解することができる。（60~69点）
研究の方法論と臨床心理学的な研究との対応関係を理解できる。（80~100点）

**課題へのフィードバック：**
希望者に口頭でフィードバック

**教科書：** なし

**参考書：** 演習内で適宜紹介する

**授業・準備学習のアドバイス：**
わかりやすく親切な指導をしています。適宜弱点補強や実力チェックを行っています。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00100004

**担当者:** 松本 剛 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 修論の研究に向けて，個々の卒業論文の発表を通じて，心理学における研究の方法論と視点とを獲得する。特に，1) 観察・測定される事実と体系的な理論との関連，2) 研究における科学性と臨床における個別性とがどのような関わりをもっているか，3) 基礎的な研究の方法論と臨床における技術との対応関係について理解する。4)本学の研究倫理に関わる基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を追行する。
また，各自の研究計画に対応した論文をまとめて発表することで，個々の領域において理解しておかなければならない基本事項を再確認するとともに，研究の方向性を探ることを目的とする。

**到達目標:** 1. 発表やディスカッションへの参加を通じて，発表技術の向上を図るとともに，論理的に問題解決に結びつける能力を培う。
2. 研究の方法論と具体的な進め方について，質の高い先行研究やミーティングから学び，独自の発想とモチベーションを高める。

**各回の授業計画:**

1. 1. オリエンテーション（ゼミ配属説明、スケジュール、教員研究分野理解 ）
2. 卒業論文の発表（1）
3. 卒業論文の発表（2）
4. ゼミ配属について
5. 個別指導開始（研究倫理指導）
研究倫理基準や研究倫理規程の指導
6. 個別指導
7. 個別指導
8. 個別指導
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. まとめとリポート（修士論文のテーマについて）

**特記事項:** なし

**授業方法:** 基本的に対面で行う（事情によりオンラインで行う場合がある。）
1. 講義
2. 卒論の発表とディスカッション
3. 卒論の発表とディスカッション
4. 講義
5. 教員の説明と指導
6. 教員の説明と指導
7. 教員の説明と指導
8. 教員の説明と指導
9. レポート作成と発表
10. レポート作成と発表
11. レポート作成と発表
12. レポート作成と発表
13. レポート作成と発表
14. レポート作成と発表
15. レポート作成

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. 復習（180分）（研究倫理について）
2. 卒論発表の整理（180分）（卒論をまとめる）
3. 卒論発表の整理（180分）（卒論をまとめる）
4. 文献調べ（180分）研究分野について調べる）
5. 文献調べ（180分）（研究分野について調べる）
6. 文献調べ（180分）（文献を読む）
7. 文献調べ（180分）（文献を読む）
8. 文献調べ（180分）（文献を読む）
9. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
10. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
11. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
12. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
13. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
14. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
15. レポート作成（180分）（修士論文のテーマについて）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 基礎的な研究の方法論を理解することができる（60～69点）
研究の方法論と臨床心理学的な研究との対応関係を理解できる（80～100点）

---

**課題へのフィードバック：**

希望者に口頭でフィードバック

---

**教科書：** なし

**参考書：** 適宜授業中に紹介する

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

大学院での研究の基盤となる重要な授業です。主体的に取り組んでください。
4月中旬より下旬までゼミ選択のために個別相談を行います。
5月初旬にゼミ配属希望提出し、配属決定、5月中旬より個別指導というスケジュールになります。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00100005

**担当者:** 三井 知代 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 修論の研究に向けて、個々の卒業論文の発表を通じて、心理学における研究の方法論と視点とを獲得する。特に、1) 観察・測定される事実と体系的な理論との関連、2) 研究における科学性と臨床における個別性とがどのような関わりをもっているか、3) 基礎的な研究の方法論と臨床における技術との対応関係について理解する、4)本学の研究倫理に関わる基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を追行する。
また、各自の研究計画に対応した論文をまとめて発表することで、個々の領域において理解しておかなければならない基本事項を再確認するとともに、研究の方向性を探ることを目的とする。

**到達目標:** 1. 発表やディスカッションへの参加を通じて、発表技術の向上を図るとともに、論理的に問題解決に結びつける能力を培う。
2. 研究の方法論と具体的な進め方について、質の高い先行研究やミーティングから学び、独自の発想とモチベーションを高める。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション（ゼミ配属説明、スケジュール、教員研究分野理解）
2. 卒業論文の発表(1)
3. 卒業論文の発表(2)
4. ゼミ配属について
5. 個別指導開始（研究倫理指導）
6. 個別指導
7. 個別指導
8. 個別指導
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. まとめとレポート（修士論文のテーマについて）

**特記事項:** なし

**授業方法:** 基本的に対面で行うが、事情によりオンラインで行うときもある。
1. 講義
2. 卒論の発表とディスカッション
3. 卒論の発表とディスカッション
4. 講義
5. 教員の説明と指導
6. 教員の説明と指導
7. 教員の説明と指導
8. 教員の説明と指導
9. レポート作成と発表
10. レポート作成と発表
11. レポート作成と発表
12.レポート作成と発表
13. レポート作成と発表
14. レポート作成と発表
15. レポート作成

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 復習（180分）（研究倫理について）
2. 卒論発表の整理(180分)（卒論をまとめる）
3. 卒論発表の整理（180分）（卒論をまとめる）
4. 文献調べ（180分）研究分野について調べる）
5. 文献調べ（180分）（研究分野について調べる）
6. 文献調べ（180分）（文献を読む）
7. 文献調べ（180分）（文献を読む）
8. 文献調べ（180分）（文献を読む）
9. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
10. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
12. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
13. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
14. レポート作成（180分）（文献をまとめる）
15. レポート作成（180分）（修士論文のテーマについて）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 基礎的な研究の方法論を理解することができる。（60～69点）
研究の方法論と臨床心理学的な研究との対応関係を理解できる。（80～100点）

---

**課題へのフィードバック：**

希望者に口頭でフィードバックを行う

---

**教科書：** なし

**参考書：** 講義内で紹介する

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

大学院での研究の基盤となる重要な授業です。主体的に取り組んでください。4月中旬より下旬まで各自ゼミ選択のために個別相談、5月初旬にゼミ配属希望提出、配属決定、5月中旬より個別指導というスケジュールになります。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00200001

**担当者:** 吉田 圭吾 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 基礎的な理論と方法を理解し、自らの関心や問題意識と照合して、研究テーマを暫定的に作成する。その研究テーマに即して、関連文献・資料収集・分析し、研究テーマを次第に精緻化していく。専門分野である臨床心理学的研究における知識を院生に教授し、院生の修士論文テーマの設定、実施方法等について具体的に指導する。

**到達目標:** 大学院において研究を進めるために必要な準備と方向づけを行い、各自の興味、関心、将来の希望などに基づいて研究領域を選択し、研究論文のテーマを設定することを目標とする。

**各回の授業計画:**

1. 専門分野の文献講読と発表①
2. 専門分野の文献講読と発表②
3. 専門分野の文献講読と発表③
4. 専門分野の文献講読と発表④
5. 専門分野の文献講読と発表⑤
6. 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化①
7. 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化②
8. 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化③
9. 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化④
10. 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化⑤
11. 個別指導①
12. 個別指導②
13. 個別指導③
14. 個別指導④
15. まとめとレポート（研究テーマに関することについて）

**特記事項:** なし

**授業方法:** 授業は基本的に対面授業で行うが、必要に応じてオンライン授業も行う。

1. レポート作成
2. レポート作成
3. レポート作成
4. レポート作成
5. レポート作成
6. 研究計画の作成
7. 研究計画の作成
8. 研究計画の作成
9. 研究計画の作成
10. 論文作成
11. 論文作成
12. 論文作成
13. 論文作成
14. 論文作成
15. レポート作成

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 文献を読む（180分）（関心のあるテーマについて）
2. 文献を読む(180分）（関心の(あるテーマについて）
3. 文献を読む(180分）（関心のあるテーマについて）

4. 文献を読む(180分)(関心のあるテーマについて)
5. 文献を読む(180分)(関心のあるテーマについて)
6. 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
7. 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
8, 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
9. 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
10. 研究計画を考える(180分)(文献をまとめる)
11. 論文の流れを考える(180分)(修論について)
12. 論文の流れを考える(180分)(修論について)
13. 論文の流れを考える(180分)(修論について)
14. 論文の流れを考える(180分)(修論について)
15. 全体的な整理(180分)(修論について

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 60 | **%** | **確認テスト:** | - | **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 研究を進めるために必要な準備と方向づけを行い、研究領域を選択することができる。(60~69点)
研究論文のテーマを設定し、研究計画を立てることができる。(80~100点)

---

**課題へのフィードバック:**

必要に応じて、口頭でフィードバックする。

---

**教科書:** なし

**参考書:** 学会誌や海外ジャーナル類などを適宜紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

院生として主体的に研究に取り組む態度が必要です。心理学に深い関心を持ち、深く考察しましょう。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00200003

**担当者:** 吉野 俊彦 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 提出された研究計画と春学期での議論を踏まえて、研究計画を検討することを目的とする。各自の関心に従って、授業時間以外に精読した先行論文を発表し、問題点を明らかにしながら、研究計画を具体化していく。

**到達目標:** 論文のより批判的な読み方ができるようになる。
引き出された問題点を、ディスカッションを通じて研究計画にまとめることができるようになる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション: 各自の研究の方向性の確認を行う
2. 先行論文の検索と紹介1: 各自の興味に基づいて先行論文を検索し，そのタイトル，内容の概要を発表する
3. 先行論文の検索と紹介2: 各自の興味に基づいて先行論文を検索し，そのタイトル，内容の概要を発表する
4. 先行論文の検索と紹介3: 各自の興味に基づいて先行論文を検索し，そのタイトル，内容の概要を発表する
5. 先行論文の精読と発表1: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
6. 先行論文の精読と発表2: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
7. 先行論文の精読と発表3: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
8. 先行論文の精読と発表4: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
9. 先行論文の精読と発表5: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
10. 先行論文の精読と発表6: 紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う
11. 研究計画の立案1: これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う
12. 研究計画の立案2: これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う
13. 研究計画の立案3: これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う
14. 研究計画の立案4: これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う
15. まとめ: 次年度に向けて残されている問題点の洗い出しと課題を確認する

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔で実施することがある。

---

**授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
2. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
3. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
4. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)
5. 資料の予習と発表準備 (120分) および復習 (60分)

6. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）
7. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）
8. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）
9. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）
10. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）
11. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）
12. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）
13. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）
14. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）
15. 資料の予習と発表準備（120分）および復習（60分）

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 50 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：**
授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

**課題へのフィードバック：**
授業への取り組みについては適宜、レポートについては、添削した上で次年度の春学期に返却する。

**教科書：** なし

**参考書：**
福澤一吉（2018). 新版議論のレッスン NHK生活人新書
戸田山 和久（2022). 論文の教室：レポートから卒論まで』（最新版）NHKブックス
木下是雄（1981). 理解系の作文技術 中公新書

**授業・準備学習のアドバイス：**
指示待ちでなく、積極的・自発的な活動を期待します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00200004

**担当者:** 松本 剛 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 臨床心理学に関する先行研究を精読し、諸理論や研究計画の立案、研究の遂行、分析方法について学習する。その後、各自のテーマにおける文献購読と具体的な研究計画の立案と検討を行う。

**到達目標:** 自らの研究計画に応じた方法論の習得と具体的な研究の進め方について先行研究から学び、研究計画を立案できる。

**各回の授業計画:**

1. 先行研究精読と発表①
2. 先行研究精読と発表②
3. 先行研究精読と発表③
4. 先行研究精読と発表④
5. 先行研究精読と発表⑤
6. 先行研究精読と発表⑥
7. 研究デザインの検討・発表①
8. 研究デザインの検討・発表②
9. 研究デザインの検討・発表③
10. 研究デザインの検討・発表④
11. 個別指導①
12. 個別指導②
13. 個別指導③
14. 個別指導④
15. 個別指導⑤

**特記事項:** なし

**授業方法:** 対面で授業を行う。

1. 討論
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. 個別指導

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 関心あるテーマの文献を読む(180分)
2. 関心あるテーマの文献を読む(180分)
3. 関心あるテーマの文献を読む(180分)
4. 関心あるテーマの文献を読む(180分)

5. 関心あるテーマの文献を読む（180分）
6. 関心あるテーマの文献を読む（180分）
7. 研究計画を考える（180分）研究方法
8. 研究計画を考える（180分）倫理面について
9. 研究計画を考える（180分）調査方法について
10. 研究計画を考える（180分）分析方法について
11. 修士論文の流れを考える（180分）
12. 修士論文の流れを考える（180分）
13. 修士論文の流れを考える（180分）
14. 修士論文の流れを考える（180分）
15. 修士論文の流れを考える（180分）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 修士論文の計画を作成し、計画通りに進める（60～69点）
修士論文について質の高い研究計画を作成し、主体的に研究を進めている（80～100点）

---

**課題へのフィードバック：**

希望者に口頭でフィードバック

---

**教科書：** 学会誌など適宜紹介

**参考書：** 学会誌など適宜紹介

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

主体的な研究姿勢、積極的に学びに取り組んでいく情熱を期待しています。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00200005

**担当者:** 三井 知代 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** 臨床心理学分野における研究方法を理解し、自らの研究テーマに沿って先行研究を概観する。その上で研究テーマを決定し、研究計画の立案を行う。

**到達目標:** 先行研究を概観する中で、自らの研究テーマに応じた研究方法を選択し、具体的な研究計画を立案できる

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 文献講読と発表（1）
3. 文献講読と発表（2）
4. 文献講読と発表（3）
5. 文献講読と発表（4）
6. 文献講読と発表（5）
7. 研究デザインの検討と発表（1）
8. 研究デザインの検討と発表（2）
9. 研究デザインの検討と発表（3）
10. 研究デザインの検討と発表（4）
11. 個別指導（1）
12. 個別指導（2）
13. 個別指導（3）
14. 個別指導（4）
15. 個別指導（5）

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 基本的に対面で行うが、必要に応じてオンラインで行うこともある。

1. 講義
2. 講義とディスカッション
3. 講義とディスカッション
4. 講義とディスカッション
5. 講義とディスカッション
6. 講義とディスカッション
7. 講義とディスカッション
8. 講義とディスカッション
9. 講義とディスカッション
10. 講義とディスカッション
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. 個別指導

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 文献を読む（180分）
2. 文献を読む（180分）
3. 文献を読む（180分）
4. 文献を読む（180分）

5. 文献を読む（180分）
6. 文献を読む（180分）
7. 研究計画を検討する（180分）
8. 研究計画を検討する（180分）
9. 研究計画を検討する（180分）
10. 研究計画を検討する（180分）
11. 論文の流れを考える（180分）
12. 論文の流れを考える（180分）
13. 論文の流れを考える（180分）
14. 論文の流れを考える（180分）
15. 論文の流れを考える（180分）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 60～69点：修士論文作成の実行可能な計画を作成している
80～100点：修士論文作成の緻密な研究計画を作成し、それに従って主体的に研究を進めている

---

**課題へのフィードバック：**

発表時に適宜フィードバックを行う

---

**教科書：** なし

**参考書：** 授業内で紹介します

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

数多くの先行研究を精読することにより、適切な研究計画が立案できます。研究の基盤をしっかりと固めてください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00300001

**担当者:** 吉田 圭吾 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 各自の修士論文のテーマに応じて臨床心理学分野の先行研究をよく理解し、研究計画を進め、調査などを通してデータの収集と分析を行い、修士論文として完成させることを目的とする。

**到達目標:** 修士論文を完成させることを目標とする。

**各回の授業計画:**

1. 修士論文の研究計画発表と確認①
2. 修士論文の研究計画発表と確認②
3. 修士論文の研究計画発表と確認③
4. 修士論文の研究計画発表と確認④
5. 修士論文の研究計画発表と確認⑤
6. 修士論文の研究計画発表と確認⑥
7. 修士論文の研究計画発表と確認⑦
8. 修士論文の研究計画発表と確認⑧
9. 修士論文のデータの収集と分析①
10. 修士論文のデータの収集と分析②
11. 修士論文のデータの収集と分析③
12. 修士論文のデータの収集と分析④
13. 修士論文のデータの収集と分析⑤
14. 修士論文のデータの収集と分析⑥
15. まとめ

**特記事項:** なし

**授業方法:** 基本的に対面授業を行うが、必要に応じてオンライン授業も行う。

1. 論文指導
2. 論文指導
3. 論文指導
4. 論文指導
5. 論文指導
6. 論文指導
7. 論文指導
8. 論文指導
9. 論文指導
10. 論文指導
11. 論文指導
12. 論文指導
13. 論文指導
14. 論文指導
15. 論文指導

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 修士論文の作成(180分)
2. 修士論文の作成(180分)
3. 修士論文の作成(180分)
4. 修士論文の作成(180分)

5. 修士論文の作成(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の作成(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 修士論文の作成(180分)
10. 修士論文の作成(180分)
11. 修士論文の作成(180分)
12. 修士論文の作成(180分)
13. 修士論文の作成(180分)
14. 修士論文の作成(180分)
15. 修士論文の作成(180分)

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 **%** | **確認テスト:** | − **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 臨床心理学分野の先行研究をよく理解し、研究計画を進めることができる。(60~69点)
修士論文を完成させることができる。(80~100点)

---

**課題へのフィードバック:**

課題へのフィードバックは、課題を発表させたりなどして、全体的な評価をおこなう。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

院生として主体的に研究に取り組む態度が必要です。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00300002

**担当者:** 吉野 俊彦 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

**到達目標:** 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

**各回の授業計画:**

1. 研究計画の確認
2. より明確な論文の書き方1
3. より明確な論文の書き方2
4. より明確な論文の書き方3
論文全体の構成の仕方、ブレインストーミングから各部分の文章の構成の仕方について、ワークを行う。
5. データの収集1
6. データの収集2
7. データの収集3
8. データの収集4
9. データの収集5
実験・調査・観察などを行い、随時報告を行う。
10. 中間報告の準備1
11. 中間報告の準備2
12. 中間報告の準備3
得られたデータを分析し、中間報告に向けての準備を行う。
13. 中間報告（予定）
全体会での中間報告を行う。
14. 改善点の検討1
中間報告を受けて、各自の問題点を洗い出し、議論を深める。
15. まとめと秋学期に向けての課題の特定
前回の議論に基づいて、残されている課題を特定し、その対応を考える。

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。

**授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する（各回4時間）

---

**評価方法：**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | 議論の整合性 | | 50 **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

---

**課題へのフィードバック：**

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

---

**教科書：** なし

**参考書：** 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士，公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00300003

**担当者:** 松本 剛 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

**到達目標:** 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

**各回の授業計画:**

1. 研究計画の確認
2. より明確な論文の書き方1
3. より明確な論文の書き方2
4. より明確な論文の書き方3
論文全体の構成の仕方、ブレインストーミングから各部分の文章の構成の仕方について、ワークを行う。
5. データの収集1
6. データの収集2
7. データの収集3
8. データの収集4
9. データの収集5
実験・調査・観察などを行い、随時報告を行う。
10. 中間報告の準備1
11. 中間報告の準備2
12. 中間報告の準備3
得られたデータを分析し、中間報告に向けての準備を行う。
13. 中間報告（予定）
全体会での中間報告を行う。
14. 改善点の検討1
中間報告を受けて、各自の問題点を洗い出し、議論を深める。
15. まとめと秋学期に向けての課題の特定
前回の議論に基づいて、残されている課題を特定し、その対応を考える。

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。

**授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する（各回4時間）

---

**評価方法：**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | 議論の整合性 | | 50 **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

---

**課題へのフィードバック：**

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

---

**教科書：** なし

**参考書：** 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士，公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00300004

**担当者:** 三井 知代 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 各自の研究テーマや目的に基づいた研究計画に応じて，調査などを通したデータの収集と分析を行い，修士論文の作成ができるレベルに到達する。

**到達目標:** 研究のテーマや目的に沿った研究方法による調査等を通して，データの収集と分析を完成することができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション（心理臨床学演習Ⅱの振り返り）
2. 研究のテーマ・目的・方法の確認(1)
3. 研究のテーマ・目的・方法の確認(2)
4. 研究のテーマ・目的・方法の確認(3)
5. データの収集(1)
6. データの収集(2)
7. データの収集(3)
8. データの分析(1)
9. データの分析(2)
10. データの分析(3)
11. データの検討(1)
12. データの検討(2)
13. 中間発表(1)
14. 中間発表(2)
15. まとめ（心理臨床学演習Ⅳに向けて）

**特記事項:** なし

**授業方法:** 対面で授業を行う。
1. 講義・討議
2. 講義・発表・討議
3. 発表・討議
4. 発表・討議
5. 講義・発表・討議
6. 発表・討議
7. 発表・討議
8. 講義・発表・討議
9. 発表・討議
10. 発表・討議
11. 発表・討議
12. 発表・討議
13. 発表・討議
14. 発表・討議
15. 討議

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 復習（180分）
2. 研究目的・テーマ・方法の検討（180分）
3. 研究目的・テーマ・方法の検討（180分）
4. 研究目的・テーマ・方法の検討（180分）

5. データ収集の検討(180分)
6. データ収集の検討(180分)
7. データ収集の検討(180分)
8. データの分析(180分)
9. データの分析(180分)
10. データの分析(180分)
11. データの総合的検討(180分)
12. データの総合的検討(180分)
13. 研究全体の検討(180分)
14. 研究全体の検討(180分)
15. 修士論文の完成に向けた検討(180分)

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 60 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 自らの研究テーマ・目的・方法に沿ったデータの収集ができる。(60～69点)
収集したデータを適切に分析することができる。(80～100点)

---

**課題へのフィードバック:**

各自のテーマに沿って，適宜フィードバックを行う。

---

**教科書:** 特になし

**参考書:** 各自の研究テーマに応じて，適宜紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

各自のテーマに沿って，適宜フィードバックを行う。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00400001

**担当者:** 吉田 圭吾 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 各自の修士論文のテーマに応じて臨床心理学分野の先行研究をよく理解し、研究計画を進め、調査などを通してデータの収集と分析を行い、修士論文として完成させることを目的とする。

**到達目標:** 修士論文を完成させることを目標とする。

**各回の授業計画:**

1. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換①
2. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換②
3. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換③
4. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換④
5. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑤
6. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑥
7. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑦
8. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑧
9. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑨
10. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑩
11. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑪
12. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑫
13. 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑬
14. 最終確認
15. まとめ

**特記事項:** なし

**授業方法:** すべての授業を対面で行う。

1. 論文の発表と指導
2. 論文の発表と指導
3. 論文の発表と指導
4. 論文の発表と指導
5. 論文の発表と指導
6. 論文の発表と指導
7. 論文の発表と指導
8. 論文の発表と指導
9. 論文の発表と指導
10. 論文の発表と指導
11. 論文の発表と指導
12. 論文の発表と指導
13. 論文の発表と指導
14. 論文の発表と指導
15. 論文の発表と指導

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 修士論文の作成(180分)
2. 修士論文の作成(180分)
3. 修士論文の作成(180分)
4. 修士論文の作成(180分)

5. 修士論文の作成（180分）
6. 修士論文の作成（180分）
7. 修士論文の作成（180分）
8. 修士論文の作成（180分）
9. 修士論文の作成（180分）
10. 修士論文の作成（180分）
11. 修士論文の作成（180分）
12. 修士論文の作成（180分）
13. 修士論文の作成（180分）
14. 修士論文のまとめ（180分）
15. 修士論文のまとめ（180分）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | 50 **%** |
| **その他1：** | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 臨床心理学分野の先行研究を理解し、研究計画を進めることができる。（60~69点）
修士論文を完成させることができる。（80~100点）

---

**課題へのフィードバック：**

課題のフィードバックは、課題を発表させるなどして、全体的な評価をおこなう。

---

**教科書：** なし

**参考書：** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

院生として主体的に研究に取り組む態度が必要です。種々の心理学に対する深い関心、自分のテーマに関する深い考察をしましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00400002

**担当者:** 吉野 俊彦 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って，データの収集と分析を行い，論文として完成させる。

**到達目標:** 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

**各回の授業計画:**

1. ゼミ内中間報告1
2. ゼミ内中間報告2
3. ゼミ内中間報告3
取り組んだ課題を含んで，再度詳細な中間報告を行い，議論する。
4. より明確な論文の書き方1
5. より明確な論文の書き方2
6. より明確な論文の書き方3
春学期での復習と各自の到達度に応じて、よりわかりやすい文章の書き方を練習する。
7. データの読み方1
8. データの読み方2
9. データの読み方3
10. データの読み方4
11. データの読み方5
12. データの読み方6
各自の得られたデータと先行研究との関係についてディスカッションし、目的に対応した結論を得るための準備を行う。
13. 論文の完成とその確認
完成された論文をゼミ内で提出し、最終確認を行う。
14. 発表1
15. 発表2
各自の論文について発表し、さらに今後の研究へとつながる問題について議論する。

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。

---

**授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する（各回4時間）

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | 議論の整合性 | | | 50 | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：**

授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

**課題へのフィードバック：**

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

**教科書：** なし

**参考書：** 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士，公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00400003

**担当者:** 松本 剛 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って，データの収集と分析を行い，論文として完成させる。

**到達目標:** 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

**各回の授業計画:**

1. ゼミ内中間報告1
2. ゼミ内中間報告2
3. ゼミ内中間報告3
取り組んだ課題を含んで，再度詳細な中間報告を行い，議論する。
4. より明確な論文の書き方1
5. より明確な論文の書き方2
6. より明確な論文の書き方3
春学期での復習と各自の到達度に応じて、よりわかりやすい文章の書き方を練習する。
7. データの読み方1
8. データの読み方2
9. データの読み方3
10. データの読み方4
11. データの読み方5
12. データの読み方6
各自の得られたデータと先行研究との関係についてディスカッションし、目的に対応した結論を得るための準備を行う。
13. 論文の完成とその確認
完成された論文をゼミ内で提出し、最終確認を行う。
14. 発表1
15. 発表2
各自の論文について発表し、さらに今後の研究へとつながる問題について議論する。

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。

**授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する（各回4時間）

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | 議論の整合性 | | | 50 | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：** 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

**課題へのフィードバック：**

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

**教科書：** なし

**参考書：** 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士，公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理臨床学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BJ00400004

**担当者:** 三井 知代 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** これまでの研究の成果をもとに，質の高い修士論文を完成させる。

**到達目標:** これまでの研究をもとにして，質の高い修士論文を完成することができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション（心理臨床学演習Ⅲの振り返り）
2. 修士論文の内容の最終確認(1)
3. 修士論文の内容の最終確認(2)
4. 修士論文の内容の最終確認(3)
5. 修士論文の作成(1)
6. 修士論文の作成(2)
7. 修士論文の作成(3)
8. 修士論文の作成(4)
9. 修士論文の推敲(1)
10. 修士論文の推敲(2)
11. 修士論文の推敲 (3)
12. 修士論文の推敲(4)
13. 口頭試問に向けて(1)
14. 口頭試問に向けて(2)
15. まとめ（研究の振り返りと今後の展望）

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 対面で授業を行う。

1. 講義・討議
2. 発表・討議
3. 発表・討議
4. 発表・討議
5. 発表・討議
6. 発表・討議
7. 発表・討議
8. 発表・討議
9. 発表・討議
10. 発表・討議
11. 発表・討議
12. 発表・討議
13. 講義・発表・討議
14. 講義・発表・討議
15. 討議

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 復習（180分）
2. 研究内容の最終確認（180分）
3. 研究内容の最終確認（180分）
4. 研究内容の最終確認（180分）

5. 修士論文の作成(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の作成(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 作成した論文の推敲(180分)
10. 作成した論文の推敲(180分)
11. 作成した論文の推敲(180分)
12. 作成した論文の推敲(180分)
13. 口頭試問の準備(180分)
14. 口頭試問の準備(180分)
15. これまでの研究の整理と展望(180分)

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 研究を論文としてまとめることができる。(60～69点)
質の高い論文を作成することができる。(80～100点)

---

**課題へのフィードバック:**

各自のテーマに沿って，適宜フィードバックを行う。

---

**教科書:** 特になし

**参考書:** 各自の研究テーマに応じて，適宜紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

修士論文作成の最終段階です。質の高い論文となるよう，広い視野をもつとともに細部にも細心の注意を払って，論文作成に取り組みましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ10100001

**担当者:** 吉田 圭吾 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** 担当教員による院生の個別指導と心理臨床学専攻の全教員、全院生参加による課題研究を目的とする。

**到達目標:** 各院生の設定したテーマ・研究方法・データ分析などが適切に行われているかどうかについて検討し、各院生が質の高い修士論文を執筆できるようにすることを目標とする。

**各回の授業計画:**

1. 修士論文の年間スケジュールに関する全体討議
2. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討①
3. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討②
4. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討③
5. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討④
6. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑤
7. 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑥
8. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション①
9. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション②
10. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション③
11. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション④
12. 修士論文の研究デザインに関するディスカッション⑤
13. 修士論文の調査に関する指導①
14. 修士論文の調査に関する指導②
15. 修士論文の中間発表（予定）

**特記事項:** （授業方法）オリエンテーション段階、促進段階と最終段階と3段階に分け、それぞれ特色のある演習を行う。
（授業計画）課題ごとの研究発表を心理臨床学専攻の教員、院生参加による発表・討議形式およびグループ・ディスカッション方式によって行う。

---

**授業方法:** すべての授業を対面で行う。

1. 論文発表と指導
2. 論文発表と指導
3. 論文発表と指導
4. 論文発表と指導
5. 論文発表と指導
6. 論文発表と指導
7. 論文発表と指導
8. 論文発表と指導
9. 論文発表と指導
10. 論文発表と指導
11. 論文発表と指導
12. 論文発表と指導
13. 論文発表と指導
14. 論文発表と指導
15. 論文発表と指導

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 修士論文の作成（180分）
2. 修士論文の作成（180分）

3. 修士論文の作成(180分)
4. 修士論文の作成(180分)
5. 修士論文の作成(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の作成(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 修士論文の作成(180分)
10. 修士論文の作成(180分)
11. 修士論文の作成(180分)
12. 修士論文の作成(180分)
13. 修士論文の作成(180分)
14. 修士論文の作成(180分)
15. 修士論文の作成(180分)

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 **%** | **確認テスト:** | − **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 自分の設定したテーマ、研究方法、データ分析などを適切に行うことができる。(60~69点)
質の高い修士論文を執筆することができる。(80~100点)

---

**課題へのフィードバック:**

課題へのフィードバックは、課題を発表させたりなどして、全体的な評価をおこなう。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

総合的な思考力を養うための課題演習であるので頑張ってください。また相互ディスカッションも活発に行いましょう。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ10100002

**担当者:** 吉野 俊彦 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 心理臨床学演習Ⅲと平行して、研究のためのノウハウ、論文作成のためのノウハウを獲得することを目的とする。

**到達目標:**
修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

**各回の授業計画:**

1. 研究計画の確認
2. より明確な論文の書き方1
3. より明確な論文の書き方2
4. より明確な論文の書き方3
論文全体の構成の仕方、ブレインストーミングから各部分の文章の構成の仕方について、ワークを行う。
5. データの収集1
6. データの収集2
7. データの収集3
8. データの収集4
9. データの収集5
実験・調査・観察などを行い、随時報告を行う。
10. 中間報告の準備1
11. 中間報告の準備2
12. 中間報告の準備3
得られたデータを分析し、中間報告に向けての準備を行う。
13. 中間報告
全体会での中間報告を行う。
14. 改善点の検討1
中間報告を受けて、各自の問題点を洗い出し、議論を深める。
15. まとめと秋学期に向けての課題の特定
前回の議論に基づいて、残されている課題を特定し、その対応を考える。

**特記事項:** (授業方法)発表とディスカッションによって進める。
対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。また、随時個別指導を行う。

**授業方法:** 1～15を通じて、学生からの質問、疑問について議論することを中心に置く。特に学生からの論点の提起がない場合は、教員から提案する場合もある。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**
随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する(各回4時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 80 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | － **%** |
| **その他1:** 議論の整合性 | | | | 20 | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** 授業への取り組みは、以下に従って評価を決定する。
30～34 疑問点・論点の提案がさなれている。
35～39 他者からの疑問点・論点の議論に参加している。
40～44 上記の議論において妥当な意見を提案している。
45～50 上記の議論において建設的な意見を提案している。

その他の割合は、論文作成のルールの習得水準に基づいて評価する。

**課題へのフィードバック:**

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

**教科書:** なし

**参考書:** 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス:**

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士，公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ10100003

**担当者:** 松本 剛 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 心理臨床学演習Ⅲと平行して、研究のためのノウハウ、論文作成のためのノウハウを獲得することを目的とする。

**到達目標:** 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

**各回の授業計画:**

1. 研究計画の確認
2. より明確な論文の書き方1
3. より明確な論文の書き方2
4. より明確な論文の書き方3
論文全体の構成の仕方、ブレインストーミングから各部分の文章の構成の仕方について、ワークを行う。
5. データの収集1
6. データの収集2
7. データの収集3
8. データの収集4
9. データの収集5
実験・調査・観察などを行い、随時報告を行う。
10. 中間報告の準備1
11. 中間報告の準備2
12. 中間報告の準備3
得られたデータを分析し、中間報告に向けての準備を行う。
13. 中間報告
全体会での中間報告を行う。
14. 改善点の検討1
中間報告を受けて、各自の問題点を洗い出し、議論を深める。
15. まとめと秋学期に向けての課題の特定
前回の議論に基づいて、残されている課題を特定し、その対応を考える。

**特記事項:** (授業方法)発表とディスカッションによって進める。
対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。また、随時個別指導を行う。

**授業方法:** 1～15を通じて、学生からの質問、疑問について議論することを中心に置く。特に学生からの論点の提起がない場合は、教員から提案する場合もある。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する(各回4時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 80 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | － **%** |
| **その他1:** 議論の整合性 | | | | 20 | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** 授業への取り組みは、以下に従って評価を決定する。
30～34 疑問点・論点の提案がさなれている。
35～39 他者からの疑問点・論点の議論に参加している。
40～44 上記の議論において妥当な意見を提案している。
45～50 上記の議論において建設的な意見を提案している。

その他の割合は、論文作成のルールの習得水準に基づいて評価する。

**課題へのフィードバック:**

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

**教科書:** なし

**参考書:** 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス:**

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士，公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ10100004

**担当者:** 三井 知代 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** 心理臨床学演習Ⅲと平行して，各自の修士論文作成に必要な具体的な知識やスキルを身につけさせることを目的とする。

**到達目標:** 研究のテーマ・目的に沿った研究方法による調査等に必要となる知識やスキルを獲得することができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション（特別研究の意味）
2. 先行研究の収集(1)
3. 先行研究の収集(2)
4. 先行研究の収集(3)
5. 先行研究の検討(1)
6. 先行研究の検討(2)
7. 先行研究の検討(3)
8. 先行研究の検討(4)
9. 論文作成のポイント(1)
10. 論文作成のポイント(2)
11. 論文作成のポイント(3)
12. 論文作成のポイント(4)
13. 中間発表の内容の検討(1)
14. 中間発表の内容の検討(2)
15. まとめ（特別研究Ⅱに向けて）

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 対面で授業を行う。
1. 講義・討議
2. 発表・講義・討議
3. 発表・講義・討議
4. 発表・講義・討議
5. 発表・講義・討議
6. 発表・講義・討議
7. 発表・講義・討議
8. 発表・講義・討議
9. 発表・講義・討議
10. 発表・講義・討議
11. 発表・講義・討議
12. 発表・講義・討議
13. 発表・討議
14. 発表・討議
15. 討議

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 復習（180分）
2. 先行研究の収集 （180分）
3. 先行研究の収集（180分）
4. 先行研究の収集（180分）

5. 先行研究の分析(180分)
6. 先行研究の分析(180分)
7. 先行研究の分析(180分)
8. 先行研究の分析(180分)
9. 問題と目的の検討(180分)
10. 研究方法の検討(180分)
11. 研究結果の検討(180分)
12. 考察の検討(180分)
13. 中間発表の内容の作成(180分)
14. 中間発表の内容の作成(180分)
15. 修士論文の完成に向けた作業の確認(180分)

---

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **評価方法:** | **授業へのとりくみ:** | 70 **%** | **確認テスト:** | − **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| | **その他1:** | | | **%** | | |
| | **その他2:** | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 自らの研究テーマ・目的・方法に沿った論文作成のための知識やスキルを理解することができる(60～69点)
論文作成のための知識やスキルを適切に活用することができる(80～100点)

---

**課題へのフィードバック:**

各自のテーマに沿って，適宜フィードバックを行う。

---

**教科書:** 特になし

**参考書:** 各自の研究テーマに応じて，適宜紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

修士論文作成のための知識やスキルを正確に身につけることは，質の高い論文作成に不可欠です。しっかりした論文を構築するために，能動的な態度での学習を望みます。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ10200001

**担当者:** 吉田 圭吾 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** 担当教員による院生の個別指導と心理臨床学専攻の全教員、全院生参加による課題研究を目的とする。

**到達目標:** 各院生の設定したテーマ・研究方法・データ分析などが適切に行われているかどうかについて検討し、各院生が質の高い修士論文を完成できるようにすることを目標とする。

**各回の授業計画:**

1. 修士論文完成に向けての個人指導①
2. 修士論文完成に向けての個人指導②
3. 修士論文完成に向けての個人指導③
4. 修士論文完成に向けての個人指導④
5. 修士論文完成に向けての個人指導⑤
6. 修士論文完成に向けての個人指導⑥
7. 修士論文完成に向けての個人指導⑦
8. 修士論文完成に向けての個人指導⑧
9. 修士論文完成に向けての個人指導⑨
10. 修士論文完成に向けての個人指導⑩
11. 修士論文完成に向けての個人指導⑪
12. 修士論文完成に向けての個人指導⑫
13. 修士論文完成に向けての個人指導⑬
14. 修士論文の最終確認
15. 研究成果の総括

**特記事項:** (授業方法)オリエンテーション段階、促進段階と最終段階と3段階に分け、それぞれ特色のある演習を行う。
(授業計画)課題ごとの研究発表を心理臨床学専攻の教員、院生参加による発表・討議形式およびグループ・ディスカッション方式によって行う。

---

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う。

1. 論文の発表と指導
2. 論文の発表と指導
3. 論文の発表と指導
4. 論文の発表と指導
5. 論文の発表と指導
6. 論文の発表と指導
7. 論文の発表と指導
8. 論文の発表と指導
9. 論文の発表と指導
10. 論文の発表と指導
11. 論文の発表と指導
12. 論文の発表と指導
13. 論文の発表と指導
14. 論文の発表と指導
15. 論文の発表と指導

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 修士論文の作成(180分)
2. 修士論文の作成(180分)

3. 修士論文の作成(180分)
4. 修士論文の作成(180分)
5. 修士論文の作成(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の作成(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 修士論文の作成(180分)
10. 修士論文の作成(180分)
11. 修士論文の作成(180分)
12. 修士論文の作成(180分)
13. 修士論文の作成(180分)
14. 修士論文のまとめ(180分)
15. 修士論文のまとめ(180分)

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 **%** | **確認テスト:** | − **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 自分の設定したテーマ、研究方法、データ分析などを適切に行うことができる。(60~69点)
質の高い修士論文を執筆することができる。(80~100点)

---

**課題へのフィードバック:**

課題へのフィードバックは、課題を発表させるなどして、全体的な評価をおこなう。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

総合的な思考力を養うための課題演習であるので頑張ってください。また、相互ディスカッションも活発に行いましょう。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ10200002

**担当者:** 吉野 俊彦 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

**到達目標:** 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

**各回の授業計画:**

1. ゼミ内中間報告1
2. ゼミ内中間報告2
3. ゼミ内中間報告3
取り組んだ課題を含んで、再度詳細な中間報告を行い、議論する。
4. より明確な論文の書き方1
5. より明確な論文の書き方2
6. より明確な論文の書き方3
春学期での復習と、各自の到達度に応じて、よりわかりやすい文章の書き方を練習する。
7. データの読み方1
8. データの読み方2
9. データの読み方3
10. データの読み方4
11. データの読み方5
12. データの読み方6
各自の得られたデータと先行研究との関係についてディスカッションし、目的に対応した結論を得るための準備を行う。
13. 論文の完成とその確認
完成された論文をゼミ内で提出し、最終確認を行う。
14. 発表1
15. 発表2
各自の論文について発表し、さらに今後の研究へとつながる問題について議論する。

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。
また随時個別指導も行う。

**授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する（各回4時間）

---

**評価方法：**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | 議論の整合性 | | 50 **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 授業への取り組みは、以下に従って評価を決定する。
30～34 疑問点・論点の提案がさなれている。
35～39 他者からの疑問点・論点の議論に参加している。
40～44 上記の議論において妥当な意見を提案している。
45～50 上記の議論において建設的な意見を提案している。
その他の割合は、統計学の適用を含めた論文作成のルールの習得水準に基づいて評価する。

---

**課題へのフィードバック：**

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

---

**教科書：** なし

**参考書：** 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士，公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ10200003

**担当者:** 松本 剛 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

**到達目標:** 修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

**各回の授業計画:**

1. ゼミ内中間報告1
2. ゼミ内中間報告2
3. ゼミ内中間報告3
取り組んだ課題を含んで、再度詳細な中間報告を行い、議論する。
4. より明確な論文の書き方1
5. より明確な論文の書き方2
6. より明確な論文の書き方3
春学期での復習と、各自の到達度に応じて、よりわかりやすい文章の書き方を練習する。
7. データの読み方1
8. データの読み方2
9. データの読み方3
10. データの読み方4
11. データの読み方5
12. データの読み方6
各自の得られたデータと先行研究との関係についてディスカッションし、目的に対応した結論を得るための準備を行う。
13. 論文の完成とその確認
完成された論文をゼミ内で提出し、最終確認を行う。
14. 発表1
15. 発表2
各自の論文について発表し、さらに今後の研究へとつながる問題について議論する。

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔での参加を許可することがある。
また随時個別指導も行う。

**授業方法:**
1. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
2. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
3. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
4. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
5. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
6. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
7. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
8. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
9. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
10. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
11. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
12. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
13. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
14. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。
15. 学生主導を原則として、発表を中心としたディスカッション。必要に応じて教員からの説明を加える。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

随時できるだけ多くの時間を充てること。授業計画と対応した予習や復習を指定する（各回4時間）

---

**評価方法：**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | 議論の整合性 | | 50 **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 授業への取り組みは、以下に従って評価を決定する。
30～34 疑問点・論点の提案がさなれている。
35～39 他者からの疑問点・論点の議論に参加している。
40～44 上記の議論において妥当な意見を提案している。
45～50 上記の議論において建設的な意見を提案している。
その他の割合は、統計学の適用を含めた論文作成のルールの習得水準に基づいて評価する。

---

**課題へのフィードバック：**

個人からの請求に基づいてフィードバックする。全体へのフィードバックは行わない。

---

**教科書：** なし

**参考書：** 進捗に応じて適宜論文や書籍を紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士，公認心理師として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ10200004

**担当者:** 三井 知代 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 心理臨床学演習Ⅳと平行して，各自の論文作成の進度に合わせた指導を受けることを通して，質の高い修士論文を完成させる。

**到達目標:** 論文作成の進度に沿った学びを通して，質の高い修士論文を完成することができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション（特別研究Ⅰの振り返り）
2. 各自の論文作成の進度に沿った個人指導(1)
3. 全体での論文の検討(1)
4. 各自の論文作成の進度に沿った個人指導(2)
5. 全体での論文の検討(2)
6. 各自の論文作成の進度に沿った個人指導(3)
7. 全体での論文の検討(3)
8. 各自の論文作成の進度に沿った個人指導(4)
9. 全体での論文の検討(4)
10. 各自の論文作成の進度に沿った個人指導(5)
11. 全体での論文の検討(5)
12. 各自の論文作成の進度に沿った個人指導(6)
13. 修士論文の最終確認(1)
14. 修士論文の最終確認(2)
15. まとめ（研究の総括）

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 対面で授業を行う。

1. 講義・討議
2. 発表・討議
3. 発表・討議
4. 発表・討議
5. 発表・討議
6. 発表・討議
7. 発表・討議
8. 発表・討議
9. 発表・討議
10. 発表・討議
11. 発表・討議
12. 発表・討議
13. 発表・討議
14. 発表・討議
15. 討議

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 復習（180分）
2. 修士論文の作成（180分）
3. 修士論文の検討（180分）
4. 修士論文の作成（180分）

5. 修士論文の検討(180分)
6. 修士論文の作成(180分)
7. 修士論文の検討(180分)
8. 修士論文の作成(180分)
9. 修士論文の検討(180分)
10. 修士論文の作成(180分)
11. 修士論文の検討(180分)
12. 修士論文の作成(180分)
13. 修士論文の確認(180分)
14. 修士論文の確認(180分)
15. 修士論文の振り返りと今後の活用(180分)

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 自らの研究テーマ・目的・方法に沿った論文を完成させることができる(60～69点)
論理性や独自性などに優れた，総合的に質の高い論文を完成させることができる(80～100点)

---

**課題へのフィードバック:**

各自のテーマに沿って，適宜フィードバックを行う。

---

**教科書:** 特になし

**参考書:** 各自の研究テーマに応じて，適宜紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

これまでの研究の成果としての修士論文を完成させる時期です。理論的にも実践的にも意味のある質の高い論文を期待します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理学特論Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ20100001

**担当者:** 吉野 俊彦 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 臨床心理学は、科学、理論、実践とを統合して人間の行動や心的過程の問題に関わる学問である。この授業では、科学者−実践者モデルに軸足を置いて、臨床心理学という学問がどのような体系から成り立っているかを理解することを目的とする。

**到達目標:**
1. 臨床心理学の基本構造と体系を把握すること。
2. 臨床心理学が科学的な研究活動と説明責任を果たすことのできる実践活動とに支えられていることを理解する。
3. 臨床心理学を支えている基本的な理論の概要を理解する。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学の全体構造、カウンセリング・心理療法・臨床心理学の違い
3. 世界の臨床心理学と日本の臨床心理学
4. 臨床心理学における実践活動と研究活動
5. 臨床心理学の基本理論(1) ナラティブ・アプローチ、社会構成主義
6. 臨床心理学の基本理論(2) エンパワーメント、エビデンス・ベイスト・アプローチ
7. 臨床心理学の基本理論(3) 科学者−実践者モデル
8. 臨床心理学の基本理論(4) 生物−心理−社会モデル
9. 臨床心理学の基本理論(5) 実践の全体像
10. アセスメントの目的と技法
11. 様々な介入技法
12. 臨床心理学における一般化と個別性
13. 臨床心理学における社会的責任
14. 臨床心理士になるために
15. まとめ

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，遠隔で実施することがある。

**授業方法:**
1. 講義
2. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
3. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
4. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
5. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
6. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
7. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
8. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
9. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
10. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
11. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
12. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
13. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
14. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。
15. 発表とディスカッション。必要に応じて講義。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 学部で使用した教科書参考書を用いて臨床心理学についての復習 (90分)、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
2. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分) 、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
3. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分) 、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。
4. 計画に示されている内容について教科書の予習 (90分) 、学んだ内容との違いについての復習 (90分)。

5. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
6. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
7. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
8. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
9. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
10. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
11. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
12. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
13. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
14. 計画に示されている内容について教科書の予習（90分）、学んだ内容との違いについての復習（90分）。
15. これまで学んだ内容に基づいたレポート作成の準備（180分）。

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 40 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 60 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：**

授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
36～41 課題のまとめがなされている。
42～47 過不足のないまとめとなっている。
48～53 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
54～60 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

**課題へのフィードバック：**

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。全体へのフィードバックは行わない。

**教科書：**

なし

**参考書：**

松見淳子・原田隆（編）(2023). 現代の臨床心理学1 臨床心理学 専門職の基盤から
下山晴彦・中嶋義文（編）(2016) 精神医療・臨床心理の知識と技法 医学書院
伊藤 絵美・坂本 真士・杉山 崇（編）(2011). 事例でわかる心理学のうまい活かし方−基礎心理学の臨床的ふだん使い 金剛出版

**授業・準備学習のアドバイス：**

臨床心理学=カウンセリングと誤解している人がいるかもしれません。また、臨床心理学を学ぶことはテクニックを学ぶことではありません。
現代の臨床心理学の全体像をきちんと把握するためにも、自ら積極的に学んで下さい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理学特論Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ20200001

**担当者:** 吉田 圭吾 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:担当教員は兵庫県のスクールカウンセラーとして20年、スクールカウンセラーのスーパーバイザーとして9年間、学生相談員として26年の臨床経験があり、その勤務経験を活かし、具体的な事例を交えながら実務の視点も積極的に取り入れた授業を実施します。

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 臨床心理学における思春期の子どもの理解に必要な「心の窓」についてまず、ユング心理学、ウィニコット移行対象理論、プロット・物語論、神話学など理論的に学び、続いて具体的な「心の窓」の題材として、小説、ドラマ、漫画、アニメ、映画、音楽、絵本、児童文学、昔話、神話などを取り上げ、解説すると共に、その題材が、その題材を好きな人にとって持つ意味を感じたり、考え、それぞれの履修者同士の受け止め方の違い、感性の違いを体験的に理解し、種々の題材を、様々な感性で受け止めることを通して、思春期の子どもの心理を、その子どもが夢中になっている題材を通して理解することを目的とする。

**到達目標:** 臨床心理士・公認心理師について、その職能と社会性についての理解を確立し、種々の臨床場面で柔軟な対応ができるようにすること。

**各回の授業計画:**

1. 臨床心理学における「心の窓」について、主にユング心理学、ウィニコット移行対象理論、プロット・物語論、神話学などの理論を通して学ぶ。
2. 「心の窓」題材①の解説とディスカッション
3. 「心の窓」題材②の解説とディスカッション
4. 「心の窓」題材③の解説とディスカッション
5. 「心の窓」題材④の解説とディスカッション
6. 「心の窓」題材⑤の解説とディスカッション
7. 「心の窓」題材⑥の解説とディスカッション
8. 「心の窓」題材⑦の解説とディスカッション
9. 「心の窓」題材⑧の解説とディスカッション
10. 「心の窓」題材⑨の解説とディスカッション
11. 「心の窓」題材⑩の解説とディスカッション
12. 「心の窓」題材⑪の解説とディスカッション
13. 「心の窓」題材⑫の解説とディスカッション
14. 「心の窓」題材⑬の解説とディスカッション
15. 「心の窓」についてのまとめとレポート

**特記事項:** なし

**授業方法:** 基本的には対面で演習形式で行うが、場合によって適宜オンラインで行う。
1. 課題と発表
2. 課題と発表
3. 課題と発表
4. 課題と発表
5. 課題と発表
6. 課題と発表
7. 課題と発表
8. 課題と発表
9. 課題と発表
10. レポート発表とディスカッション
11. レポート発表とディスカッション
12. レポート発表とディスカッション
13. レポート発表とディスカッション
14. レポート発表とディスカッション
15. レポート作成

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. 課題解決（180分）（臨床心理学における「心の窓」の基本について）
2. 課題解決（180分）（「心の窓」題材①の解説と意味）
3. 課題解決（180分）（「心の窓」題材②の解説と意味）
4. 課題解決（180分）（「心の窓」題材③の解説と意味）
5. 課題解決（180分）（「心の窓」題材④の解説と意味）
6. 課題解決（180分）（「心の窓」題材⑤の解説と意味）
7. 課題解決（180分）（「心の窓」題材⑥の解説と意味）
8. 課題解決（180分）（「心の窓」題材⑦の解説と意味）
9. 課題解決（180分）（「心の窓」題材⑧の解説と意味）
10. 課題解決（180分）（「心の窓」題材⑨の解説と意味）
11. 課題解決（180分）（「心の窓」題材⑩の解説と意味）
12. 課題解決（180分）（「心の窓」題材⑪の解説と意味）
13. 課題解決（180分）（「心の窓」題材⑫の解説と意味）
14. 課題解決（180分）（「心の窓」題材⑬の解説と意味）
15. レポート作成と「心の窓」についてのまとめ

---

| **評価方法：** | **授業へのとりくみ：** | 50 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | 50 **%** |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | **その他1：** | | | **%** | | |
| | **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 臨床心理士・公認心理師について、その職能と社会性について理解できる。（60~69点）
臨床心理士・公認心理師について、その職能と社会性について理解でき、種々の臨床場面で柔軟な対応ができる。（80~100点）

---

**課題へのフィードバック：**

課題へのフィードバックは、課題を発表させたりなどして、全体的な評価をおこなう。

---

**教科書：** なし（随時、資料配布）

**参考書：** なし(随時、資料配布)

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

臨床心理学関係の文献をなるべくたくさん読むようにしましょう。それを基に自由に臨床査定、精神医学的診断、心理療法などについて生き生きと議論しましょう。
8回目と15回目に課題レポートを実施（時間：30分、配点：50点）

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

**クラス:**

**授業コード:** BJ21100001

**担当者:** 松本 剛 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 臨床心理面接の基盤となる考え方や重要なポイントを整理し，そのうえで面接の基本的な方法やスキルについての理解を深める。

**到達目標:** 臨床心理面接の基盤となる考え方をもとに，面接の基本的な方法を理解することができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション 授業の方法について紹介します。臨床心理面接の位置づけとその留意点について話し合います。
2. 臨床心理面接とは 臨床心理面接・カウンセリング面接の特徴について紹介します。それをもとに話し合います。
3. 面接の構造 臨床心理面接の要素について講義します。臨床心理面接の共通要因とさまざまな対象に応じた独自要因について考えます。
4. 面接の構造の検討 臨床心理面接のプロセスについて紹介します。話し合いにより理解を深めます。
5. インテーク面接とは 面接を始めるにあたって行われるインテーク面接の重要性について考えます。また、インテーク面談に活かすことができる傾聴や質問について演習します。
6. 見立て・アセスメントと初回面接の検討 クライエントとの面接を進めるにあたって必要な、アセスメントとその際に必要な技法について考えます。また、初回面接の役割について知り、その際の関係性の構築について考えます。
7. 臨床心理面接の展開・ 治療（サイコセラピー）関係1 さまざまな臨床心理面接に関する関係性の持ち方について紹介します。特に、ロジャーズとその臨床展開にふれます。
8. 臨床心理面接の展開・ 治療（サイコセラピー）関係2 さまざまな臨床心理面接に関する関係性の持ち方について紹介します。特に、遊戯療法の特徴と諸理論について考えます。
9. 臨床心理面接の展開・ 心理治療（サイコセラピー）関係3 さまざまな臨床心理面接・治療関係を深めるための技法や関係性について考えます。特に、集団療法について考えます。
10. 心理治療（サイコセラピー）関係の検討 治療関係を深めるための技法について考えます。
11. 治療（サイコセラピー）関係の展開1 臨床心理面接を進めるにあたって必要な心理療法について概説し、話し合います。
12. 治療（サイコセラピー）関係の展開2 臨床心理面接を進めるにあたって必要なセラピストとクライエントの関係について演習しながら考えます 。
13. 治療（サイコセラピー）関係の展開3 臨床心理面接を進め、終結にるに至るにあたって必要なセラピストとクライエントのセラピー関係について考えます 。
14. 守秘義務等の倫理的課題、終結・中断、事後面接について 臨床心理面接を進めるにあたって必要な倫理的課題について紹介し、話し合います。また、臨床心理面接の終わり方、事後面接について考えます。
15. まとめ（臨床心理面接に関わる総合的な議論）

**特記事項:** なし

**授業方法:** 対面で授業を行う。
1. 講義・討議
2. 講義・討議・発表・レポート
3. 講義・討議・発表・レポート
4. 講義・討議・発表・レポート
5. 講義・討議・発表・レポート
6. 講義・討議・発表・レポート
7. 講義・討議・発表・レポート
8. 講義・討議・発表・レポート
9. 講義・討議・発表・レポート
10. 講義・討議・発表・レポート
11. 講義・討議・発表・レポート
12. 講義・討議・発表・レポート
13. 講義・討議・発表・レポート
14. 講義・討議・発表・レポート

15. 討議・全体レポート

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. これまでの臨床心理面接に関する学習の振り返り（180分）
2. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
3. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
4. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
5. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
6. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
7. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
8. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
9. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
10. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
11. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
12. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
13. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
14. 講義の事前視聴（on demand）・授業内容の検討レポート（180分）
15. 課題の整理（総合レポート）（180分）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 臨床心理面接の基盤となる考え方を理解できる。（60～69点）
面接の実践力の基礎を身につけることができる。（80～100点）

---

**課題へのフィードバック：**

必要に応じて，適宜，個別または全体にフィードバックする。

---

**教科書：** 特になし。

**参考書：** 授業において，適宜紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

具体的な面接場面をイメージし，自らがカウンセラーやクライエントになったときに必要な心構えや技法について学ぶ姿勢で授業に臨んでください。演習を適宜加えます。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理面接特論Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ21200001

**担当者:** 吉田 圭吾 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:担当教員は兵庫県のスクールカウンセラーとして20年、スクールカウンセラーのスーパーバイザーとして9年間、学生相談員として26年の臨床経験があり、その勤務経験を活かし、具体的な事例を交えながら実務の視点も積極的に取り入れた授業を実施します。

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 臨床心理面接とは，心理学的な立場からの対人支援の中心的な方法を指している。このような視座から，本授業の目的とは，教育現場における人が抱えるさまざまな心理社会的な課題とその支援としての面接のあり方について理解を深める。現代の教育現場である中学校において、不登校・摂食障害・いじめ・解離性障害・対人恐怖・リストカット症候群・アスペルガー障害、学習障害などの問題行動や異常心理、発達障害が表れることが増加してきており、スクールカウンセラーやカウンセリングルームの心理相談員がそれらの対応に迫られる機会が増えている。そのような問題行動や発達障害への心理相談員やスクールカウンセラーの対応の仕方、保護者との連携の仕方、校内の教育相談のシステムの作り方、教師とスクールカウンセラーとスクールサポーターとの連携の仕方などについて学ぶことを目標とする。

**到達目標:** 現代の教育現場における種々の問題を教師やカウンセラーとして解決していける、臨床心理的面接の基本的な知識及び態度を養うことを目標とする。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション(教育相談とは:学校現場における現状 )
資料に基づき、学校現場における教育相談やスクールカウンセリングの現状を説明する。
2. 現代の中高生の抱える問題
3. カウンセリングの原理(来談者中心療法)
4. サイコダイナミック・アプローチ
5. 教育現場における臨床心理面接の鉄則
6. 不登校生徒の心理
7. 教育現場における臨床心理面接に影響を与える性格特性
8. 教育現場における臨床心理面接の鉄則のまとめ
9. 子どもの発達段階における母親と父親
10. 不登校の生徒の心の成長
11. 思春期と摂食障害(拒食症)
12. 家族療法と心理療法
13. いじめとスクールカースト
14. 学校現場とLGBTQA+
15. 子育てのサポートネットワークとまとめ

**特記事項:** なし

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う。
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義・討議(対面)
4. 討議(対面)
5. 講義・討議(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義・討議・レポート(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義・討議(対面)
12. 講義(対面)
13. 講義・討議(対面)
14. 講義・討議(対面)
15. 講義 (対面)

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. これまでの学習の振り返り（180分）
2. 課題の検討（180分）
3. 課題の検討（180分）
4. 課題の検討（180分）
5. 課題の検討（180分）
6. 課題の検討（180分）
7. 課題の検討（180分）
8. 課題のレポート（180分）
9. 課題の検討（180分）
10. 課題（180分）
11. 課題の検討（180分）
12. 課題の検討（180分）
13. 課題の検討・レポート（180分）
14. 課題の検討（180分）
15. 課題の整理・レポート（180分）

---

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **評価方法：** | **授業へのとりくみ：** | 40 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 60 **%** |
| | **その他1：** | | | | | **%** | | |
| | **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：** さまざまな心理社会的課題について理解できる。（60～69点）
さまざまな心理社会的課題に対応をするための臨床心理面接の方法を身につけることができる。（80～100点）

---

**課題へのフィードバック：**

授業の中で，個別または集団に対して，適宜フィードバックを行う。

---

**教科書：** 吉田圭吾 教師における教育相談の技術 金子書房

**参考書：** 授業の中で，適宜紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

スクールカウンセラーや心理相談員になったとき，どのように子どもや保護者の心理社会的な課題を解決していけばよいかを考えながら，積極的・主体的に取り組んでください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）

**クラス:**

**授業コード:** BJ22100001

**担当者:** 古川 心 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有：公認心理師・臨床心理士（大学院附属相談室の心理士、スクールカウンセラー、発達相談員）

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 心理的アセスメントは、面接・観察・質問紙・心理検査・第三者からの情報など、複数の情報を総合してクライエントを理解する専門的プロセスである。本授業では、収集した情報を心理学的理論に基づいて整理し、問題の背景や維持要因を見立てとして明確化し、支援方針につなげる作業仮説（ケースフォーミュレーション）を構築するプロセスを重視する。
主要なアセスメント方法を学びながら、検査の実施・採点・結果の読み取り・統合的理解・フィードバックの方法と、それらを実際の支援にどうつなげるかを中心に扱う。また、アセスメントに伴う倫理、専門職としての姿勢、多職種連携における情報共有など、実務に欠かせない視点の理解も深める。
本授業を通して、公認心理師および臨床心理士として実践現場で求められる、心理的アセスメントの基礎理論、実施方法、解釈、フィードバックまでの一連の流れを理解し、実践できる力の習得を目指す。

**到達目標:**
1. 心理的アセスメントの目的・意義・倫理を理解し、説明できる。
2. 面接・観察・質問紙法・心理検査の基本的な実施方法および結果の基礎的な読み取り方を理解し、適切に扱うことができる。
3. 収集した情報を心理学的理論に基づいて整理し、問題の背景や維持要因を捉えるケースフォーミュレーションの基礎的理解を身につける。
4. アセスメント結果を統合し、支援の方向性や介入方針を検討するための基礎的な視点を身につける。
5. アセスメントに伴う倫理、専門職としての態度、多職種連携における情報共有の基本を理解し、適切に対応するための基礎的な姿勢を身につける。

**各回の授業計画:**

1. 心理的アセスメントの基礎心理的アセスメントの目的・意義面接・観察・質問紙・心理検査の役割倫理・個人情報の取り扱い国際生活機能分類操作的診断分類（DSM、ICD）
2. 面接によるアセスメントの基本構造化面接/半構造化面接質問技法
3. 観察法の基礎行動観察の種類（自然観察・構造化観察）観察バイアスと記録方法
4. 親子関係に関するアセスメント養育態度・親子相互作用・家族機能の把握親子関係と子どもの行動の関連
5. 対人反応に関するアセスメント：PFスタディストレス場面における反応方向と特徴P-Fスタディの読み取りの基本
6. 抑うつに関するアセスメント：BDIBDI の構造成人の抑うつの特徴保護者の抑うつが子どもに与える影響
7. 不安に関するアセスメント：STAISTAI の構造（状態不安・特性不安）不安を測定する意義（学校・家庭・医療場面）保護者の不安傾向が子どもの行動や育児に及ぼす影響得点の読み方とアセスメントの注意
8. 人格特性に関するアセスメント：MMPIパーソナリティアセスメントの役割（症状理解・関係性理解）MMPI の構造（妥当性尺度／臨床尺度の意味）プロフィールの基本的な見方と注意点保護者アセスメントとしての活用（関わり方・ストレス反応の傾向）
9. 適応行動に関するアセスメント：Vineland-Ⅱ 適応行動尺度適応行動の概念（コミュニケーション・生活技能・社会性）Vineland-Ⅱ の構造と面接法の特徴発達障害における適応行動評価の意義プロフィールと領域間差の読み取り
10. 認知能力に関するアセスメント：WISC（基礎・実施）WISC-Ⅳ・Ⅴの全体構造認知特性の理解WISC 実施時の手順と観察ポイント検査場面で見落としやすい行動の読み取り方
11. 認知能力に関するアセスメント：WISC（採点・解釈）採点の手順年齢換算合成得点の算出プロフィールの読み取り方（指標間差・強み弱みの解釈）認知特性と学習・行動特徴の関連
12. 発達・行動特徴に関するアセスメント：M-CHAT・SDQM-CHAT の目的M-CHATによるリスクカテゴリーとフォローアップSDQ の目的SDQ の総得点／下位領域の解釈
13. 統合的アセスメントの実践：認知・適応行動・行動特徴の総合理解WISC（認知）× Vineland（適応）× SDQ（行動特徴）の統合3つのデータから見える子どもの全体像の理解ASD／ADHD／知的発達症における典型プロファイル推論のプロセス（強み／弱み／支援ニーズの抽出）
14. ケースフォーミュレーションと支援計画の構築収集した情報を心理学的理論に基づいて整理する方法背景要因・維持要因の整理（認知・行動・環境・家族要因）支援の具体的な計画学校・家庭での支援案
15. アセスメントの総括とフィードバック実践フィードバックの基本原則（分かりやすさ・尊重・協働）保護者・本人・学校へのフィードバックの違い結果説明における倫理・言語化の注意

**特記事項:** 個人表現に関する記録法や利用法について実践的に学修するので、個人情報の取り扱いは倫理的配慮をもって行うこと。なお、受講者のこれまでの知識や経験に応じて、扱うアセスメントの種類や学習の進め方を適宜調整する場合がある。

**授業方法:** 本授業は、対面で行う。
全ての授業において、講義と演習を組み合わせた実践的な参加型授業を実施する。講義では、心理的アセスメントに関する基礎理論、検査の構造、解釈方法、倫理上の留意点などを解説する。演習では、面接ロールプレイ、行動観察、質問紙・心理検査の実施体験、採点、プロフィール作成、ケースの統合的理解、ケースフォーミュレーション作成、フィードバック練習など、実務に近い形での体験的学習を行う。

第1～12回 講義、演習
第13～15回 講義、演習、発表

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

本授業では、心理検査を扱うことから、検査の理解と実践を深めるために、授業外での学習が重要となる。事前学習としては、各検査のマニュアルや用紙、用具に目を通し、検査の目的・内容・実施手順をあらかじめ把握しておくことが望ましい。事後学習では、授業で実施した検査の結果を整理し、採点・分析・解釈を行ったうえで、必要に応じて簡単な報告書形式にまとめる作業を行う。

1. 予習(90分):アセスメントの定義・目的・種類(面接・観察・質問紙・心理検査)を配布資料や文献で確認し、まとめる。
復習:(90分):列挙した情報の妥当性を振り返り、不足していた情報を整理する。次回の面接演習に備え、質問項目をまとめる。

2. 予習(90分):構造化面接・半構造化面接、質問技法について、配布資料や文献で確認し、まとめる。ロールプレイに向けて、子ども・保護者の違いを想定する。
復習(90分):ロールプレイでの自身の質問傾向を整理する。良かった点と改善できる点を振り返り、次回への課題をまとめる。

3. 予習(90分):観察法の分類(自然観察・構造化観察)と記録法についてまとめる。観察バイアスに関する文献を読み、具体例についてまとめる。
復習(90分):演習での記録を振り返り、行動コード化の練習を行う。次回の親子関係のアセスメントに向け、概念を整理する。

4. 予習(60分):養育態度・家族機能の基礎文献を読む。親子相互作用を見る際の視点を整理する。
復習(120分):演習で得られた気づきをまとめ、親子の相互作用の仮説を作成する。支援につながる視点(関係改善の方向性)を検討し、まとめる。

5. 予習(30分):P-Fスタディの反応方向(自罰・他罰・無罰)についてまとめる。
復習(150分):実際の反応をもとに解釈のプロセスを整理する。ストレス対処と性格傾向の関連をまとめる。

6. 予習(60分):BDIの項目内容・カテゴリー・重症度分類を確認する。成人の抑うつと子育てストレスの関連文献を読む。
復習(120分):BDI のプロファイルを振り返り、得点と項目内容をもとに臨床的解釈をまとめる。BDIを支援につなげるポイントを整理する。

7. 予習(90分):状態不安と特性不安の概念の整理をする。不安が家族関係に及ぼす影響について文献を読み、まとめる。
復習(90分):事例比較結果を整理し、不安特性の違いが行動にどう現れるかまとめる。

8. 予習(60分):妥当性尺度・臨床尺度の基礎について理解する。
復習(120分):MMPI プロファイルからパーソナリティ傾向について臨床的解釈を行う。支援上の留意点についてまとめる。

9. 予習(60分):適応行動の3領域についてまとめ、Vinelandの面接法について理解する。
復習(120分):Vineland の領域プロフィールをもとに、生活面の強み・弱みについて臨床的解釈を行う。支援ニーズを推測し、支援方法をまとめる。

10. 予習(90分):WISC-Vの指標・サブテストの目的についてまとめる。検査実施時に観察すべき行動の一覧を作成する。
復習(90分):ロールプレイでの観察点を整理し、実施上の注意点についてまとめる。

11. 予習(60分):採点手順の復習・計算方法の確認をする。解釈に必要な用語を整理する。
復習(120分):プロフィール作成を再練習し、指標ごとの意味を整理する。行動特徴との関連を推測し、支援の具体的な方法についてまとめる。

12. 予習(90分):SDQの5領域、M-CHATのスコアリング方法を確認する。
復習(90分):SDQ得点のまとめと解釈を行う。次の統合回に備えてWISC・Vinelandとの照合を行う。

13. 予習(60分):WISC、Vineland、SDQの要点を復習する。3つのデータをどう統合するかの視点を整理する。
復習(120分):総合的仮説(ケースフォーミュレーション)を作成する。支援ニーズの優先順位を整理する。

14. 予習(60分):ケースフォーミュレーションの理論について、配布資料や文献を確認し、まとめる。
復習(120分):実際に作成したケースフォーミュレーションを推敲し、学校・家庭への支援計画を具体化する。

15. 予習(90分):フィードバックの原則につて、配布資料や文献を確認し、まとめる。
復習(90分):ロールプレイを振り返り、自身の強み・課題をまとめ、今後の学習目標を設定する。

| **評価方法:** | **授業へのとりくみ:** | 30 **%** | **確認テスト:** | – **%** | **レポート:** | 40 **%** |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | **その他1:** 最終課題 | | | 30 **%** | | |
| | **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:** 【最低限の到達度(60-69点)】
・心理的アセスメントの目的・概要について、最低限の知識を有している。

・授業で扱った主な心理検査について、名称や測定対象、基本的な特徴を理解している。
・講義および演習に参加し、指示に従って課題や演習に取り組んでいる。

【標準的な到達度（70-79点）】
・心理的アセスメントについて、基礎的な知識と考え方を理解している。
・授業で扱った心理検査について、目的や構造、結果の読み取りの基本を理解している。
・演習や課題において、検査結果や事例情報を整理し、自分の言葉で説明できる。

【望ましい到達度（80-100点）】
・心理的アセスメントについて十分に理解し、実践現場で活用するための基礎的知識と視点を身につけている。
・授業で扱った心理検査について、結果の特徴や留意点を踏まえ、面接・観察などの情報と関連づけながら解釈することができる。
・演習や課題において、アセスメント結果をどのように支援につなげるかを意識した考察が示されている。

---

**課題へのフィードバック：**

授業中に適宜フィードバックを行う。

---

**教科書：** なし

**参考書：** 適宜、紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

本授業は、心理的アセスメントを実践的に学ぶ演習科目であるため、毎回の授業内容に応じた事前準備と授業後の振り返りが学習効果を高める。
授業に先立って、配布資料や指定された文献に目を通し、各心理検査の目的や測定対象、基本的な構造を理解しておくことが望ましい。特に、心理検査を扱う回では、マニュアルや用紙、用具の内容を事前に確認し、検査の流れをイメージして授業に臨むことが理解の助けとなる。
授業後は、演習で扱った検査結果や事例資料を整理し、得点やプロフィールの意味について自分なりに解釈を行い、どのような支援につながるかを考えることが重要である。
また、分からなかった点や疑問点をそのままにせず、次回の授業やディスカッションで確認する姿勢が求められる。
なお、心理的アセスメントでは守秘義務や倫理的配慮が不可欠であるため、演習で扱う事例や検査結果については、授業外での取り扱い方にも十分注意すること。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理査定演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ22200001

**担当者:** 吉田 圭吾、椎野 智子 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:
〔椎野〕大学病院精神科、精神科・心療内科クリニック、スクールカウンセラー
〔吉田〕スクールカウンセラー、学生相談、心療内科カウンセラー、自死遺族相談

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 臨床現場でよく用いられる心理検査(投影法)について、特に重要と思われる「描画法」と「ロールシャッハテスト」を中心に、担当教員がそれぞれ担当し、徹底習得を目指す。

**到達目標:** 現場で実践的に使える準備性を持つ。

**各回の授業計画:**

1. 投影法全般の効用と限界および留意点 (椎野)
2. バウムテストの方法と解釈、留意点 (椎野)
3. 人物画テストの方法と解釈、留意点 (椎野)
4. HTPの方法と解釈、留意点(椎野)
5. 風景構成法の方法と解釈、留意点 (椎野)
6. SCTの方法と解釈、留意点 (椎野)
7. TATの方法と解釈、留意点(椎野)
8. ロールシャッハテストの原理と目的(吉田)
9. ロールシャッハテストの実施方法1(吉田)
10. ロールシャッハテストの記号化①(吉田)
11. ロールシャッハテストの記号化②(吉田)
12. ロールシャッハテストの解釈(吉田)
13. ロールシャッハテストの解釈のまとめと報告の仕方(吉田)
14. テストバッテリーについて(吉田)
15. 投影法のまとめ(吉田)

**特記事項:** なし

**授業方法:** 対面 前半では、椎野が担当する。さまざまな投影法について、その施行方法と解釈及び臨床応用について実践的に学ぶ。
後半では、吉田が担当する。ロールシャッハテストは人によって異なる知覚の仕方から、その人の生活経験や感情・欲求・葛藤や性格などを知り、パーソナリティを明らかにしようとする心理テストである。そのテストの実施と記号化の方法、結果の解釈の仕方について臨床的な視点から考察を深める。またテストバッテリーに関しても解説する。

1. 演習
2. 演習
3. 演習
4. 演習
5. 演習
6. 演習
7. 演習
8. 演習
9. 演習
10. 演習
11. 演習
12. 演習
13. 演習
14. 演習
15. 演習

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. 投影法復習（180分）
2. 宿題:バウムテストの復習（180分）
3. 宿題:人物画テストの復習（180分）
4. 宿題:HTPの復習（180分）
5. 宿題:風景構成法の復習（180分）
6. 宿題:SCTの復習（180分）
7. 宿題:TATの復習（180分）
8. 宿題:ロールシャッハの予習（180分）
9. 宿題：ロールシャッハの実施方法（180分）
10. 宿題：記号化①（180分）
11. 宿題：記号化②（180分）
12. 宿題：解釈（180分）
13. 宿題：解釈のまとめと報告の仕方（180分）
14. 宿題：テストバッテリー（180分）
15. 宿題：投影法の復習(180分)

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 描画法・ロールシャッハ法についての十分な理解があり、実践で使用できる準備ができている（80～100点）
描画法・ロールシャッハ法の最低限の理解があり、一応実施できる（60～69点）

---

**課題へのフィードバック：**

授業内外で適宜フィードバックを行う

---

**教科書：** なし
授業内で適宜資料を配布します。

**参考書：** 高石浩一・谷口高士『心理学実習 基礎編』培風館
馬殿麗子『改訂 ロールシャッハ法と精神分析―継起分析入門』岩崎学術出版社

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

前半、後半でそれぞれの担当者が、事例（実践例）に基づくレポート課題を出題します。
臨床現場では必須の心理検査です。現場に出て即使用できるレベルを目指します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理基礎実習

**クラス:**

**授業コード:** BJ23100001

**担当者:** 古川 心、椎野 智子 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:
〔古川〕臨床心理士、公認心理師(保健所や教育機関における発達相談員、スクールカウンセラー、大学院附属相談室での臨床心理活動)
〔椎野〕臨床心理士・公認心理師として複数の大学病院精神科や児童精神科、精神科クリニックにて臨床心理査定及び臨床心理面接を行う。

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 本授業は、臨床心理士および公認心理師として実践に携わるための基礎的な力を養うことを目的とする。
臨床心理学的支援の現場を想定しながら、心理専門職として求められる基本的姿勢、倫理観、守秘義務の理解を深めるとともに、心理面接の目的や構造、相談の流れについて体系的に学ぶ。
また、学内相談室の業務理解、相談申し込みおよび初回面接を想定したロールプレイを通して、臨床場面における関係形成や面接過程を体験的に理解することを重視する。
これらの体験を振り返り、言語化・省察することで、自己の関わり方や感じ方への気づきを促し、学内・学外実習に円滑につなげるための基盤を形成する。

**到達目標:**
1. 臨床心理士および公認心理師として求められる基本的姿勢、倫理、守秘義務について理解し、説明できる。
2. 心理面接の目的や構造、初回面接の流れについて理解し、説明できる。
3. 学内相談室の業務内容や臨床現場の役割について理解し、実習との関連を説明できる。
4. 相談申し込みや初回面接を想定したロールプレイを通して、臨床場面における関係形成や面接過程を体験的に理解し、振り返ることができる。
5. 心理面接における基本的なかかわりや技法を理解し、演習を通してその重要性を体験的に学ぶことができる。
6. ロールプレイや演習を通して得た体験を省察し、自己の課題や今後の学習目標として整理できる。
7. 学内・学外実習に向けて、臨床心理実践に臨むための基本的な準備や心構えを身につけることができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション・実習の位置づけ
2. 臨床心理士・公認心理師養成課程の理解
3. 心理職の倫理①
4. 心理職の倫理②
5. 心理面接の目的と役割
6. 心理面接の方法と構造
7. 心理教育相談室の業務①(初回面接・治療構造)
8. 心理教育相談室の業務②(見立て・面接記録)
9. 心理相談室の見学実習
10. 相談申し込みのロールプレイ①
11. 相談申し込みのロールプレイ②
12. 相談申し込みのロールプレイ③
13. 相談申し込みのロールプレイ④
14. 相談申し込みのロールプレイ⑤
15. 教育臨床の実際
16. 病院臨床の実際
17. 心理面接の技法訓練①(基本的傾聴)
18. 心理面接の技法訓練②(傾聴ロールプレイ)
19. 心理面接の技法訓練③(質問技法)
20. 心理面接の技法訓練④(要約技法)
21. 初回面接のロールプレイ①
22. 初回面接のロールプレイ②
23. 初回面接のロールプレイ③
24. 初回面接のロールプレイ④
25. 初回面接のロールプレイ⑤
26. 初回面接のロールプレイ⑥
27. 初回面接のロールプレイ⑦
28. 初回面接のロールプレイ⑧
29. 初回面接のロールプレイ⑨
30. まとめとレポート(ロールプレイの振り返り)

**特記事項:** 授業内での演習やロールプレイ、ディスカッションにおいては、他者への配慮を忘れず、倫理的配慮や守秘義務を意識して取り組むこと。なお、授業の内容は、受講者の理解や興味・関心等に合わせて、変更することがある。

---

**授業方法:** 本授業は、基本的に全て対面で行い、講義、演習、ロールプレイ、ディスカッションを組み合わせて進める。
臨床心理士および公認心理師としての基礎を養うことを目的とし、知識の理解にとどまらず、体験を通した学習と省察を重視する。
前半では、臨床心理専門職としての倫理、守秘義務、心理面接の目的や構造、学内相談室の業務内容などについて講義を行い、臨床心理実践の基盤となる理解を深める。
後半では、相談申し込みや初回面接を想定したロールプレイを中心に、心理面接における基本的な関わりや技法を体験的に学ぶ。
ロールプレイ後には振り返りやディスカッションを行い、自己の感じ方や関わり方を言語化し、他者の視点を取り入れながら理解を深める。
本授業はオムニバス形式で実施され、複数の教員がそれぞれの専門領域や臨床経験を踏まえて指導を行う。

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 実習
10. ロールプレイの振り返り
11. ロールプレイの振り返り
12. ロールプレイの振り返り
13. ロールプレイの振り返り
14. ロールプレイの振り返り
15. レポート発表と実習
16. レポート発表と実習
17. レポート発表と実習
18. レポート発表と実習
19. レポート発表と実習
20. レポート発表と実習
21. ロールプレイと振り返り
22. ロールプレイと振り返り
23. ロールプレイと振り返り
24. ロールプレイと振り返り
25. ロールプレイと振り返り
26. ロールプレイと振り返り
27. ロールプレイと振り返り
28. ロールプレイと振り返り
29. ロールプレイと振り返り
30. レポート作成

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 紹介された関連論文を読む(180分)
2. 紹介された関連論文を読む(180分)
3. 紹介された関連論文を読む(180分)
4. 紹介された関連論文を読む(180分)
5. 紹介された関連論文を読む(180分)
6. 紹介された関連論文を読む(180分)
7. 紹介された関連論文を読む(180分)
8. 紹介された関連論文を読む(180分)

9. 紹介された関連論文を読む(180分)
10. ロールプレイの準備と整理(180分)
11. ロールプレイの準備と整理(180分)
12. ロールプレイの準備と整理(180分)
13. ロールプレイの準備と整理(180分)
14. ロールプレイの準備と整理(180分)
15. 紹介された関連論文を読む(180分)
16. 紹介された関連論文を読む(180分)
17. 紹介された関連論文を読む(180分)
18. 紹介された関連論文を読む(180分)
19. 紹介された関連論文を読む(180分)
20. 紹介された関連論文を読む(180分)
21. ロールプレイの準備と整理(180分)
22. ロールプレイの準備と整理(180分)
23. ロールプレイの準備と整理(180分)
24. ロールプレイの準備と整理(180分)
25. ロールプレイの準備と整理(180分)
26. ロールプレイの準備と整理(180分)
27. ロールプレイの準備と整理(180分)
28. ロールプレイの準備と整理(180分)
29. ロールプレイの準備と整理(180分)
30. ロールプレイの全体的まとめ(180分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:**

【最低限の到達度(60～69点)】
・授業および演習・ロールプレイに継続して参加し、指示に従って学習活動に取り組んでいる。
・臨床心理士・公認心理師として求められる基本的な倫理や守秘義務について、授業内容を踏まえた理解がみられる。
・ロールプレイや見学実習後の振り返りにおいて、体験した内容を事実レベルで整理し、記述することができる。

【標準的な到達度(70～79点)】
・授業および演習・ロールプレイに主体的に参加し、学習内容を意識しながら取り組んでいる。
・心理面接の目的や構造、関係形成の重要性について理解し、振り返りの中で適切に言語化できる。
・ロールプレイや演習を通して得た気づきを整理し、自己の課題や今後の学習目標としてまとめることができる。
・学内・学外実習に向けて、実習生として求められる準備や心構えを意識し、振り返りの中で整理できていることが読み取れる。

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業および演習・ロールプレイに積極的に参加し、他者の学びにも配慮した姿勢で取り組んでいる。
・倫理や守秘義務を踏まえた専門職としての態度が安定しており、臨床場面を想定した理解が深い。
・ロールプレイや見学実習の体験を省察し、自己の関わり方や感じ方を臨床心理学的視点から整理できる。
・学内・学外実習に向けて、実習生として求められる準備や心構えが身についており、臨床心理実践に臨む態度が振り返りから一貫して読み取れる。

**課題へのフィードバック:**

課題のフィードバックは、課題を発表させたりすることで全体的な評価を行う。
適宜、授業内でフィードバックを行う。

**教科書:** なし
関連書および資料については適宜紹介し、必要に応じて配布する。

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**

本授業は、臨床心理実践の基礎を体験的に学ぶことを目的とした実習科目である。講義内容を理解するだけでなく、演習やロールプレイへの積極的な参加と、その後の振り返りを通した省察が重要となる。
授業に臨むにあたっては、事前に配布資料や関連する文献に目を通し、各回のテーマや目的を把握しておくことが望ましい。特に、倫理や守秘義務、心理面接の目的・構造に関する内容については、基礎的理解を持った上で授業に参加することが求められる。
演習やロールプレイでは、うまくできることよりも、体験を通して感じたことや気づいたことを大切にし、自身の関わり方を振り返る姿勢を持つことが重要である。振り返り課題やレポートでは、結果の良し悪しではなく、体験をどのように捉え、次の学びにつなげようとしているかを意識してまとめてほしい。
また、本授業は、学内・学外実習につながる基礎実習である。実習生としての自覚を持ち、時間管理、体調管理、守秘義務の遵守など、日常的な準備や心構えについても主体的に整えていくことが望まれる。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理実習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ23200001

**担当者:** 三井　知代、古川　心、椎野　智子、松本　剛、吉田　圭吾　　**単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:
〔三井〕病院の心理士
〔吉田〕スクールカウンセラー
〔松本〕スクールカウンセラー
〔古川〕大学附属相談室のカウンセラー
〔椎野〕病院の心理士

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** −　　**一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 本授業は、心理・教育相談室において担当した事例について、インテーク・カンファレンスおよびケース・カンファレンスで報告・発表し、討議に主体的に参加することを通して、心理臨床家として必要な基本的技能、倫理観および態度を涵養することを目的とする。
あわせて、臨床心理士養成上必修となる病院実習で得た学びをカンファレンスにおいて共有し、医療領域における心理支援および多職種連携の理解を統合的に深める。

**到達目標:**
1. 担当事例について、守秘義務等の倫理的配慮を踏まえ、適切に報告・発表できる。
2. 事例の心理的理解(症状形成要因、維持要因、発達・対人関係・環境等)を整理し、見立てを説明できる。
3. 心理療法の効用と限界を理解し、適用判断を行いながら支援方針を検討し、自身の担当ケースに反映できる。
4. カンファレンスに主体的に参加し、専門的討議を通して自己省察を深めることができる。
5. 病院実習(必修)で得た経験を踏まえ、医療領域における心理職の役割および多職種連携について説明できる。

**各回の授業計画:**

(春学期)
1. オリエンテーション(心理・教育相談室、病院実習等外部実習について)
2. ケース・カンファレンス
3. ケース・カンファレンス
4. ケース・カンファレンス
5. インテーク・カンファレンス
6. ケース・カンファレンス
7. ケース・カンファレンス
8. ケース・カンファレンス
9. インテーク・カンファレンス
10. ケース・カンファレンス
11. ケース・カンファレンス
12. ケース・カンファレンス
13. インテーク・カンファレンス
14. ケース・カンファレンス
15. 前期のまとめ

(秋学期)
1. オリエンテーション(病院実習等外部実習について)
2. インテーク・カンファレンス
3. ケース・カンファレンス
4. ケース・カンファレンス
5. ケース・カンファレンス
6. インテーク・カンファレンス
7. ケース・カンファレンス
8. ケース・カンファレンス
9. ケース・カンファレンス
10. インテーク・カンファレンス
11. ケース・カンファレンス
12. ケース・カンファレンス
13. ケース・カンファレンス
14. 終結・中断・継続・リファー等のケース検討
15. 病院実習・総括

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 本科目はカンファレンス形式で実施し、心理・教育相談室における事例報告および事例検討を行う。

（春学期）

1. 講義
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 討論
12. 討論
13. 討論
14. 討論
15. 討論

（秋学期）

1. 講義
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 討論
12. 討論
13. 討論
14. 討論
15. 講義

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

（春学期）

1. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
2. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
3. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
4. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
5. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
6. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
7. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
8. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
9. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
10. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
11. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
12. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
13. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）
14. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討（180分）

15. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
(秋学期)
1. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
2. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
3. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
4. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
5. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
6. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
7. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
8. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
9. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
10. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
11. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
12. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
13. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
14. 発表ケースの振り返り、自分のケースの検討(180分)
15. 1年間の振り返り(180分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 60 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:**

【80～100点】
ケースを担当することに伴う職業倫理(守秘義務、同意、境界設定、危機対応等)を適切に理解・遵守できる。
また、心理的メカニズム(症状形成要因、維持要因、対人関係・環境要因等)をアセスメントに基づいて整理し、心理療法の効用と限界を踏まえた支援方針を立案でき、それを自身の担当ケースに適切に反映できる。

【70～79点】
職業倫理を概ね理解し、重大な逸脱なく実習に取り組める。
心理的メカニズムの理解および介入方針の検討は概ね適切であり、担当ケースにも一定程度反映できるが、見立てや支援方針の根拠提示に一部不十分さがみられる。

【60～69点】
ケースを担当することに関する最低限の理解と意欲は認められ、指導のもとで倫理的配慮を保ちながら実習に取り組める。
ただし、心理的メカニズムの理解や心理療法の適用判断、支援方針の立案・ケースへの反映が不十分であり、継続的な助言を要する。

**課題へのフィードバック:**

カンファレンス資料として授業中にフィードバックされる。

**教科書:** なし

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**

本授業は心理士養成における中核的実習科目である。守秘義務を厳守し、事例資料・記録の管理を徹底すること。事前準備および期限内提出を遵守し、専門職として責任ある態度で臨むこと。
なお、臨床心理士養成上必修となる病院実習は「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習B)」において実施・評価する。
カンファレンスへの積極的な参加を通して、心理臨床家に必要な基本的スキルおよび態度を身につけることが望まれる。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）

**クラス:**

**授業コード:** BJ23260001

**担当者:** 三井　知代、古川　心、吉田　圭吾、椎野　智子、松本　剛　　**単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:
〔三井〕病院の心理士
〔吉田〕スクールカウンセラー
〔松本〕スクールカウンセラー
〔古川〕大学附属相談室のカウンセラー
〔椎野〕病院の心理士

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** －　　**一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 本授業は、公認心理師・臨床心理士として必要な心理支援の基礎的能力を修得することを目的とする。学内カンファレンス（インテーク・カンファレンスおよびケース・カンファレンス）における事例報告・検討・振り返りを通して、心理的アセスメントに基づく事例理解、支援計画の立案、職業倫理の遵守および専門職としての態度を涵養する。
加えて、学内心理・教育相談室における電話による初期対応（インテーク補助）への関与を通して、来談者の主訴の把握、情報整理および倫理的配慮に基づく適切な対応を学ぶ。
なお、学外実習（外部機関における実習）については「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習B）」において実施・評価する。

**到達目標:** 【到達目標】
1. 守秘義務、インフォームド・コンセント等の職業倫理を理解し、倫理的配慮のもとで実習（電話による初期対応を含む）に参加できる。
2. カンファレンスで扱われる事例および電話による初期対応で得られる情報について、面接情報・心理検査・観察等を踏まえて心理状態および支援ニーズを整理し説明できる。
3. 事例理解に基づき、支援計画（目標設定、支援方針、資源活用、危機対応を含む）について検討し、根拠を示して説明できる。
4. ケース・カンファレンスにおいて主体的に討議に参加し、専門職として適切な質問・意見・提案ができる。
5. 助言を踏まえて省察を行い、自身の課題と改善点を整理して次の学修に活かすことができる。

【発展到達目標】（秋学期以降にケース担当した学生）
1. 担当ケースについて、倫理的配慮のもとで必要情報（電話による初期対応を含む）を整理し、カンファレンスで適切に報告できる。
2. 担当ケースについて、アセスメントに基づく見立ておよび支援方針を検討し、支援計画を立案できる。

**各回の授業計画:**

（春学期）
1. オリエンテーション（心理・教育相談室、外部実習について）
2. ケース・カンファレンス
3. ケース・カンファレンス
4. ケース・カンファレンス
5. インテーク・カンファレンス
6. ケース・カンファレンス
7. ケース・カンファレンス
8. ケース・カンファレンス
9. インテーク・カンファレンス
10. ケース・カンファレンス
11. ケース・カンファレンス
12. ケース・カンファレンス
13. インテーク・カンファレンス
14. ケース・カンファレンス
15. ケース・カンファレンス

（秋学期）
1. オリエンテーション（外部実習について）
2. インテーク・カンファレンス
3. ケース・カンファレンス
4. ケース・カンファレンス
5. ケース・カンファレンス
6. インテーク・カンファレンス
7. ケース・カンファレンス
8. ケース・カンファレンス
9. ケース・カンファレンス
10. インテーク・カンファレンス

11. ケース・カンファレンス
12. ケース・カンファレンス
13. ケース・カンファレンス
14. 終結・中断・継続・リファー等のケース検討
15. 総括

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** （春学期）
1. 講義
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 討論
12. 討論
13. 討論
14. 討論
15. 討論

（秋学期）
1. 講義
2. 討論
3. 討論
4. 討論
5. 討論
6. 討論
7. 討論
8. 討論
9. 討論
10. 討論
11. 討論
12. 討論
13. 討論
14. 討論
15. 講義

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

（春学期）
1. カンファレンスにおける基礎知識の復習（180分）
2. カンファレンス参加の経験整理（180分）
3. カンファレンス参加の経験整理（180分）
4. カンファレンス参加の経験整理（180分）
5. カンファレンス参加の経験整理（180分）
6. カンファレンス参加の経験整理（180分）
7. カンファレンス参加の経験整理（180分）
8. カンファレンス参加の経験整理（180分）

9. カンファレンス参加の経験整理（180分）
10. カンファレンス参加の経験整理（180分）
11. カンファレンス参加の経験整理（180分）
12. カンファレンス参加の経験整理（180分）
13. カンファレンス参加の経験整理（180分）
14. カンファレンス参加の経験整理（180分）
15. 実習先についての情報整理（180分）
（秋学期）
1. カンファレンスにおける基礎知識の復習（180分）
2. カンファレンス参加の経験整理（180分）
3. カンファレンス参加の経験整理（180分）
4. カンファレンス参加の経験整理（180分）
5. カンファレンス参加の経験整理（180分）
6. カンファレンス参加の経験整理（180分）
7. カンファレンス参加の経験整理（180分）
8. カンファレンス参加の経験整理（180分）
9. カンファレンス参加の経験整理（180分）
10. カンファレンス参加の経験整理（180分）
11. カンファレンス参加の経験整理（180分）
12. カンファレンス参加の経験整理（180分）
13. カンファレンス参加の経験整理（180分）
14. 実習事例に関する振り返り（180分）
15. 1年間の振り返りレポート作成（180分）

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 80 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 20 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：**

【80～100点】
職業倫理（守秘義務、同意、記録管理等）を適切に理解・遵守し、カンファレンスに主体的に参加している。事例理解（アセスメント、ニーズ把握）と支援計画の検討が論理的であり、根拠を示した発言・提案ができる。提出物も期限内に適切に作成でき、省察が十分である。
（ケース担当学生の場合）担当ケースについて、アセスメントに基づく整理と支援方針の検討を行い、カンファレンスで適切に報告できる。

【70～79点】
倫理・態度は概ね適切であり、カンファレンスへの参加および提出物は一定水準に達している。事例理解や支援計画の検討は概ね妥当であるが、根拠の提示や省察の深まりに改善点がみられる。助言を踏まえて修正が可能である。

【60～69点】
倫理上重大な問題はないが、準備不足、討議参加の消極性、提出物の内容不足などにより、事例理解・支援計画の検討が不十分である。指導・助言を継続的に要する。

【～59点（不可）】
守秘義務・提出・態度等の倫理的配慮に問題がある、または欠席・遅刻・未提出等が重なり、到達目標に達していない。

**課題へのフィードバック：**

カンファレンス時および適宜フィードバックがされる。

**教科書：** なし

**参考書：** なし

**授業・準備学習のアドバイス：**

本科目は、公認心理師養成における中核的な実習科目であり、学内カンファレンス（インテーク・カンファレンスおよびケース・カンファレンス）を通して、心理支援に必要な基本的知識・技能・態度を統合的に修得することを目的とする。受講者は主体的・積極的に参加し、専門職として必要な姿勢を身につけることが求められる。
特に、カンファレンスにおける発言、討議への参加状況、事例に対する準備状況は「授業への取り組み」として評価の対象となる。発言に自信がない場合でも、自分の考えを整理し、質問やコメントの形で討議に参加することが望ましい。
また、授業では守秘義務を厳守し、事例資料や記録の取り扱いには十分留意すること。提出物は期限内に提出し、事例の理解・支援計画の検討・省察を通して学びを深めること。秋学期頃よりケース担当を開始するが、相談室の受理状況等により開始時期には個人差が生じる場合がある。その場合も、事例検討への参加等を通して学修を進めること。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習B)

**クラス:**

**授業コード:** BJ23280001

**担当者:** 古川 心、三井 知代、吉田 圭吾、吉野 俊彦、椎野 智子、松本 剛 **単位数:** 8

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:
〔三井〕病院の心理士
〔吉田〕スクールカウンセラー
〔松本〕スクールカウンセラー
〔古川〕大学院附属相談室の心理士
〔椎野〕病院の心理士
〔吉野〕病院の心理士

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 本授業は、公認心理師・臨床心理士として必要な実践力を涵養することを目的とし、学外実習(医療・福祉・教育・産業・司法等の関係機関)を通して、心理支援の実際を学ぶ。
各領域における支援対象者の理解、支援ニーズの把握、多職種・関係機関との連携、職業倫理の遵守等を含む実習経験を積み、心理支援の基礎的能力を修得する。
なお、臨床心理士養成上必修となる病院実習は本科目に含めて実施する。

**到達目標:**
1. 実習先の規程を遵守し、守秘義務等の倫理的配慮のもと実習に参加できる。
2. 支援対象者の状況を観察・整理し、支援ニーズを把握できる。
3. 実習先の支援体制(地域資源、関係機関連携、多職種連携等)を理解し説明できる。
4. 実習記録を適切に作成し、指導を踏まえて省察できる。
5. 学外実習で得た学びを学内での事例検討と関連づけ、統合的に説明できる。

**各回の授業計画:**

本授業では、学外実習を通して、医療・福祉・教育等の各領域における心理支援の実際を学ぶ。支援対象者の理解、心理的支援の枠組み、支援ニーズの把握、関係機関・多職種との連携のあり方について体験的に理解を深める。
また、実習経験を通して、心理職として求められる職業倫理、専門職としての態度、責任の所在について理解し、実習後の振り返りを通して省察的に整理する。
さらに、学外実習で得た学びを学内での事例検討(心理実践実習A等)と関連づけ、心理支援の実践を統合的に理解する力を養う。

**特記事項:** 規定時間数、領域に関しては、担当教員とよく相談して、決めていくこと。

**授業方法:** 事前指導①:実習の目的・到達目標の確認
公認心理師・臨床心理士養成における本実習の位置づけ、実習の流れ、実習記録(実習日誌)・提出物、評価方法の説明を行う。

事前指導②:「現場実習に関する規則」および実習倫理・安全管理
実習開始前に「現場実習に関する規則」について指導を行う。規則を十分に理解し遵守することを実習参加の必要条件とする。規則遵守ができない場合は、規則に定める実習中止要件に準じて実習を中止する場合がある。

学外実習：関係機関・施設における実習（複数領域）
期間内に、各領域に該当する関係機関・施設等において、実習先のルールおよび本学の実習規程に従い実習を行う。実習の方法・時間数は実習先により異なるが、所定の実習時間数および領域数に達するまで、複数の実習先で計画的に実習を行う。実習場所および実習方法は担当教員より別途指示する。

実習記録・進捗報告（実習期間中）
必要な実習時間の管理は各自行うこと。実習日誌は実習先担当者に提出すると同時に、学内の実習担当教員にも提出し、実習の進捗状況を報告する。

事後指導①：実習の振り返り（省察）
実習経験の振り返りを行い、学び・課題・今後の改善点を整理する。

事後指導②：実習報告
領域ごとの支援の特徴、多職種連携・関係機関連携のあり方を整理し、学内での事例検討との関連を含めて統合的にまとめる。
必ず、実習日誌を各実習日ごとに作成し、実習先担当者の閲覧の後、担当教員に提出する。

【注意】「現場実習に関する規則」を守ることができなかった際には、「規則」に定められているように実習中止要件に準じて、実習が中止される場合がある。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

実習先の情報を事前に調べ、オリエンテーション、実習に臨むこと。

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 80 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | 実習日誌 | | 20 **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：**

【80～100点】
実習先の規則および本学の実習規程を遵守し、守秘義務等の倫理的配慮のもとで主体的に実習に参加できる。実習記録（実習日誌）の内容が適切で、観察事項・学び・課題が具体的に整理されている。さらに、実習報告において、支援対象者の理解、支援ニーズ、多職種・関係機関連携の視点を含めて省察し、学内での学びと関連づけて統合的に説明できる。

【70～79点】
倫理・態度は概ね適切であり、実習記録・報告も一定水準に達している。実習経験の整理と省察は行えているが、観察の具体性、連携の視点、統合的理解の提示に一部不十分さがみられる。助言を踏まえて改善できる。

【60～69点】
最低限の理解と参加意欲は認められるが、準備不足、記録の不備（具体性・期限・整理不足）、報告内容の浅さ等により、実習経験の省察と統合が不十分である。継続的な指導・助言を要する。

【～59点】
守秘義務・規程遵守に関する問題、実習態度の不適切さ、欠席・遅刻の多発、記録・提出物の未提出等により、実習の到達水準に達していない。

---

**課題へのフィードバック：**

各実習先独自の指導方法に則り、実習日誌でフィードバックされる。また日誌の提出時に担当教員から指導を受ける。

---

**教科書：** なし

**参考書：** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

本科目は、公認心理師・臨床心理士養成課程における中核的な学外実習（集中講義）であり、医療・福祉・教育等の関係機関において心理支援の実際を学ぶものである。
受講者は、実習先の規則および担当教員・実地指導者の指示に従い、実習ルールを遵守して参加しなければならない。
実習にあたっては守秘義務を厳守し、対象者および施設が特定され得る情報（氏名、所属、日時、事例の詳細等）を記録・共有してはならない。
実習記録・資料・電子媒体等の取り扱いについても十分に留意し、適切に管理すること。
また、学外実習は社会的責任を伴う学修であるため、時間厳守、体調管理、適切な身だしなみ、丁寧なコミュニケーション等、専門職としての態度が求められる。
遅刻・欠席は実習の成立に影響するため、やむを得ない事情が生じた場合には速やかに担当教員へ連絡すること。
実習開始前に実施する「現場実習に関する規則」に関する指導を必ず受け、当該規則を十分に理解すること。
規則の遵守は実習参加の必要条件であり、遵守できない場合には規則に定める実習中止要件に準じて実習を中止する場合がある。
必要な実習時間の管理は各自行うこと。
実習日誌は実習先担当者に提出すると同時に、学内の実習担当教員にも提出し、実習の進捗状況について報告を行うこと。
事後指導では、実習経験を省察し、学内での事例検討と関連づけて統合的に学びを深めること。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 相談指導Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BJ23300001

**担当者:** 三井 知代 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:心療内科、精神科における病院臨床および大学院付属心理相談室等で公認心理師、臨床心理士

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 個々の院生が本大学の心理・教育相談室において担当したケースのマネジメントをすること。

**到達目標:** 担当するケースのアセスメントや心理治療を適切に行い、心理臨床の目的に適った援助が為されていることを確認すること。

**各回の授業計画:**

1. 相談指導1
2. 相談指導2
3. 相談指導3
4. 相談指導4
5. 相談指導5
6. 相談指導6
7. 相談指導7
8. 相談指導8
9. 相談指導9
10. 相談指導10
11. 相談指導11
12. 相談指導12
13. 相談指導13
14. 相談指導14
15. 相談指導15

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 相談指導は1回90分、年間30回程度を基本として、ケース指導を対面で行う。

1. 個別指導
2. 個別指導
3. 個別指導
4. 個別指導
5. 個別指導
6. 個別指導
7. 個別指導
8. 個別指導
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 個別指導
12. 個別指導
13. 個別指導
14. 個別指導
15. 個別指導

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1.事例研究(180分)
2. 事例研究(180分)
3. 事例研究(180分)

4. 事例研究(180分)
5. 事例研究(180分)
6. 事例研究(180分)
7. 事例研究(180分)
8. 事例研究(180分)
9. 事例研究(180分)
10. 事例研究(180分)
11. 事例研究(180分)
12. 事例研究(180分)
13. 事例研究(180分)
14. 事例研究(180分)
15. 事例研究(180分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 90 | **%** | **確認テスト:** | - | **%** | **レポート:** | - **%** |
| **その他1:** | 事例についての報告書(担当者から指示する) | 10 | **%** | | | | |
| **その他2:** | | | **%** | | | | |

**評価基準:** ケースを理解し、適切なアセスメント、クライエントの状況に応じた心理治療ができる(80～100点)
ケース理解し、アセスメントや心理治療ができる(60～69点)

**課題へのフィードバック:**

課題へのフィードバックは、授業内で必要に応じて行う。

**教科書:** なし

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**

ケースについての悩みを積極的に相談してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 相談指導Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BJ23400001

**担当者:** 三井 知代 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** 個々の院生が本大学の心理・教育相談室において担当したケースのマネジメントをすること。

**到達目標:** 担当するケースのアセスメントや心理治療を適切に行い、心理臨床の目的に適った援助が為されていることを確認すること。

**各回の授業計画:**

1. 相談指導1
2. 相談指導2
3. 相談指導3
4. 相談指導4
5. 相談指導5
6. 相談指導6
7. 相談指導7
8. 相談指導8
9. 相談指導9
10. 相談指導10
11. 相談指導11
12. 相談指導12
13. 相談指導13
14. 相談指導14
15. 相談指導15

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 対面で行う。

1. 事例検討
2. 事例検討
3. 事例検討
4. 事例検討
5. 事例検討
6. 事例検討
7. 事例検討
8. 事例検討
9. 事例検討
10. 事例検討
11. 事例検討
12. 事例検討
13. 事例検討
14. 事例検討
15. 事例検討

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1.事例研究(180分)(ケースをまとめる)
2. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
3. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
4. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)

5. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
6. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
7. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
8. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
9. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
10. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
11. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
12. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
13. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
14. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)
15. 事例研究(180分)(ケースをまとめる)

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 90 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | − **%** |
| **その他1:** | 事例についての報告(担当者からの指示による) | 10 | **%** | | | | |
| **その他2:** | | | **%** | | | | |

---

**評価基準:** ケースに合った適切なアセスメントや心理治療ができている。(60～69点)
心理臨床の目的に合った心理的援助ができている。(80～100点)

---

**課題へのフィードバック:**

課題へのフィードバックは、授業内で適宜行う。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

ケースについての悩みを積極的に相談してください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理学研究法特論

**クラス:**

**授業コード:** BJ30100001

**担当者:** 吉野 俊彦 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 臨床心理学においても，基礎心理学と同様な実験や調査についての研究法を習得することは必須である。そして研究を進める上で，出版されている論文を批判的に読むことが必要である。この講義では教科書に紹介されている，誤りを含む臨床心理学についての論文を読んで，どこに問題があるか，そしてなぜそれが問題であるかについて，まず自分で考え，それを共有することで，研究に必要な基礎的な力を身につけることを目的とする。

**到達目標:**
1. 心理学において用いられる研究法を理解して使えること。
2. 臨床心理学についての論文を批判的に読めること。
3. 妥当な研究デザインを立てられること。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション 心理学の研究法についての受講生の理解を確認する。
2. 臨床心理学における研究に必要とされることの確認
3. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
4. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
5. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
6. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
7. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
8. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
9. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
10. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
11. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
12. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
13. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
14. 選択した論文の発表と問題点の指摘，それに基づくディスカッション
15. まとめ 批判的に論文を読む力の確認

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが，事情によって遠隔で実施することがある。

**授業方法:**
1. 講義
2. 講義
3. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
4. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
5. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
6. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
7. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
8. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
9. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
10. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
11. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
12. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
13. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
14. 教科書の指定された箇所を読んで発表。その発表に基づいた、受講生同士のディスカッション。
15. 講義

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

1. 心理学研究法について各自が用いてきた教科書や参考書によって復習（180分）
2. 心理学研究法について各自が用いてきた教科書や参考書によって復習（180分）

3. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備（90分）および当日の内容についての復習（90分）
4. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備（90分）および当日の内容についての復習（90分）
5. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備（90分）および当日の内容についての復習（90分）
6. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備（90分）および当日の内容についての復習（90分）
7. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備（90分）および当日の内容についての復習（90分）
8. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備（90分）および当日の内容についての復習（90分）
9. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備（90分）および当日の内容についての復習（90分）
10. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備（90分）および当日の内容についての復習（90分）
11. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備（90分）および当日の内容についての復習（90分）
12. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備と(90分）および当日の内容についての復習（90分）
13. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備と(90分）および当日の内容についての復習（90分）
14. 計画に示されている内容に該当する部分についての予習とディスカッションしたい内容や質問の準備と(90分）および当日の内容についての復習（90分）
15. これまでの内容を踏まえてのレポートの準備（180分）

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 50 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：**

授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
30～34 課題のまとめがなされている。
35～39 過不足のないまとめとなっている。
40～44 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
45～50 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

**課題へのフィードバック：**

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。全体へのフィードバックは行わない。

**教科書：**

なし

**参考書：**

高野陽太郎・岡隆（2017）. 心理学研究法 補訂版 有斐閣アルマ
下山晴彦・佐藤隆夫（監）（2020）. 心理学研究法（公認心理師スタンダードテキストシリーズ 4）ミネルヴァ書房
メルツォフ, J. 中澤 潤（訳）(2005). クリティカルシンキング 研究論文篇 北大路書房

**授業・準備学習のアドバイス：**

臨床心理学における研究法についての立場は様々である。この講義では，科学者・実践者モデル，エビデンス・ベイストからの視点を重視します。臨床心理学においても科学的な視点が重要であることを意識しながら参加してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理学統計法特論

**クラス:**

**授業コード:** BJ30200001

**担当者:** 水谷 聡秀 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:公益財団法人研究センターから業務委託

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 心理学で用いられる統計手法を学ぶ。調査や実験などで研究を進めるとき、問題設定から実験計画や調査計画などの設計、データ収集、集計、分析、考察を行う。これらの研究計画を立てる段階から結果の考察にかけて、記述統計や推測統計、多変量解析に関する知識と技術を必要とする。そこで、さまざまな統計処理が解説され、探索的研究や仮説検証的研究での利用法について論じられる。その際、実際のデータを分析することで理解を深める。

**到達目標:**
1. 各自の研究に適切な統計手法が適用できる。
2. 各自で書籍やマニュアルを見てHADによる操作ができる。
3. 記述統計や図示表現、検定、重回帰分析、因子分析などによる分析ができる。

**各回の授業計画:**

1. 統計手法を学ぶにあたって
2. 記述統計(代表値と散布度)
3. 相関関係の分析(相関係数と散布図)
4. 推測統計の基礎
5. 平均値の差に関するt検定
6. 一要因の分散分析
7. 二要因の分散分析
8. カイ2乗検定
9. 回帰分析の基礎
10. 重回帰分析1(モデルの概要)
11. 重回帰分析2(分析の実践)
12. 因子分析1(モデルの概要)
13. 因子分析2(分析の実践)
14. 共分散構造分析
15. その他の統計処理の紹介

**特記事項:** なし

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う

1. 講義、パソコンを使用した授業
2. 講義、演習、パソコンを使用した授業
3. 講義、演習、パソコンを使用した授業
4. 講義、パソコンを使用した授業
5. 講義、演習、パソコンを使用した授業
6. 講義、演習、パソコンを使用した授業
7. 講義、演習、パソコンを使用した授業
8. 講義、演習、パソコンを使用した授業
9. 講義、パソコンを使用した授業
10. 講義、演習、パソコンを使用した授業
11. 講義、演習、パソコンを使用した授業
12. 講義、演習、パソコンを使用した授業
13. 講義、演習、パソコンを使用した授業
14. 講義、演習、パソコンを使用した授業
15. 講義、パソコンを使用した授業

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 予習：学部に勉強した統計手法について把握する（50分）、復習：概念を確認し、各研究テーマへの適用例を考える（130分）
2. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
3. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
4. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認（130分）
5. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
6. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
7. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
8. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
9. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認（130分）
10. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
11. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
12. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
13. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
14. 予習：教科書・参考書の該当した章を読む（50分）、復習・課題：概念や計算法の確認、HAD出力結果の理解（130分）
15. 予習：各自で知りたい内容を勉強する（50分）、復習：15回すべての内容について復習し、各研究テーマへの適用例を考える（130分）

**評価方法：**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 40 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | 課題や宿題 | | 60 **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

**評価基準：**

【最低限の到達度（60～69点）】
・授業へのとりくみ ノートやメモを取り、課題に取り組んでいる。
・課題や宿題 どんな分析をしたか、結果をどう読み取れるかを記載している。
【望ましい到達度（80～100点）】
・授業へのとりくみ 自ら進んで書籍や論文等を読み、データ解析の計画が立てられる。
・課題や宿題 分析法と結果の解釈が適切に記載されている。

**課題へのフィードバック：**

・課題の遂行時に理解を促進するよう双方向にやり取りする。
・課題や宿題の提出期限の次週には講評、あるいは添削後返却する。

**教科書：**

小宮 あすか・布井 雅人 (2024). Excelで今すぐはじめる心理統計 第2版――簡単ツールHADで基本を身につける 講談社

**参考書：**

野島 一彦・繁桝 算男・山田 剛史 (2019). 心理学統計法 (公認心理師の基礎と実践) 遠見書房
山内 光哉 (2009). 心理・教育のための統計法（第3版） サイエンス社
管 民郎 (1993). 多変量解析の実践－初心者がらくらく読める〈上〉 現代数学社

**授業・準備学習のアドバイス：**

Microsoft ExcelのVBAで動く統計プログラムHADを使用します。エクセルさえあればどこでもできます。高度な分析もでき、心理学向けの教育用としては十分と言えます。これを主に用いてデータ処理することで統計手法の理解を深めてもらいます。修士論文でデータ分析する必要のある人には履修することをお薦めします。また、原則的には各統計手法について課題を出し、翌週までに提出とします。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 神経心理学特論

**クラス:**

**授業コード:** BJ40200001

**担当者:** 椎野 智子 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:臨床心理士・公認心理師として複数の大学病院精神科や児童精神科、精神科クリニック等にて臨床心理査定及び臨床心理面接を行う。

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 臨床心理士や公認心理師になる人を対象に、心理専門職の業務として神経心理学に関する理論や方法を理解し、分野の特徴や文脈に合わせながらそれらを実践する力を身につける。

**到達目標:**
① 神経心理学に関する基礎的知識を有し、説明できる。
② 医療分野での実践について概説できる。
③ 精神科・心療内科・神経内科等での実践について概説できる。
④ 保健活動が行われている現場での実践について概説できる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション:神経心理学とは
2. 高次脳機能障害1:失語・失認・失行の理解と支援
3. 高次脳機能障害2:記憶障害の理解と支援
4. 高次脳機能障害3:注意障害・遂行機能障害の理解と支援
5. 高次脳機能障害4:感情障害・意欲・発動性の障害の理解と支援
6. 認知症1:アルツハイマー型認知症の理解と支援
7. 認知症2:レビー小体型認知症の理解と支援
8. 認知症3:前頭側頭型認知症の理解と支援
9. 認知症4:血管性認知症の理解と支援
10. 認知症5:軽度認知障害の理解と支援
11. 神経発達症1:知的発達症の理解と支援
12. 神経発達症2:自閉スペクトラム症の理解と支援
13. 神経発達症3:注意欠如多動症の理解と支援
14. 神経発達症4:限局性学習症・発達性協調運動症の理解と支援
15. 確認テスト及びまとめ:神経心理学の臨床実践について

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 講義形式を中心に、神経心理学についての知識と理論及び支援に関する理解を深める。
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義(対面)
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)
14. 講義(対面)
15. 講義(対面)

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

講義の際に配布する資料をもとに疑問点を整理し、理解を深める。
1. 神経心理学の概念について整理し、理解を深める(180分)

2. 失語・失認・失行について整理し、理解を深める(180分)
3. 記憶障害について整理し、理解を深める(180分)
4. 注意障害・遂行機能障害について整理し、理解を深める(180分)
5. 感情障害・意欲・発動性の障害について整理し、理解を深める(180分)
6. アルツハイマー型認知症について整理し、理解を深める(180分)
7. レビー小体型認知症について整理し、理解を深める(180分)
8. 前頭側頭型認知症について整理し、理解を深める(180分)
9. 血管性認知症について整理し、理解を深める(180分)
10. 軽度認知障害について整理し、理解を深める(180分)
11. 知的発達症について整理し、理解を深める(180分)
12. 自閉スペクトラム症について整理し、理解を深める(180分)
13. 注意欠如多動症について整理し、理解を深める(180分)
14. 限局性学習症・発達性協調運動症について整理し、理解を深める(180分)
15. 神経心理学の臨床実践について整理し、理解を深める(180分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 40 **%** | **確認テスト:** | 50 **%** | **レポート:** | 10 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:**

(最低限の到達度)(60～69点)
・授業中に指定内容の発表を行うことができる。
・授業後に到達課題を提出している。
・配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。
・自分の意見を述べながらレポートを書くことができる。
(望ましい到達度)(80～100点)
・到達課題の記述が適切である。
・配布資料に載っている知識を応用した問題に解答できる。
・根拠を明確にして自説を述べながらレポートを書くことができる。

**課題へのフィードバック:**

授業の最後に復習として到達課題を実施する。課題は次週の授業の冒頭でフィードバックし、解説する。

**教科書:**

教科書は使用しない。

**参考書:**

・公認心理師のための 基礎から学ぶ神経心理学 理論からアセスメント・介入の実践例まで 松田修 他編著 2019年 ミネルヴァ書房 ISBN:9784623084210
・生理心理学と精神生理学 第I巻 基礎 堀忠雄 他監修 2017年 北大路書房 ISBN:9784762829727
・生理心理学と精神生理学 第Ⅱ巻 応用 堀忠雄 他監修 2017年 北大路書房 ISBN:9784762829932
・生理心理学と精神生理学 第Ⅲ巻 展開 堀忠雄 他監修 2018年 北大路書房 ISBN:9784762830198

その他、講義内容に応じて講義中に紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス:**

具体的な事例を紹介しながら授業を進めていきます。積極的な授業参加を望みます。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 認知行動療法特論(心理支援に関する理論と実践)

**クラス:**

**授業コード:** BJ40400001

**担当者:** 吉野 俊彦 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 認知行動療法 (CBT) は、様々な精神障害への介入方法として科学的根拠に基づいて有効性が確認されている。本講義は、1) CBTが認知療法と行動療法の2つの異なるルーツを持って現代の臨床心理学において中核的な位置を占めるようになった背景、2) それぞれの哲学的・理論的基盤、3) そうした基盤に基づいた技法とその適用の注意点について理解することを目的とする。

**到達目標:**
1. CBTを構成する認知療法と行動療法の基本的な背景を理解する
2. それぞれの哲学的・理論的基盤を理解する
3. 実際に用いられている様々な技法とその適用の注意点について理解する

**各回の授業計画:**

1. 認知行動療法の概観 1
2. 認知行動療法の概観 2
3. 認知療法の背景と基本原理
4. 行動療法の背景と基本原理
5. 認知行動療法、認知療法、行動療法の共通点と相違点
6. 認知行動療法とエビデンスベイスト
7. 認知行動療法の適用の実際
8. ケースフォーミュレーションと機能分析
9. 認知行動療法の技法とその適用1
10. 認知行動療法の技法とその適用2
11. 認知行動療法の技法とその適用3
12. 認知行動療法の技法とその適用4
13. 認知行動療法の技法とその適用5
14. 新世代の認知行動療法
15. まとめ

**特記事項:** 対面での実施が原則であるが, 事情によって遠隔で実施することがある。

**授業方法:**
1. 講義
2. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
3. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
4. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
5. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
6. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
7. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
8. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
9. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
10. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
11. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受

講生同士のディスカッション。
12. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
13. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
14. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。
15. 教科書の指定された箇所を読んで、教員宛にディスカッションしたい内容や質問をあらかじめメールで送信する。その資料に基づいて、受講生同士のディスカッション。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
2. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
3. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
4. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
5. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
6. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
7. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
8. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
9. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
10. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
11. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
12. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
13. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
14. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）
15. テキストの予習（90分）、復習と学習内容に基づいての問題点についての考察（90分）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 40 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 60 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 授業への取り組みは、準備に基づいた発表の形式と内容、およびディスカッションへの参加頻度を総合的に評価する。
レポートについては、以下に従って評価を決定する。
36～41 課題のまとめがなされている。
42～47 過不足のないまとめとなっている。
48～53 まとめに従って、自分の意見が述べられている。
54～60 妥当な論証が示された上で自分の意見が述べられている。

---

**課題へのフィードバック：**

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。全体へのフィードバックは行わない。

---

**教科書：** 下山晴彦・熊野宏昭・鈴木伸一 (2017) 臨床心理フロンティアシリーズ 認知行動療法入門 (KS専門書) 講談社

**参考書：** 日本認知・行動療法学会 (編・著) (2025). 認知行動療法ケースブック 主要疾患・実践領域の援助技法を学ぶ 金剛出版
原田隆之 (2015) 心理職のためのエビデンス・ベイスト・プラクティス入門-エビデンスを「まなぶ」「つくる」「つかう」 金剛出版
坂野雄二他 (監) (2012) 60のケースから学ぶ認知行動療法 北大路書房
鈴木伸一・神村栄一 (2013) レベルアップしたい実践家のための事例で学ぶ認知行動療法テクニックガイド 北大路書房

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

個人からの請求に基づいてフィードバックを行う。全体へのフィードバックは行わない。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** コミュニティ心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)

**クラス:**

**授業コード:** BJ50050001

**担当者:** 古川 心 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:臨床心理士、公認心理師(大学院附属相談室の心理士、スクールカウンセラー、発達相談員)

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 本授業では、個人・家族・学校・地域社会など、多層的なコミュニティにおいて生じる心理的課題を理解し、それぞれの場面での心理学的支援の理論と実践方法を学ぶ。
特に、エンパワメント、予防アプローチ、コミュニティアプローチ、アクションリサーチなど、コミュニティ心理学の中核概念を踏まえながら、家族支援・学校支援・地域子育て支援・行政支援などの実践例を通して、心理職が地域の中で果たす役割を理解する。

**到達目標:**
1. コミュニティ心理学の主要概念を説明できる。
2. 家族・学校・地域社会など複数レベルの心理課題を理解し、アセスメントできる。
3. 家族支援、子育て支援、学校支援、地域支援における具体的な心理援助の方法を理解する。
4. 多職種連携、コミュニティアプローチ、アクションリサーチについて理解し、実践場面での応用を検討できる。
5. 多文化社会における心理支援の視点を身につけ、地域の多様性に応じた支援を考えることができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーションコミュニティ心理学とは個人・家族・学校・地域の多層モデル心理支援とコミュニティの関係

2. コミュニティ心理学の基礎概念①(エンパワメントと環境)コミュニティ心理学の歴史エンパワメントの考え方環境との相互作用モデル支援者の役割

3. コミュニティ心理学の基礎概念②(予防・ソーシャルキャピタル)一次・二次・三次予防コミュニティの健康と予防ソーシャルキャピタルと孤立子育て世代への影響

4. 家族を取り巻く社会的変化家族の定義と家族機能の変化家族ストレスモデル現代日本の子育て環境と課題

5. 家族のアセスメント家族システムの理解家族アセスメントの視点(相互作用・境界・役割)家族機能と子どもの心理アセスメント事例

6. 家族への心理支援養育支援・親支援家族内コミュニケーション改善親子関係の支援発達障害児と家族支援

7. 学校コミュニティと心理支援(集団・組織のアセスメント／支援)学校を集団・組織として理解するスクールカウンセラーの視点集団のアセスメント(学級集団・友人関係)組織としての学校支援

8. 学校コミュニティと心理支援(集団・組織のアセスメント／支援)学校を集団・組織として理解するスクールカウンセラーの視点集団のアセスメント(学級集団・友人関係)組織としての学校支援

9. 地域社会のアセスメント②(システムアプローチ)地域システムの理解家庭−学校−地域の連携社会資源の構造コミュニティ支援のシステムデザイン

10. 地域社会への支援①(コンサルテーション・ネットワーク形成)コンサルテーションの基礎サポートネットワークの構築行政・保健・教育との連携ケースマネジメント

11. 地域社会への支援②(自助グループ・居場所づくり)当事者・家族会の役割自助グループの支援子育てサロン、居場所支援参加型コミュニティづくり

12. コミュニティアプローチとアクションリサーチコミュニティアプローチの特徴アクションリサーチ(調査→介入→評価の循環)地域での課題解決プロセス子育て支援における住民参加の実例

13. 多文化支援と地域の多様性多文化背景をもつ家族・子ども言語・文化差と支援のポイント学校・地域における多文化支援国際的研究とのつながり

14. 地域コミュニティの危機介入・予防支援虐待予防・DV予防地域防災・災害時の心理支援チーム支援と連携予防的アプローチの構築

15. まとめと今後の展望コミュニティ心理学のビジョン心理職として地域社会にどう関わるか学生の振り返りと今後の課題

**特記事項:** 個人表現に関する記録法や利用法について実践的に学修するので、個人情報の取り扱いは倫理的配慮をもって行うこと。なお、授業の内容は、受講者の理解や興味・関心に合わせて、変更することがある。

**授業方法:** 本授業は、対面で行う。
全ての授業において、講義と演習・ディスカッションを組み合わせた参加型授業として実施する。
講義では、コミュニティ心理学の基本概念(エンパワメント、予防、ソーシャルキャピタル、システムアプローチ等)や、家族・学校・地域社会における心理支援の理論的枠組みを解説する。あわせて、子育て支援、学校支援、地域支援に関する国内外の研究や実践例を紹介し、理論と実践のつながりを理解する。
演習・ディスカッションでは、家族支援、学校コミュニティ、地域子育て支援、行政・多機関連携などをテーマとした事例検討やグループワークを行い、個人支援にとどまらず、環境やコミュニティ全体を視野に入れた支援の考え方を体験的に学ぶ。特に、家庭・学校・地域の相互関係を整理するワークや、地域資源・支援ネットワークを可視化する演習を通して、コミュニティ支援の視点を深める。

また、担当教員の心理臨床および地域支援の経験を踏まえた具体的事例を用いながら、心理職がコミュニティの中で果たす役割や、多職種・多機関と協働する際の留意点について検討する。
授業全体を通して、受講者が自ら考え、意見を交換しながら学びを深めることを重視し、コミュニティ心理学の視点を将来の臨床実践や地域支援に生かすための基礎的理解を養う。

1～15回 講義、演習、ディスカッション（対面）

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

第1回
予習（90分）
・コミュニティ心理学の基本的な考え方について、配布資料や指定文献を読み、個人・家族・学校・地域という多層的視点の概要を把握する。
復習（90分）
・授業内容を振り返り、心理支援を個人だけでなくコミュニティの中で捉える視点について整理する。

第2回
予習（90分）
・エンパワメント概念および環境との相互作用モデルについて文献を読み、基本的な考え方を整理する。
復習（90分）
・事例をもとに、支援者の関わりが個人や環境にどのような影響を与えるかについて整理・解釈する。

第3回
予習（90分）
・一次・二次・三次予防の考え方や、ソーシャルキャピタルの概念について配布資料・文献を読み、理解する。
復習（90分）
子育て世代を例に、孤立やつながりが心理的健康に与える影響について整理し、まとめる。

第4回
予習（90分）
・現代の家族機能や子育て環境の変化について、配布資料・文献を読み基本的理解を行う。
復習（90分）
・家族ストレスモデルを踏まえ、現代の家族が直面する課題について整理・考察する。

第5回
予習（90分）
・家族システム論および家族アセスメントの視点（相互作用・境界・役割）について文献を読み、理解する。
復習（90分）
・事例をもとに、家族機能と子どもの心理との関連について解釈を行い、まとめる。

第6回
予習（90分）
・養育支援・親支援・親子関係支援の基本的枠組みについて資料を読み、理解する。
復習（90分）
・発達障害児を含む家族支援の事例を振り返り、支援の視点を整理し、まとめる。

第7回
予習（90分）
・学校を集団・組織として捉える視点や、スクールカウンセラーの役割について、配布資料・文献を読み、理解する。
復習（90分）
・学級集団や学校組織を対象とした支援の特徴について整理・考察する。

第8回
予習（90分）
・コミュニティリサーチおよびニーズアセスメントの基本的手法について文献を読み、まとめる。
復習（90分）
・地域のリスク因子・保護因子を整理し、子育て支援ニーズの捉え方について考察する。

第9回
予習（90分）
・地域システムや社会資源の構造について配布資料・文献を読み理解する。
復習（90分）
・家庭・学校・地域の連携構造を整理し、コミュニティ支援の枠組みについてまとめる。

第10回
予習（90分）
・コンサルテーションおよびケースマネジメントの基本概念について配布資料・文献を読みまとめる。
復習（90分）
・多機関連携による支援の特徴や留意点について整理・考察する。

第11回
予習（90分）

・自助グループや居場所支援の意義について配布資料・文献を読み、まとめる。
復習(90分)
・参加型コミュニティづくりの事例を振り返り、心理職の役割について整理し、考察する。

第12回
予習(90分)
・アクションリサーチの考え方とプロセスについて配布資料・文献を読み、まとめる。
復習(90分)
・調査・介入・評価の循環を踏まえ、地域課題へのアプローチ方法を整理し、考察する。

第13回
予習(90分)
・多文化背景をもつ家族・子どもへの支援に関する配布資料・文献を読み、まとめる。
復習(90分)
・文化的多様性を踏まえた支援の留意点について整理・考察する。

第14回
予習(90分)
・虐待予防、DV予防、災害時支援に関する配布資料・文献を読み、まとめる。
復習(90分)
・地域における危機介入と予防的支援の枠組みについて整理し、考察する。

第15回
予習(90分)
・これまでの授業内容を振り返り、心理職として地域社会にどう関わるかを考えておく。
復習(90分)
・コミュニティ心理学の視点を自身の今後の実践や研究にどう生かすかを整理し、振り返りを行う。

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 30 **%** | **確認テスト:** | - **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | 最終課題 | | 30 **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

---

**評価基準:**

【最低限の到達度(60-69点)】
・コミュニティ心理学の基本的な概念や用語について、最低限の理解を有している。
・授業で扱った家族・学校・地域に関する内容について、講義や資料をもとに概要を把握している。
・授業やディスカッションに参加し、指示に従って課題に取り組んでいる。

【標準的な到達度(70-79点)】
・コミュニティ心理学の主要概念(エンパワメント、予防、システム等)を理解している。
・事例や実践例をもとに、個人と環境の相互作用の視点から課題を整理し、自分の言葉で説明することができる。
・授業内のディスカッションや課題において、考えを述べながら学びを深めている。

【望ましい到達度(80-100点)】
・コミュニティ心理学の理論と実践について十分に理解し、家庭・学校・地域といった多層的視点から心理支援を捉える基礎的な力を身につけている。
・授業で扱った事例について、理論を踏まえた考察を行い、支援の在り方について整理して述べることができる。
・授業全体を通した学びを振り返り、心理職として地域社会にどのように関わるかについて考察している。

---

**課題へのフィードバック:**

適宜、授業中にフィードバックを行う。

---

**教科書:** なし

**参考書:** 適宜、紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

毎回の授業において、事前に配布資料や指定された文献に目を通し、基本的な概念や用語を把握したうえで授業に臨むことが望ましい。また、授業では、講義内容に加え、事例紹介やディスカッション、グループワークを行うため、受講者自身の考えや疑問点を整理しながら主体的に参加することが重要である。さらに、授業後は、扱った理論や事例を振り返り、家族・学校・地域のどのレベルでの支援が考えられるかを整理することが学修の定着につながる。また、分からなかった点や関心をもったテーマについては、関連文献を参照しながら理解を深めることが望ましい。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 社会心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

**クラス:**

**授業コード:** BJ50100001

**担当者:** 田中 健吾 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:大阪府商工労働部雇用推進室労働環境課メンタルヘルス専門相談員

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 職場における心理的問題を理解するために必要な、産業心理臨床領域の法律・制度や人的資源管理に係る様々な理論的背景および職業性ストレス理論について学習することを目的とする。

**到達目標:** 本授業における学習の到達目標は以下の通りである。
1. 心理学的職場ストレスモデルの考え方に沿って、ストレスの発生から個人が心理状態を損なうまでのプロセスを説明できること。
2. ワークモチベーション理論や人的資源管理の手続きを説明できること。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 心理学的ストレスモデル
3. 職業性ストレス理論
4. 職場メンタルヘルス活動と産業カウンセリング 1
5. 職場メンタルヘルス活動と産業カウンセリング 2
6. 職場のコミュニケーションとワークエンゲージメント
7. ストレスチェック制度
8. 産業心理臨床に関わる制度・法律等
9. 復職支援の実際
10. 職場におけるハラスメントの現状と対策
11. ワークモチベーション理論1
12. ワークモチベーション理論2
13. 健康経営
14. 産業心理臨床事例の検討
15. まとめ

**特記事項:** 授業は講義形式を基本とするが、毎回授業内で討議の時間を設ける。
※受講人数や進捗等によって変更の可能性がある。
※順序についても変更の可能性がある。

---

**授業方法:** すべての授業を対面で行う。
講義と演習・グループワーク、ディスカッション。
ただし、受講者数によって変更する場合がある。

1. 講義
2. 講義とディスカッション
3. 講義とディスカッション
4. 講義とディスカッション
5. 講義とディスカッション
6. 講義とディスカッション
7. 講義とディスカッション
8. 講義とディスカッション
9. 講義とディスカッション
10. 講義とディスカッション
11. 講義とディスカッション
12. 講義とディスカッション
13. 講義とディスカッション
14. 講義とディスカッション
15. 講義とディスカッション

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. 予習：産業心理臨床とは何か考える（90分）、復習：産業心理臨床の考え方について（90分）
2. 予習：心理学的ストレスモデルについて（90分）、復習：医学モデルと心理モデルについて（90分）
3. 予習：職場ストレスについて（90分）、復習：医学的モデルについて（90分）
4. 予習：職場メンタルヘルス活動について1（90分）、復習：産業カウンセリング事例検討（90分）
5. 予習：職場メンタルヘルス活動について2（90分）、復習：産業カウンセリング事例検討（90分）
6. 予習：ワークエンゲージメントについて（90分）、復習：職場のコミュニケーションとワークエンゲージメントについて（90分）
7. 予習：ストレスチェック制度に関連する法規について（90分）、復習：職業性ストレス簡易調査票についてのレポート（90分）
8. 予習：産業心理臨床に関わる制度・法律について（90分）、復習：組織運営に関わる制度・法律について（90分）
9. 予習：復職支援について（90分）、復習：復職支援の制度やリワークプログラムについて（90分）
10. 予習：ハラスメントが及ぼす影響について（90分）、復習：ハラスメントの心理・社会的影響について（90分）
11. 予習：仕事の動機付けについて考える（90分）、復習：内容理論について（90分）
12. 予習：仕事の動機付けについて考える（90分）、復習：過程理論について（90分）
13. 予習：健全な職場について考える（90分）、復習：健康経営について（90分）
14. 予習：これまでの学習内容について確認（90分）、復習：最近のトピックについて（90分）
15. 予習：これまでの学習内容について再確認（90分）、復習：全体の総括（90分）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 **%** | **確認テスト：** | － **%** | **レポート：** | 50 **%** |
| **その他1：** | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

---

**評価基準：** レポート（50%）および講義内の質疑応答（50%）において、以下の基準で評価する。

100～80点 到達目標（心理学的ストレスモデル，ワークモチベーション理論各論等の理解）を十分に達成できている優れた成績
79～70点 到達目標（心理学的ストレスモデル，ワークモチベーション理論各論等の理解）を達成できている成績
69～60点 到達目標（心理学的ストレスモデル，ワークモチベーション理論各論等の理解）を最低限達成できている成績

---

**課題へのフィードバック：**

講義内で個別にコメントする。

---

**教科書：** 田中健吾・高原龍二（編著）『産業・組織心理学TOMORROW』八千代出版
川上憲人『基礎からはじめる職場のメンタルヘルス：事例で学ぶ考え方と実践ポイント』

**参考書：** 小杉正太郎（編著）『ストレスと健康の心理学』朝倉書店
田中健吾『ソーシャルスキルと職業性ストレス：企業従業員の臨床社会心理学的研究』晃洋書房

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

授業は講義形式を基本とするが、議論のための時間を設け全員参加の場とする。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 対人行動学特論

**クラス:**

**授業コード:** BJ50200001

**担当者:** 金政 祐司 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 人は他者との関係性のなかに編み込まれている。私たちは他者の存在なくしては自らの存在を認識することさえも危うくなる。このような観点から、まず、私が他者と関わっていくということはどういうことなのかについて親密な他者との関係性に焦点を当て話を進めていく。次に、私と集団や社会から受けている影響やそのネットワークの重要性について解説し、その後、社会や文化といった普段は気にもとめないような大きなものから影響を受けている私と、それと同時に、社会や文化に積極的に関わっていく存在でもある私について、日常的な出来事と関連させながら説明を行う。本講義では、私と他者との関係性、また、私と社会や文化との関わりについて、実社会においても役立つような知識の育成を目指す。

**到達目標:** 1. 自己や親密な関係についての諸理論を理解することができる。
2. 自己や他者のとらえ方が他者との関係性や適応性に及ぼす影響について理解することができる。
3. 個人と集団との関わりについて理解することできる。
4. 個人と社会や文化との関わりに理解することができる。
5. 授業内容に対する自分の考えや疑問を言語化することができる。
講義を行うとともに学生に講義内容に関しての発言を求め、討論を行いながら進めていく。講義で得られた知識をいかに実社会に連動させるかについて思索しながら、対人行動

**各回の授業計画:**

1. イントロダクション・わたしとは何か?(1) 講義の内容、評価方法の説明
心理学での自己の諸理論の説明
2. わたしとは何か?(2) 自己評価過程、自尊心、自己と適応
3. わたしが他者と関わる時(1) 対人認知、印象形成、ステレオタイプについて
4. わたしが他者と関わる時(2) 青年期の愛着スタイル、自己成就予言
5. 親密な関係の光と影(1) 好意と愛情、報酬の返報性、親密な関係の維持
6. 親密な関係の光と影(2) ソーシャルサポート、関係葛藤、DV
7. 他者に見せるわたし(1) 自己呈示、セルフ・ハンディキャッピング
8. 他者に見せるわたし(2) 自己呈示とは？親密な他者への自己呈示について
9. 集団に所属すること(1) 他者からの影響、ネットワーク理論
10. 集団に所属すること(2) 小さな世界問題、社会的ジレンマ
11. 社会のなかの落とし穴(1) 悪質商法
12. 社会のなかの落とし穴(2) 説得と承諾のメカニズム
13. 私の文化を越えて(1) 文化的自己観
14. 私の文化を越えて(2) 認知と文化、幸福感や価値と文化の関係
15. 本講義のまとめとして

**特記事項:** なし

**授業方法:** 1. 講義＆ディスカッション【対面】
2. 講義＆ディスカッション【対面】
3. 講義＆ディスカッション【対面】
4. 講義＆ディスカッション【対面】
5. 講義＆ディスカッション【対面】
6. 講義＆ディスカッション【対面】
7. 講義＆ディスカッション【対面】
8. 講義＆ディスカッション【対面】
9. 講義＆ディスカッション【対面】
10. 講義＆ディスカッション【対面】
11. 講義＆ディスカッション【対面】
12. 講義＆ディスカッション【対面】

13. 講義＆ディスカッション【対面】
14. 講義＆ディスカッション【対面】
15. ディスカッション【対面】

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. 上記の各回の計画で示した第1回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
2. 上記の各回の計画で示した第2回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
3. 上記の各回の計画で示した第3回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
4. 上記の各回の計画で示した第4回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
5. 上記の各回の計画で示した第5回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
6. 上記の各回の計画で示した第6回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
7. 上記の各回の計画で示した第7回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
8. 上記の各回の計画で示した第8回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
9. 上記の各回の計画で示した第9回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
10. 上記の各回の計画で示した第10回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
11. 上記の各回の計画で示した第11回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
12. 上記の各回の計画で示した第12回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
13. 上記の各回の計画で示した第13回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
14. 上記の各回の計画で示した第14回目の授業のトピックについて、配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）
15. これまでの授業内容を総括し、全体的に配付資料や教科書を読んでおくこと（所要時間180分程度）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 55 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 45 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：**

（60点～69点）
自己や親密な関係についての諸理論、自己や他者のとらえ方が他者との関係性や適応性に及ぼす影響、また、個人と集団との関わり合いについて理解することができる。
（70点～79点）
上記のことがらについて自分の意見や疑問を言語化することができる。
（80点～100点）
意見や疑問の言語化を踏まえ、自分の修士論文での研究テーマとつなげてより深い議論を行うことができる。

---

**課題へのフィードバック：**

授業内での解説ならびにフィードバックを原則とするが、難易度の高い課題や重要度の高い課題については授業後の質問などにおいて対応する。

---

**教科書：** 「わたしから社会へ広がる心理学」 金政祐司・石盛真徳（編著） 北樹出版

**参考書：** 「公認心理師の基礎と実践 第11巻 社会・集団・家族心理学」 竹村和久（編） 遠見書房
「史上最強図解よくわかる恋愛心理学」 金政祐司・相馬敏彦・谷口淳一（著） ナツメ社

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業内容と関連する文献を読んでおくこと。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 司法・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

**クラス:**

**授業コード:** BJ50400001

**担当者:** 森 丈弓 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:法務省の刑務所, 少年鑑別所にて実務経験あり

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 我が国の刑事司法制度について理解し、科学的根拠に基づいた犯罪者処遇・教育の理論、実際の支援の展開について理解する。
犯罪、非行行動について、基礎理論、犯罪統計、研究法等について知識を深めることで、社会の中で犯罪がどのように捉えられかを概説する。
犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について説明する。

**到達目標:** 我が国の刑事司法制度について説明できるようになる。
科学的根拠に基づいた犯罪者処遇・教育の理論、支援とはどのようなものであるか、説明できるようになる。
実際の支援に理論を生かすためには、どのような方策が考えられるか説明できるようになる。
犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を理解し、自分の言葉で説明できる。
犯罪とは何か、犯罪の実体的真実とは何かについて、理解し、説明できる。
司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について理解し、自分の言葉で説明できる。

**各回の授業計画:**

1. 導入 犯罪心理学とは何か、犯罪を科学的に検討するとはどういうことかを理解する。司法・犯罪心理学の概要と応用の実際について説明する。

2. 犯罪の実数について解説する。犯罪の認知、認知件数、検挙、検挙件数について解説する。犯罪統計が世論及び警察の捜査活動の影響を受けてどのように変化するか解説する。

3. 成人の刑事司法における犯罪者処遇の流れを、法律の条文等を参照しながら解説する。留置所、拘置所、刑務所、検察官、裁判所の役割について解説する。
我が国における刑事司法制度について理解を深める。

4. 少年司法における犯罪者処遇の流れを、法律の条文等を参照しながら解説する。少年鑑別所、少年院の役割について解説する。
少年保護法制について理解を深める。

5. 犯罪理論について概説する。犯罪がなぜ起こるか、どういった視点から捉えて理解するかについて解説する。

6. 犯罪者に対するリスクのアセスメント及び処遇において、現在、標準的な理論とされているRNRモデル(Bonta & Andrews, 2016)について解説する。
犯罪者処遇におけるリスクアセスメントの意義について理解する。再犯という視点から犯罪現象をとらえることの重要さを理解する。
リスクアセスメントにおける重要な原則であるRNR原則を理解する。

7. 犯罪者処遇が、リスクアセスメントにおいてどのように発展してきたのか、その歴史的経緯を知る。
リスクアセスメントツールがどういったものであるかを理解する。
YLS/CMIという具体的なツールについて、それが犯罪・非行臨床場面においてどのように利用することが可能かを理解する。
YLS/CMIの具体的なスコアリングの基準を知り、非行臨床の査定面接において何がポイントとなるかを理解する。

8. リスクアセスメントの下支えとなっている再犯研究について、実際の分析例を例にとって理解を深める。
再犯研究の結果を元に、どのようにリスクアセスメントツールが構成されていくのか、その手続きを理解する。
再犯を分析した結果が、実際の非行少年処遇にどのように活かすことができるかについて考察し、実証的な根拠に基づいた刑事政策がどういったものであるのか理解を深める。
エビデンスを生み出し、効果的な教育の手段を探る上で、プログラム評価が重要であることを理解する。

9. 効果検証において生じる各種のバイアスについて理解する。これは犯罪分析のみならず、広く臨床研究一般における効果検証において重要であることを知る。
再犯研究の実際の例を概観して、効果検証のやり方、問題点を理解する。
エビデンス(科学的根拠)に基づく介入、あるいは施策が陥りやすい問題について理解を深める。

10. 犯罪・司法に関わる機関・施設における活動について解説する。
家庭裁判所、少年鑑別所、少年院、保護観察所、地方更生保護委員会、児童相談所について解説する。

11. 児童相談所における非行への対応～司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について解説する。
家庭裁判所の在宅事件における非行への対応～司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について解説する。

12. 少年鑑別所・少年院での処遇～司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について解説する。

13. 刑事施設における成人犯罪者への教育・処遇～司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について解説する。

14. 犯罪被害についての基本的知識について解説する。家事事件についての基本的知識について解説する。

15. 研究例紹介・まとめ

内容を整理し、理解した点、疑問点についての点検を行う。

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** すべて対面で行う

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
2. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
3. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
4. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
5. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
6. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
7. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
8. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
9. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
10. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
11. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
12. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
13. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
14. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)
15. 今回の授業で進めたテキストの該当部分を再度読む。また、次回に講義する内容について、予め概要を述べるので、授業開始までにテキストの該当部分を読んでおき、自分なりの疑問点を把握しておく(180分)

---

| **評価方法:** | **授業へのとりくみ:** | 80 **%** | **確認テスト:** | − **%** | **レポート:** | 20 **%** |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | **その他1:** | | | **%** | | |
| | **その他2:** | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 「評価方法」の1～3について、以下の基準を満たすことが求められます。

1. 授業へのとりくみ(授業態度、関心・意欲、発表など)

・授業内容の各トピックスに対して、基本的な関わりにより授業への参加がなされている(60～69点)。

・授業内容の各トピックスに対して、自ら積極的に関わりを持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている(80～100点)。

2. 確認テスト

・各トピックスで学んだことに関して、犯罪分野におけるリスクアセスメントについての学習内容をある程度理解している(60～69点)。

・各トピックスで学んだことに関して、刑事司法制度への理解を含めて、犯罪分野のリスクアセスメントが我が国の刑事司法制度にどのように位置づけられるかを理解し、説明することができる(80～100点)。

3. 小レポート
・各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）。
・各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている（80～100点）。

---

**課題へのフィードバック：**

レポートは添削し、コメントをつけて返却する。

---

**教科書：** 森 丈弓他 司法・犯罪心理学 サイエンス社
授業で使いますので，無いと理解が困難になります。

**参考書：** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

レポートは添削し、コメントをつけて返却する。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)

**クラス:**

**授業コード:** BJ60100001

**担当者:** 椎野 智子 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:臨床心理士・公認心理師として複数の大学病院精神科や児童精神科、精神科クリニック等にて臨床心理査定及び臨床心理面接を行う。

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 臨床心理士や公認心理師になる人を対象に、心理専門職の業務として必要な精神医学に関する理論や方法を理解し、それらを臨床現場で実践する力を身につける。

**到達目標:**
①精神医学に関する基礎的知識を有し、説明できる。
②医療分野での実践について概説できる。
③精神科・心療内科等での実践について概説できる。
④保健活動が行われている現場での実践について概説できる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション:精神医学とは
2. 精神医学の歴史
3. 抑うつ症の理解と支援
4. 双極症の理解と支援
5. 統合失調症の理解と支援
6. 不安症の理解と支援
7. 強迫症の理解と支援
8. 心的外傷及びストレス因関連症の理解と支援
9. 解離症の理解と支援
10. 身体症状症の理解と支援
11. 食行動症及び摂食症の理解と支援
12. 秩序破壊的・衝動制御・素行症の理解と支援
13. 物質関連症及び嗜癖症の理解と支援
14. パーソナリティ症の理解と支援
15. 確認テスト及びまとめ:保健医療分野での臨床実践について

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 講義形式を中心に、精神医学についての知識と理論及び支援に関する理解を深める。
1. 講義(対面)
2. 講義(対面)
3. 講義(対面)
4. 講義(対面)
5. 講義(対面)
6. 講義(対面)
7. 講義(対面)
8. 講義(対面)
9. 講義(対面)
10. 講義(対面)
11. 講義(対面)
12. 講義(対面)
13. 講義(対面)
14. 講義(対面)
15. 講義(対面)

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

講義の際に配布する資料をもとに疑問点を整理し、理解を深める。
1. 精神医学の概念について整理し、理解を深める(180分)

2. 精神医学の歴史について整理し、理解を深める(180分)
3. 抑うつ症について整理し、理解を深める(180分)
4. 双極症について整理し、理解を深める(180分)
5. 統合失調症について整理し、理解を深める(180分)
6. 不安症について整理し、理解を深める(180分)
7. 強迫症について整理し、理解を深める(180分)
8. 心的外傷及びストレス因関連症について整理し、理解を深める(180分)
9. 解離症について整理し、理解を深める(180分)
10. 身体症状症について整理し、理解を深める(180分)
11. 食行動症及び摂食症について整理し、理解を深める(180分)
12. 秩序破壊的・衝動制御・素行症について整理し、理解を深める(180分)
13. 物質関連症及び嗜癖症について整理し、理解を深める(180分)
14. パーソナリティ症について整理し、理解を深める(180分)
15. 保健医療分野における臨床実践について整理し、理解を深める(180分)

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 40 **%** | **確認テスト:** | 50 **%** | **レポート:** | 10 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

---

**評価基準:**

(最低限の到達度)(60～69点)
・授業中に指定内容の発表を行うことができる。
・授業後に到達課題を提出している。
・配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。
・自分の意見を述べながらレポートを書くことができる。
(望ましい到達度)(80～100点)
・到達課題の記述が適切である。
・配布資料に載っている知識を応用した問題に解答できる。
・根拠を明確にして自説を述べながらレポートを書くことができる。

---

**課題へのフィードバック:**

授業の最後に復習として到達課題を実施する。課題は次週の授業の冒頭でフィードバックし、解説する。

---

**教科書:** 教科書は使用しない。

**参考書:** American Psychiatric Association(原著) 日本精神神経学会(日本語版用語監修) DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル, 医学書院, 2023

その他、講義内容に応じて講義中に紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

具体的な事例を紹介しながら授業を進めていきます。積極的な授業参加を望みます。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 精神保健学特論(心の健康教育に関する理論と実践)

**クラス:**

**授業コード:** BJ60150001

**担当者:** 田中 健吾 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:総合病院精神神経科心理士

**教職課程における位置づけ:** -

**含めることが必要な事項:** -

**教科に関する専門的事項:** - **一般的包括的科目:** -

**授業の目的:** 多様なストレス問題の増加に伴い、メンタルヘルスリテラシー(心の健康教育)の重要性とそのあり方が問われている。ストレス問題は、ストレス科学、心身医学、健康科学、予防医学、臨床医学だけでなく、倫理問題や法律問題まで幅広く関連している。そこで、本授業の目的は、①こころの健康教育についての理論の理解、②ストレスに関する理論と実践、③具体的な医療・保健活動などにおける心理的支援の最新かつ正確な知識と技術の習得とする。

**到達目標:** ①心理的支援の実践にあたって、心理学的視点だけでなく、生物学的視点、社会的視点、倫理的視点の習得。
②病気になってからどうするという疾病志向に立脚した捉え方に留まらず、よりポジティブに健康生成の観点から健康志向の重要性の習得。
③働き方改革にみられるように、個人対応の限界もみられる現在、集団として心の健康評価を進める上で必要な理論と実践についての習得。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 心の健康教育とは
3. 健康行動と健康心理学/ポジティブ心理学
4. 心理学的ストレスモデルの構成要因(ストレッサーとストレス反応)
5. 心理学的ストレスモデルの構成要因(コーピング)
6. 心理学的ストレスモデルの関連要因(ソーシャルサポート)
7. 心理学的ストレスモデルの関連要因(ソーシャルスキル)
8. 心の健康と心理社会的アプローチ(精神疾患とソーシャルスキルトレーニング)
9. 心の健康と心理社会的アプローチ(家族への心理教育の方法と有効性)
10. 心の健康と心理社会的アプローチ(アルコール依存等への対応)
11. トピック(産業心理臨床等の事例検討)
12. 心の健康教育に関する研究動向①
13. 心の健康教育に関する研究動向②
14. 心の健康教育に関する研究動向③
15. まとめ

**特記事項:** 講義に加え、調べ学習・討論を通じて臨床応用へとつなげる。

**授業方法:** すべての授業を対面で行う。
講義と演習・グループワーク、ディスカッション。
ただし、受講者数によって変更する場合がある。

1. 講義
2. 講義とディスカッション
3. 講義とディスカッション
4. 講義とディスカッション
5. 講義とディスカッション
6. 講義とディスカッション
7. 講義とディスカッション
8. 講義とディスカッション
9. 講義とディスカッション
10. 講義とディスカッション
11. 講義とディスカッション
12. 発表とディスカッション
13. 発表とディスカッション

14. 発表とディスカッション
15. 講義とディスカッション

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（心の健康に関する諸問題についてまとめる）・関連文献を読む
2. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（心の健康教育の理論についてまとめる）・関連文献を読む
3. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（健康行動およびポジティブ心理学についてまとめる）・関連文献を読む
4. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（ストレッサーとストレス反応についてまとめる）・関連文献を読む
5. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（ストレスコーピングについてまとめる）・関連文献を読む
6. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（ソーシャルサポートについてまとめる）・関連文献を読む
7. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（ソーシャルスキルについてまとめる）・関連文献を読む
8. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（精神疾患とソーシャルスキルトレーニングについてまとめる）・関連文献を読む
9. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（家族への心理教育の方法と有効性についてまとめる）・関連文献を読む
10. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（様々なアディクションへの対応についてまとめる）・関連文献を読む
11. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（産業心理臨床等の事例検討の要点についてまとめる）・関連文献を読む
12. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（関連する最新の論文についてまとめる）・関連文献を読む
13. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（関連する最新の論文についてまとめる）・関連文献を読む
14. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（関連する最新の論文についてまとめる）・関連文献を読む
15. 180分の（4時間×45分）の予習・復習（今後の課題についてまとめる）・関連文献を読む

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 50 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 基礎的な専門用語を説明することができる。心の健康教育に関する理論と実践について説明できる。心の健康教育に関する理論と実践について現状と支援について心の健康教育的観点でまとめることができる。（60-69）
一般的な専門用語を詳しく説明する事ができる。心の健康教育に関する理論と実践について詳しく説明できる。心の健康教育問題について心の健康教育的観点で詳しくまとめることができる。（80-100）

---

**課題へのフィードバック：**

課題のフィードバックは、毎回の授業で行う。

---

**教科書：** 『心の健康教育ハンドブック―こころもからだも健康な生活を送るために』坂野雄二・百々尚美・本谷亮（編著），金剛出版.
『ストレスと健康の心理学』小杉正太郎（編著），朝倉書店.

**参考書：** 『働く女性のストレスとメンタルヘルスケア』丸山総一郎（編著），創元社.

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

授業内容・構成は、公認心理師養成大学教員連絡協議会の策定した標準シラバスを踏まえたものです。エビデンスに基づいた科学者-実践者モデルに基づいた学習姿勢を期待します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)

**クラス:**

**授業コード:** BJ60170001

**担当者:** 古川 心 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:公認心理師・臨床心理士(大学院附属相談室の心理士、スクールカウンセラー、発達相談員)

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 本授業では、福祉分野において生じる心理的課題とその背景を理解し、子ども・家庭、障害者、高齢者などを対象とした心理学的支援の理論と実践について学ぶ。
公認心理師・臨床心理士として求められる福祉領域の知識、福祉制度・支援体制と心理的支援との関係を理解する。
特に、親子関係支援や発達支援、学校・地域と連携した支援に関する心理臨床の知見をもとに、福祉現場において心理職がどのような役割を果たすのかを具体的に学ぶ。事例や実践例を通して、個人への心理支援にとどまらず、家族や支援者、関係機関を含めた包括的な支援の視点を養う。

**到達目標:**
1. 福祉分野(児童・家庭、障害者、高齢者)における心理的課題と支援の枠組みを説明できる。
2. 福祉制度や支援体制の中で、心理職(公認心理師・臨床心理士)が担う役割を説明できる
3. 親子関係や家族環境、発達の視点から福祉的課題を心理臨床的に整理できる。
4. 福祉現場における多職種・多機関連携の意義と留意点を理解し、説明できる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション／福祉心理学の枠組み
福祉分野における心理支援とは心理専門職(公認心理師・臨床心理士)に求められる役割
2. 福祉制度と心理専門職福祉制度の全体像心理支援との関係
3. 児童・家庭福祉と心理支援①
家族機能・親子関係子育て環境と心理的課題
4. 児童・家庭福祉と心理支援②児童虐待・養育困難予防と支援の視点
5. 児童相談・発達相談における心理職児童相談所・発達相談の役割アセスメントとの接続
6. 発達障害と福祉的支援
発達障害の理解家族支援・療育
7. 障害者福祉と心理支援知的障害・行動障害就労・生活支援
8. 家族支援とペアレント・トレーニング
親支援の理論実践的視点
9. 高齢者福祉の基礎
高齢期の心理介護家族支援
10. 認知症と心理的支援
非薬物的介入家族・地域との連携
11. 意思決定支援と倫理
高齢者・障害者支援倫理的配慮
12. 家庭内暴力(DV)と心理支援
被害理解安全配慮と連携
13. 福祉分野における心理支援の実践事例
領域横断的事例
14. 多職種連携とチーム支援心理専門職の役割
15. まとめ:福祉領域における心理職の専門性

**特記事項:** 個人表現に関する記録法や利用法について実践的に学修するので、個人情報の取り扱いは倫理的配慮をもって行うこと。なお、授業の内容は、受講者の理解や興味・関心に合わせて、変更することがある。

**授業方法:** 本授業は、対面で行う。
全ての授業において、講義と事例検討、ディスカッション(発表を含む)を組み合わせた参加型授業を実施する。
講義では、福祉分野に関する心理学的理論や支援の枠組み、制度や支援体制の概要について解説し、公認心理師および臨床心理士として必要な基礎的理解を深める。あわせて、児童・家庭、障害者、高齢者などの福祉領域における具体的な事例や実践例を取り上げ、心理的課題と生活・制度的背景との関係を整理しながら、心理職の関わり方について検討する。ディスカッションでは、受講者同士の意見交換を通して、多職種・多機関連携の意義や、福祉現場における心理職の役割について理解を深める。これにより、理論と実践を結びつけながら、福祉分野における心理臨床の視点を養うことを目指す。

なお、本授業は「心理的アセスメントに関する理論と実践」「コミュニティ心理学」などの関連科目と連動し、福祉領域における心理職の実践を多角的に理解できるよう構成する。

1～15回：講義、ディスカッション、発表（対面）

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

第1回
予習（90分）
福祉分野における心理職の役割について、配布資料や指定文献を読み、福祉と心理の関係の全体像を把握する。
復習（90分）
福祉心理学の位置づけを整理し、公認心理師・臨床心理士に求められる視点についてまとめる。

第2回
予習（90分）
福祉制度の基本的枠組みについて配布資料・文献を読み、心理支援と制度との関係を整理する。
復習（90分）
制度の中で心理職がどのような役割を担うのかについて、授業内容をもとに整理し、まとめる。

第3回
予習（90分）
家族機能や親子関係に関する基本的概念を確認し、子どもの発達と家庭環境の関係を理解する。
復習（90分）
家庭環境が子どもの心理に与える影響について、授業内容を整理し、まとめる。

第4回
予習（90分）
児童虐待や養育困難に関する基礎資料を読み、心理的背景について把握する。
復習（90分）
予防的視点を含め、児童・家庭への心理支援のあり方を整理し、まとめる。

第5回
予習（90分）
児童相談所や発達相談の役割について配布資料・文献を読み、心理職の関わり方を理解する。
復習（90分）
アセスメントと支援がどのようにつながるかについて、授業内容をもとに整理し、まとめる。

第6回
予習（90分）
発達障害の基本的理解と福祉的支援の枠組みについて配布資料・文献を読み、まとめる。
復習（90分）
家族支援や療育の視点を含め、発達障害支援の特徴を整理し、まとめる。

第7回
予習（90分）
知的障害・行動障害に関する配布資料・文献を読み、支援の枠組みを理解する。
復習（90分）
生活支援や就労支援を含めた心理職の役割について整理し、まとめる。

第8回
予習（90分）
家族支援およびペアレント・トレーニングについて配布資料・文献を読み、基本的考え方を理解する。
復習（90分）
親支援が子どもや家族全体に与える影響について整理する。

第9回
予習（90分）
高齢期の心理的特徴や高齢者福祉の枠組みについて配布資料・文献を読み、理解する。
復習（90分）
介護家族支援を含め、高齢者福祉における心理職の役割を整理する。

第10回
予習（90分）
認知症の心理的側面や非薬物的介入について配布資料・文献を読み、理解する。
復習（90分）
本人および家族への心理支援の視点について整理する。

第11回
予習（90分）
意思決定支援や倫理的配慮に関する基本概念について配布資料・文献を読み、理解する。
復習（90分）

高齢者・障害者支援における倫理的課題について整理する。

第12回
予習(90分)
家庭内暴力(DV)に関する配布資料・文献を読み、心理的影響を理解する。
復習(90分)
被害者支援における心理職の役割や安全配慮について整理する。

第13回
予習(90分)
提示された事例資料に目を通し、福祉と心理支援の関係を考えておく。
復習(90分)
事例を通して、領域横断的な支援の視点を整理する。

第14回
予習(90分)
多職種連携やチーム支援に関する資料を確認する。
復習(90分)
心理職の専門性と他職種との協働のあり方について整理する。

第15回
予習(90分)
これまでの授業内容を振り返り、福祉分野で心理職が果たす役割について考えておく。
復習(90分)
福祉心理学の学びを自身の今後の臨床・実践にどのように生かすかを整理し、まとめる。

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 30 **%** | **確認テスト:** | − **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | 最終課題 | | 30 **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

---

**評価基準:**

【最低限の到達度(60-69点)】
・福祉心理学の基本的概念や用語について、最低限の理解を有している。
・授業で扱った福祉分野(児童・家庭、障害者、高齢者)について、概要を把握している。
・授業に参加し、指示に従って課題やディスカッションに取り組んでいる。

【標準的な到達度(70-79点)】
・福祉心理学の主要な理論や支援の枠組みについて理解している。
・福祉制度や支援体制と心理的課題との関係を整理し、自分の言葉で説明できる。
・事例や授業内容をもとに、心理職の役割や支援の視点について考察を行っている。

【望ましい到達度(80-100点)】
・福祉心理学の理論と実践について十分に理解し、福祉分野における心理職(公認心理師・臨床心理士)の役割を総合的に捉える基礎的力を身につけている。
・家族・発達・高齢・障害といった複数の福祉領域を関連づけながら、心理的支援の在り方について理論的に整理し、考察することができる。
・多職種・多機関連携や倫理的配慮を踏まえた視点が、課題や発言において示されている。

---

**課題へのフィードバック:**

適宜、授業内でフィードバックを行う。

---

**教科書:** なし

**参考書:** 適宜、紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

授業に先立って、配布資料や指定された文献に目を通し、福祉制度や各支援領域(児童・家庭、障害者、高齢者等)の基本的な枠組みや用語を把握しておくことが望ましい。
授業では、講義に加えて事例紹介やディスカッションを行うため、内容を一方的に理解するだけでなく、心理職の立場からどのような支援の視点が求められるかを意識しながら参加することが重要である。特に、個人への支援と福祉制度・支援体制との関係に注目し、心理支援がどのように位置づけられているかを考えながら授業内容を捉えてほしい。
授業後は、扱った理論や事例を振り返り、福祉分野における心理的課題と支援の在り方について整理することが理解の定着につながる。あわせて、関連する文献や資料に目を通し、授業で取り上げた内容を自身の関心領域や今後の臨床実践と結びつけて考えることが望ましい。
なお、授業内で扱う事例や意見交換においては、倫理的配慮や守秘義務を意識し、心理専門職を目指す立場として適切な態度で学修に取り組むこと。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理療法特論

**クラス:**

**授業コード:** BJ70100001

**担当者:** 内田 利広 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:精神科病院臨床心理士、スクールカウンセラー

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 心理療法の基本的な考え方、その目的、具体的な関りについて、理解を深める。
公認心理師が誕生し、心理専門職の本質が問われている中で、人に関わり支援するとはどういうことであるかを、親子関係特に「母－娘関係」を通して理解を深める。親子関係を理解するには、家族心理学的な視点から、システム論的認識さらに世代間伝達の問題としてとらえ、保護者への支援や子ども(娘)への心理療法(サイコセラピー)の具体的な関わりについて、理解を深めます。
さらに、支援時のクライエント理解を深める手だてとして、フォーカシングの体験を通して自らの身体感覚に注目する技法についても理解を深める。

**到達目標:** ・母－娘関係における心理的な課題(葛藤や心理的距離など)について、家族心理学的な視点から理解し、説明できること
・心理療法において、保護者あるいは思春期青年期のクライエントを支援するために、どのような心構えが必要であるかを、説明でき、また実践につなげられること
・人と人とが出会って、変化するためには、どのような体験が必要であり、そのための関わりに必要な技能を身につけ、実践できるようになること

**各回の授業計画:**

1. 目標の解説と心理療法の現状について(心理療法の学び方について)
2. 第1章 母と娘の関係性(プレゼン1)
3. 第2章 母娘関係と父親の役割(プレゼン2)
4. 傾聴の技法とクライエントの理解:体験過程理論とフォーカシング
5. フォーカシングの理論と実際:デモンストレーションと解説
6. 第3章:母親に取り込まれる娘(プレゼン3)
7. 第4章 期待のあり方から見た母娘(プレゼン4)
8. 傾聴の実習:身体のメッセージを聞く:クリアリング・ア・スペース
9. 第5章 母娘関係の世代間伝達(プレゼン5)
10. 傾聴の実習:身体のメッセージを聞く:フェルトセンスを感じる
11. 第6章 母娘関係を上手に生きるために1:娘・母親・父親の視点から(プレゼン6)
12. 心理療法の実践実習:体験の流れとフェルトシフト
13. 第6章 母娘関係を上手に生きるために2:母娘関係の発達論と第3者の存在(プレゼン7)
14. 心理療法の実践実習:ペアでの体験と質疑応答
15. 「心理療法における母娘関係の理解と支援」についてまとめ、到達度の確認テストを行う。

**特記事項:** なし

**授業方法:** 講義形式と受講者のプレゼンテーションとディスカッションによる演習、さらに面接法(フォーカシング)の実習等を組み合わせて行う。
第1回～15回 講義・演習・実習(対面)

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

事前にテキストを購入し、全体に目を通すとともに、自分が担当を希望する章のレジュメ及び気になったトピックの概要を作成し、プレゼンの準備をする。
担当の章は、他の受講生と重ならないように、事前に調整を行うこと。
レジュメは、A4で3枚以内とし、トピックをA4で1枚、合計A4、4枚でA3版で、表裏に両面コピーで作成し、A3 1枚に収めること。
プレゼンテーションの時間は、一人30分程度とし、その後にディスカッションを行う。

事前にテキストを読み理解する (1章4時間×7章 28時間)
担当する章を読み込み、レジュメ作成(担当章読込 5時間 レジュメ作成 10時間 計15時間)
フォーカシングに関する事前学習 (5時間)
事前準備 (2時間×3日 6時間)
事後の振り返り(2時間×3日 6時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | 20 | **%** | **レポート:** | - **%** |
| **その他1:** | レジュメ作成とプレゼンテーション及びミニレポート | | 30 | **%** | | | |
| **その他2:** | | | | **%** | | | |

**評価基準:**

【最低限の到達度(60～69点)】
・授業への取り組み
事前にテキストを読んで、ディスカッションに参加している
・確認テスト
授業の内容の基本的なところは理解している
・レジュメ作成及びトピックのプレゼンテーション
レジュメ及びトピックを作成し、プレゼンテーションを行う。

【望ましい到達度(80～100点)】
・授業への取り組み
事前にテキストを読んで、興味、関心により質問や意見を述べることができる
実習等に積極的に参加し、質問や体験の感想を述べることができる
・確認テスト
授業の内容を十分に理解し、さらに自分なりの意見も言える
・レジュメ作成とプレゼンテーション
担当章を的確にまとめられており、気になったトピックについて自分で調べて丁寧にまとめられている。
プレゼンテーションにおいて、周りにわかりやすく説明ができ、質問にも答えることができる。

**課題へのフィードバック:**

・授業の中でその都度フィードバックを行っていく。

**教科書:** 母と娘の心理臨床ー家族の世代間伝達を超えてー(内田利広 著) 金子書房

**参考書:** フォーカシング指向心理療法の基礎(内田利広著) 創元社

**授業・準備学習のアドバイス:**

今回は、夏季集中講義(3日間)という形で実施しますので、集中講義までの事前の準備をお願いいたします。
まずはテキストを購入し、ざっと全体を読んで、自分の希望の担当章を決めてください。一人1章ずつ(プレゼン1～7)担当していただきます。
その際に、できるだけ他の受講生と重ならないように、受講予定者間で調整を行い、早めに担当章を決めてください。
担当者の決定については、6月ごろに、Teamsを使って連絡いたします。
レジュメは、1章をA4 4枚以内で、まとめてください(一人のプレゼンが30分程度です)
特に、初日の章(1章～2章)を担当する方は、初日までにレジュメの準備をお願いいたします。
また、フォーカシングについて、その概要が理解できていると、より授業の理解がスムーズになります。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 発達臨床心理学特論

**クラス:**

**授業コード:** BJ70200001

**担当者:** 伊東 真里 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:病院の臨床心理士

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 臨床ということばは医学領域でよく用いられているが、ここでは病理の治療を目的とするだけでなく、障害や問題を抱えつつ生きていく子どもの心理的支援の方法を学習する。そして、障害や問題の範囲を心身障害から心身症状まで含め、人間を心身相関の立場から捉え、医学的・心理的・教育的な視点から総合的に眺め、障害や問題をもつ子どもに関する心理臨床の理論的理解と実践的技術の理解を深める。

**到達目標:** 臨床心理学の深い知識と実証的態度を身につけるとともに、障害や問題を抱えて生きていく子どもの心理的支援の方法を理解し、臨床場面で応用できるレベルを到達目標とする。

**各回の授業計画:**

1. 発達臨床心理学の目的と対象
2. 発達臨床心理学的理解の視点
3. 緘黙症の概念についてのレポート発表
4. 事例研究(緘黙症)の心理臨床過程についての検討
5. 抜毛症の概念についてのレポート発表
6. 事例研究(抜毛症)の心理臨床過程についての検討
7. 手洗い強迫症状の概念についてのレポート発表
8. 事例研究(手洗い強迫症状)の心理臨床過程についての検討
9. 過換気症候群の概念についてのレポート発表
10. 事例研究(過換気症候群)の心理臨床過程についての検討
11. いじめの概念についてのレポート発表
12. 事例研究(いじめ)の心理臨床過程についての検討
13. 不安障害の概念についてのレポート発表
14. 事例研究(不安障害)の心理臨床過程についての検討
15. まとめとレポート(ケースについて)

**特記事項:** なし

**授業方法:**

1. 講義
2. 講義
3. レポート発表
4. 事例研究
5. レポート発表
6. 事例研究
7. レポート発表
8. 事例研究
9. レポート発表
10. 事例研究
11. レポート発表
12. 事例研究
13. レポート発表
14. 事例研究
15. レポート作成

(すべての授業を対面授業で行う)

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 予習(80分)復習(100分)(発達臨床心理学の目的について)
2. 予習(80分)復習(100分)(発達臨床心理学の対象について)
3. レポート作成(180分)(緘黙症について)

4. 事例研究(180分)(緘黙症について)
5. レポート作成(180分)(抜毛症について)
6. 事例研究(180分)(抜毛症について)
7. レポート作成(180分)(手洗い強迫症状について)
8. 事例研究(180分)(手洗い強迫症状について)
9. レポート作成(180分)(過換気症候群について)
10. 事例研究(180分)(過換気症候群について)
11. レポート作成(180分)(いじめについて)
12. 事例研究(180分)(いじめについて)
13. レポート作成(180分)(不安障害について)
14. 事例研究(180分)(不安障害について)
15. ノート整理(180分)(全体的なまとめ)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 **%** | **確認テスト:** | - **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:** 障害や問題を抱えて生きていく子どもの心理的支援の方法を理解できている。(60~69点)
障害や問題を抱えて生きていく子どもの心理的支援の方法を理解し、臨床場面で応用できる。(80~100点)

**課題へのフィードバック:**

課題へのフィードバックは、課題を発表させたりなどして、全体的な評価をおこなう。

**教科書:** なし

**参考書:** 随時、資料を配布する。

**授業・準備学習のアドバイス:**

障害や問題を抱えつつ生きていく子どもの支援を「臨床」という視点から捉える姿勢をもつことが必要です。
15回目に課題レポートを実施(時間:30分 配点:50点)

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)

**クラス:**

**授業コード:** BJ70400001

**担当者:** 松本 剛 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 学校臨床心理学の理論・方法と学校臨床が対象とする教育課題への対応について，理解を深める。

**到達目標:** 学校臨床心理学の理論や方法が理解できるとともに，学校臨床と関連する生徒指導上の教育課題に対応するための基礎的な実践力を身につけることができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション 学校臨床と関連する生徒指導・教科指導上の教育課題について概観します。
2. 学校と学校臨床 生徒指導・教科指導をはじめとする学校における諸課題とスクールカウンセラーの役割について考えます。
3. スクールカウンセリング チーム学校の考え方を紹介し、その中でスクールカウンセラーがはたす役割について考え、話し合います。
4. 学校危機 学校危機について概観し、その具体と対応について紹介します。特にスクールカウンセラーの役割について考えます。
5. 不登校 不登校の定義、現状を知り、どのような支援が必要かについて紹介し、話し合います。
6. いじめ いじめとは何かについて知り、その傾向や重大事態について紹介し、話し合います。
7. 保護者とのかかわり 家庭におけるさまざまな課題への学校のかかわりとスクールカウンセラーの役割について考えます。暴力行為・少年非行 児童虐待・ヤングケアラー・暴力・非行への対応などの諸課題との関連を考えます。
8. 自殺未然防止、発達障がいのある子どもの教育臨床的検討 命の教育に関するスクールカウンセラーの役割について考えます。
9. さまざまな背景をもつ児童生徒、発達障がいのある子どもの教育臨床的検討 学校における発達障がいのある児童生徒へのかかわり、外国にルーツのある子どもや性に関する課題、性的マイノリティなどさまざまな教育臨床的課題について考えます。
10. インターネット・スマートホンへの対応 インターネットをめぐる諸問題とそれらへの対応について考えます。
11. 学校教師との関係性の構築 さまざまな課題についての学びを経て、チーム学校の一員としてのスクールカウンセラーのありようについて考えます。
12. 学校教育臨床にかかわる臨床心理学的理論と実際 学校臨床に活かすことができる臨床心理学の諸理論とその実際を学びます。
13. 学校における事例研究への関わり1 学校における事例研究でのファシリテーターとしての役割を学びます。具体的方法としてPCAGIP法の理論を学びます。
14. 学校における事例研究への関わり PCAGIP法を体験し、学校での事例研究におけるファシリテーターの役割を体験的に学びます。
15. まとめ(学校臨床の総合的討議)

**特記事項:** なし

**授業方法:** 対面で授業を行う。
1. 講義・討議
2. 講義・討議・発表・レポート
3. 講義・討議・発表・レポート
4. 講義・討議・発表・レポート
5. 講義・討議・発表・レポート
6. 講義・討議・発表・レポート
7. 講義・討議・発表・レポート
8. 講義・討議・発表・レポート
9. 講義・討議・発表・レポート
10. 講義・討議・発表・レポート
11. 講義・討議・発表・レポート
12. 講義・討議・発表・レポート
13. 講義・討議・発表・レポート
14. 演習・討議・発表・レポート
15. 討議・全体レポート

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. これまでの学習の振り返り(180分)
2. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
3. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
4. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
5. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
6. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
7. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
8. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
9. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
10. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
11. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
12. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
13. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
14. 講義の事前視聴(on demand)・授業内容の検討レポート(180分)
15. 課題の整理(総合レポート)(180分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 60 | **%** | **確認テスト:** | – | **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** 学校臨床心理学の基盤となる考え方を理解できる。(60～69点)
学校臨床が関連する教育課題への実践力の基礎を身につけることができる。(80～100点)

**課題へのフィードバック:**

必要に応じて, 適宜, 個別または全体にフィードバックする。

**教科書:** 特になし。

**参考書:** 授業の中で, 適宜紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス:**

将来, スクールカウンセラーなどで教育分野での活動を考えている人は少なくないと思います。臨床心理学の視点をどのように学校教育に活かしていくかを考えながら, 授業に参加してほしいと思います。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK00100003

**担当者:** 廣岡 義之 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 教育の本質について考察し、自己の在り方、教師の本質について、各自の問題・課題を見出し、問題解決の端緒を探る。 そのためにボルノー教育学を深く精読していく。

**到達目標:** 1. 教育および教育学の本質を探り、課題を自ら発見し、思考し、判断し、表現できる力を培う。
2. 修士論文のテーマについて考察し、計画を立てる。
3. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

**各回の授業計画:**

1. ガイダンス、研究倫理指導
2. ボルノーの教育学(1)その特徴と今日的課題を探る
3. ボルノーの教育学(2)その特徴と今日的課題を探る
4. ボルノーの教育学(3)その特徴と今日的課題を探る
5. ボルノーの教育学(4)その特徴と今日的課題を探る
6. ボルノーの教育学(5)その特徴と今日的課題を探る
7. フランクルの教育学(1)その特徴と今日的課題を探る
8. フランクルの教育学(2)その特徴と今日的課題を探る
9. フランクルの教育学(3)その特徴と今日的課題を探る
10. フランクルの教育学(4)その特徴と今日的課題を探る
11. フランクルの教育学(5)その特徴と今日的課題を探る
12. フランクルの教育学(6)その特徴と今日的課題を探る
13. フランクルの教育学(7)その特徴と今日的課題を探る
14. フランクルの教育学(8)その特徴と今日的課題を探る
15. まとめ

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 40 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 60 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60～69点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち：
1．教育および教育学に関する専門教養を基本的なレベルにおいて身に付けるとともに、課題を自ら発見し、論理的に思考し、判断し、表現できる基礎力を培う。
2．修士論文のテーマについて基本的な水準において考察し、概略的に計画を立てる。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
1．教育および教育学に関する専門教養を高い水準において身に付けるとともに、課題を自ら発見し、論理的に思考し、判断し、表現できる力を高次のレベルにおいて培う。
2．修士論文のテーマについて深く考察し、綿密に計画を立てる。

---

**課題へのフィードバック：**

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点について具体的に講評する。

---

**教科書：** 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

**参考書：** 授業中に指示する

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK00100004

**担当者:** 森 眞理 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:幼稚園教諭(日米・私立)、幼稚園園長(日・私立)、日本語補習校(米・幼児部・初等部)

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 「教育とは何か?」の問いを携えて、教育と教育学の根本を考察する。乳幼児期からの教育に関する文献を精読することから、自らの問題・課題を見出し、修士論文作成の基盤を育み、方向性を明確化する。

**到達目標:**
1. 教育・教育学の根本を考察し、理解を深める。
2. 乳幼児期からの教育についてクリティカル(批判的)な視点を育み、問題提起する心構えを身につける。
3. 子どもを取り巻く教育をめぐる世界の動き・課題について理解し、問題意識を向上する。
4. 修士論文について考察し、テーマを絞り込めるようようにする。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション:本学の研究倫理基準について学ぶ
2. 乳幼児教育の現状と課題:① 世界の動きから
3. 乳幼児教育の現状と課題:② 日本の動きから
4. 乳幼児教育への誘い:① 子どもを見るということ
5. 乳幼児教育への誘い:② 子どもを見るということ
6. 各自の論文に向けて発表とディスカッション ①
7. 乳幼児教育への誘い:③ 子どもが「発達する」ということ
8. 乳幼児教育への誘い:④ 子どもが「発達する」ということ
9. 乳幼児教育への誘い:⑤ 保育思想の源泉をさぐる
10. 乳幼児教育への誘い:⑥ 保育思想の源泉をさぐる
11. 各自の論文に向けて発表とディスカッション ②
12. 乳幼児教育への誘い:⑥「ともに生きる」保育
13. 乳幼児教育への誘い:⑥「アート的思考」の教育
14. 各自の論文に向けて発表とディスカッション ③
15. まとめ:振り返りと今後の展望

**特記事項:** なし

**授業方法:**
1. 演習(対面)
2. 講義・ディスカッション(対面)
3. 講義・ディスカッション(対面)
4. 講義・発表・ディスカッション(対面)
5. 講義・発表・ディスカッション(対面)
6. 発表・ディスカッション(対面)
7. 講義・発表・ディスカッション(対面)
8. 講義・発表・ディスカッション(対面)
9. 講義・発表・ディスカッション(対面)
10. 講義・発表・ディスカッション(対面)
11. 発表・ディスカッション(対面)
12. 講義・発表・ディスカッション(対面)
13. 講義・発表・ディスカッション(対面)
14. 発表・ディスカッション(対面)
15. 演習(対面)

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 予:演習への意気込み・心構え(60分)、復:演習内容の省察(90分)

2. 予:文献精読(180分)、復:演習内容の省察(120分)
3. 予:文献精読(180分)、復:内容の省察(120分)
4. 予:文献精読(120分)、復:演習内容の省察(120分)
5. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:演習内容の省察((120分)
6. 予:発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復:演習内容の省察(120分)
7. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:演習内容の省察(120分)
8. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:演習内容の省察(120分)
9. 予:文献精読(120分)、復:演習内容の省察(120分)
10. 予:文献精読(120分)、復:演習内容の省察(120分)
11. 予:発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復:演習内容の省察(120分)
12. 予:文献精読(120分)、復:演習内容の省察(120分)
13. 予:発表に向けた準備を行う(180分)、復:演習内容の省察(120分)
14. 予:発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復:演習内容の省察(120分)
15. 予:レポート作成(180分)、復:今後の課題と展望を考察する(120分)

---

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 60 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準:** 60—69)
・当事者意識を持って演習に出席・参加する。
・学びへの構えを意識し、学びを自分の言葉で表現する。
・修士論文作成に向けて当事者意識を持ち、概略を述べる。
(70—79)
・当事者意識を持って演習に出席・参加・発表する。
・学びへの構えが整い、学びを自分の言葉で表現する。
・修士論文作成に向けて当事者意識を持ち、具体的に概略を述べる。
(80—100)
・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。
・問題意識を持ち、多角的に課題について考察する。
・修士論文に作成に向けて明確な問題意識を持ち、関連文献を探究する。

---

**課題へのフィードバック:**

演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う

---

**教科書:** 佐伯 胖『幼児教育へのいざない 増補改訂版 円熟した保育者になるために』東京大学出版会 ISBN:978-4-13-053086-6, 2,420円(本体2,200円＋税) 2014年

**参考書:** 適宜、授業にて紹介する

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回の演習授業に出席・参加しましょう。
・一人ひとりが演習を構成する参加者・貢献者としての心持ちで、互いに研鑽し合いましょう。
・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK00200003

**担当者:** 廣岡 義之 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 現代の教育及び教育学に関する文献や資料を理解(主としてボルノーとフランクルを熟読)し、研究のための基盤を強固なものにするとともに、修士論文の作成に向けての指導を行う。

**到達目標:**
1. 現代の教育及び教育学に関する専門的な知識を身に付ける。
2. 教育学的に思考するする力を身に付ける。
3. 修士論文の作成の仕方について学ぶ。
4. 修士論文に必要な文献・データを収集し、その読解・分析を進める。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. ボルノーの教育学と教育思想について(1)
3. ボルノーの教育学と教育思想について(2)
4. ボルノーの教育学と教育思想について(3)
5. ボルノーの教育学と教育思想について(4)
6. ボルノー教育学の文献・資料を読む(1)
7. ボルノー教育学の文献・資料を読む(2)
8. ボルノー教育思想に関する文献・資料を読む(3)
9. フランクル教育思想に関する文献・資料を読む(1)
10. フランクル教育思想に関する文献・資料を読む(2)
11. フランクル教育思想に関する文献・資料を読む(3)
12. フランクル教育思想に関する文献・資料を読む(4)
13. レポート発表(1)
14. 修士論文の作成指導(1)
15. 修士論文の作成指導(2)

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

**評価方法:** **授業へのとりくみ:** 50 % **確認テスト:** － % **レポート:** 50 %
**その他1:** %

**その他2：** **%**

**評価基準：** ・最低限の到達度（60～69点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
1．現代の教育及び教育学に関する専門的な知識をその概要において身に付ける。
2．教育学的に思考する基本的な力を身に付ける。
3．修士論文の作成の仕方について基本的な水準で学ぶ。
4．修士論文に必要な基本文献・データを収集し、その読解・分析を進める。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
1．現代の教育及び教育学に関する専門的な知識を高次の水準において身に付ける。
2．教育学的に思考する高次の力を身に付ける。
3．修士論文の作成の仕方について高次のレベルで学ぶ。
4．修士論文に必要な文献・データを詳細に収集し、その綿密な読解・分析を進める。

**課題へのフィードバック：**

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

**教科書：** なし

**参考書：** 授業中に適宜指示する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK00200004

**担当者:** 森 眞理 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:幼稚園教諭(日米:私立)、幼稚園園長(日:私立)、補習校授業校(米:幼児・初等部)

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 乳幼児期からの教育のあり方について、文献等の精読から理解を深め、考察する。自らの研究課題の基盤を明確化し、修士論文作成へとその構成・研究方法について修得する。

**到達目標:**
1. 教育・教育学の理解を深め、クリティカル(批判的)な視点から捉え、問題提起する心構えを身につける。
2. 修士論文に必要な文献(先行研究)の精読を通して、新たな問題を見出す。
3. 修士論文作成に向けた研究方法について理解し、修得する。
4. 修士論文について学び、調査を進める。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション:演習授業について把握する。
2. 研究倫理:本学の研究倫理基準から学ぶ。
3. 研究のメソドロジー:① 量的研究
4. 研究のメソドロジー:② 質的研究
5. 各自の論文に向けた発表とディスカッション①
6. 各自の論文に向けた発表とディスカッション②
7. 研究のメソドロジー:③ アクションリサーチ
8. 研究のメソドロジー:④ エスノグラフィー
9. 各自の論文に向けて発表とディスカッション③
10. 研究のメソドロジー:⑤ ケーススタディ
11. 研究のメソドロジー:⑥ ナラティブリサーチ
12. 各自の論文に向けて発表とディスカッション④
13. 研究のメソドロジー:⑥ 歴史的研究
14. 修士論文作成指導①
15. 修士論文作成指導②:振り返りと今後の展望

**特記事項:** なし

**授業方法:** ①〜⑮ 演習・講義(対面)
1. 演習
2. 講義・ディスカッション
3. 講義・発表・ディスカッション
4. 講義・発表・ディスカッション
5. 発表・ディスカッション
6. 発表・ディスカッション
7. 講義・発表・ディスカッション
8. 講義・発表・ディスカッション
9. 発表・ディスカッション
10. 講義・発表・ディスカッション
11. 講義・発表・ディスカッション
12. 発表・ディスカッション
13. 講義・発表・ディスカッション
14. 講義・ディスカッション
15. 講義・ディスカッション

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 予:演習への意気込み心構え(60分)、復:演習内容の省察(90分)
2. 予:文献精読(180分)、復:演習内容の省察(120分)
3. 予:文献精読(180分)、復:内容の省察(120分)
4. 予:文献精読(120分)、復:演習内容の省察(120分)
5. 予:発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復:演習内容の省察(120分))
6. 予:発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復:演習内容の省察(120分)
7. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:演習内容の省察(120分)
8. 予:資料を読み、討議内容をまとめる(120分)、復:演習内容の省察(120分)
9. 予:発表準備・資料を読み、討議内容をまとめる(180分)、復:演習内容の省察(120分)
10. 予:文献精読(120分)、復:演習内容の省察(120分)
11. 予:文献精読(120分)、復:演習内容の省察(120分)
12. 予:発表に向けた準備を行う(180分)、復:演習内容の省察(120分)
13. 予:文献精読(120分)、復:演習内容の省察(120分)
14. 予:レポート作成(180分)、復:演習内容の省察(120分)
15. 予:レポート作成(180分)、復:今後の課題と展望を考察する(120分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 60 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:**

(60−69)
・当事者意識を持って演習に出席・参加する。
・学びへの構えを意識し、学びを自分の言葉で表現する。
・修士論文作成に向けて当事者意識を持ち、概略を述べる。
(70−79)
・当事者意識を持って演習に出席・参加・発表する。
・学びへの構えが整い、学びを自分の言葉で表現する。
・修士論文作成に向けて当事者意識を持ち、具体的に概略を述べる。
(80−100)
・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。
・問題意識を持ち、多角的に課題について考察する。
・修士論文に作成に向けて明確な問題意識を持ち、関連文献を探究する。

**課題へのフィードバック:**

演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。

**教科書:** 授業にて、必要に応じて指示する。資料等文献を配布する。

**参考書:** 適宜、授業にて紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス:**

・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回の演習授業に出席・参加しましょう。
・一人ひとりが演習を構成する参加者・貢献者としての心持ちで、互いに研鑽し合いましょう。
・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BK00300001

**担当者:** 隈元 泰弘 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 修士論文を作成するために先行研究や参考文献をまとめ、自らの問題意識を深める。
具体的な指導の下で修士論文の執筆を進める。

**到達目標:**
1. テーマについての理解を深める。
2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究についてまとめる。
3. 修士論文の執筆を進めるとともに思索の深化をはかる。
4. 修士論文の全体構成について再検討する。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 修士論文執筆指導（1）序論の構成
3. 修士論文執筆指導（2）本論の展開
4. 修士論文執筆指導（3）結論のまとめ方
5. 教育哲学の古典を読む（1）デューイ：問題提起
並行して修士論文執筆指導を行う
6. 教育哲学の古典を読む（2）デューイ：思索の展開
並行して修士論文執筆指導を行う
7. 教育哲学の古典を読む（3）デューイ：思索の深化
並行して修士論文執筆指導を行う
8. 教育哲学の古典を読む（4）デューイ：新たな解答
並行して修士論文執筆指導を行う
9. 修士論文執筆指導（4）オリジナリティの追及
10. 道徳教育の現代思想を読む（1）コールバーグ：問題提起
並行して修士論文執筆指導を行う
11. 道徳教育の現代思想を読む（2）コールバーグ：思索の展開
並行して修士論文執筆指導を行う
12. 道徳教育の現代思想を読む（3）コールバーグ：思索の深化
並行して修士論文執筆指導を行う
13. 道徳教育の現代思想を読む（4）コールバーグ：新たな解答
並行して修士論文執筆指導を行う
14. 修士論文執筆指導（5）文献の活用
15. 修士論文執筆指導（6）データの収集と活用

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会（研究計画発表会、中間発表会、修論発表会）への参加・出席を必要とする。
各回の授業計画と並行して修士論文草稿作成のための指導を行う。

**授業方法:** 授業は、対面で行う。
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容

予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:**

・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち:
1. テーマについての基礎的理解を深める。
2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究について概略においてまとめる。
3. 修士論文の執筆を進めるとともに基本的な思索の深化をはかる。
4. 修士論文の全体構成について概略的に再検討する。
・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち:
1. テーマについての理解を専門的な水準にまで深める。
2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究について専門的な水準においてまとめる。
3. 修士論文の執筆を進めるとともに専門的な思索の深化をはかる。
4. 修士論文の全体構成について緻密に再検討する。

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

**教科書:** 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

**参考書:** 授業中に指示する

**授業・準備学習のアドバイス:**

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BK00300003

**担当者:** 廣岡 義之 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 修士論文を作成するために先行研究や参考文献をまとめ、自らの問題意識を深める。
具体的な指導の下で修士論文の執筆を進める。

**到達目標:**
1. テーマについての理解を深める。
2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究についてまとめる。
3. 修士論文の執筆を進めるとともに思索の深化をはかる。
4. 修士論文の全体構成について再検討する。
5. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。
6. 明晰な文章の作成

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション 明晰な文章の作成指導
2. 修士論文執筆指導（1）明晰な文章の作成指導 序論の構成
3. 修士論文執筆指導（2）明晰な文章の作成指導 本論の展開
4. 修士論文執筆指導（3）明晰な文章の作成指導 結論のまとめ方
5. 教育哲学を読む（1）ボルノー：問題提起 明晰な文章作成の指導
6. 教育哲学を読む（2）ボルノー：思索の展開
7. 教育哲学を読む（3）ボルノー：思索の深化
8. 教育哲学を読む（4）ボルノー： 明晰な文章作成の指導
9. 修士論文執筆指導（4）オリジナリティの追及 明晰な文章作成の指導
10. 臨床育の現代思想を読む（1）フランクル：問題提起
11. 臨床教育の現代思想を読む（2）フランクル：思索の展開
12. 臨床教育の現代思想を読む（3）フランクル：思索の深化
13. 臨床教育の現代思想を読む（4）フランクル：明晰な文章作成の指導
14. 修士論文執筆指導（5）文献の活用 明晰な文章作成の指導
15. 修士論文執筆指導（6）明晰な文章作成の指導

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会（研究計画発表会、中間発表会、修論発表会）への参加・出席を必要とする。

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。（2時間）
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。（2時間）

**評価方法:** **授業へのとりくみ:** 40 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 60 **%**

**その他1：** **%**

**その他2：** **%**

---

**評価基準：** ・最低限の到達度（60～69点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち：
1. テーマについての基礎的理解を深める。
2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究について概略においてまとめる。
3. 修士論文の執筆を進めるとともに基本的な思索の深化をはかる。
4. 修士論文の全体構成について概略的に再検討する。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち：
1. テーマについての理解を専門的な水準にまで深める。
2. 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究について専門的な水準においてまとめる。
3. 修士論文の執筆を進めるとともに専門的な思索の深化をはかる。
4. 修士論文の全体構成について緻密に再検討する。

---

**課題へのフィードバック：**

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点について具体的に講評する。

---

**教科書：** 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

**参考書：** 授業中に指示する

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育について自分事として実存的に関わってほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BK00300004

**担当者:** 森 眞理 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:幼稚園教諭(日米:私立)、幼稚園園長(日:私立)、補習校授業校(米:幼児・初等部)

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 修士論文の調査研究方法について理解を深め、データ収集について考察する。討議を重ね、執筆に専念する。先行研究や文献により、さらに自らの研究と問題意識を明確化する。

**到達目標:**
1. 修士論文に必要な文献(先行研究を含む)の精読を通して、クリティカルに考察する。
2. 修士論文に必要な文献(先行研究を含む)の精読を通して、自らの修士論文の独自性を認識する。
3. 修士論文作成に向けたデータ収集とその分析を行いつつ執筆、構成する。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション:演習授業の理解・把握。
2. 研究倫理:本学の研究倫理基準と自らの研究倫理についての考察。
3. 修士論文の構成と考察:①構造
4. 修士論文の構成と考察:②先行研究・文献分析と表記
5. 修士論文経過発表と討議:①
6. 修士論文内容の討議・検討:①
7. 修士論文内容の討議・検討:②
8. 修士論文内容の討議・検討:③
9. 修士論文内容の討議・検討:④
10. 修士論文の構成と考察:③データ収集・整理
11. 修士論文の構成と考察:④データ収集・考察・表記
12. 修士論文経過発表と討議:②
13. 修士論文内容の討議・検討:⑤
14. 修士論文内容の討議・検討:⑥
15. まとめ:振り返りと今後の展望

**特記事項:** なし

**授業方法:**
1. ディスカッション (対面)
2. 講義・ディスカッション(対面)
3. 講義・ディスカッション(対面)
4. 講義・ディスカッション(対面)
5. 発表・ディスカッション(対面)
6. 発表・ディスカッション(対面)
7. 講義・発表・ディスカッション(対面)
8. 講義・発表・ディスカッション(対面)
9. 発表・ディスカッション(対面)
10. 講義・発表・ディスカッション(対面)
11. 講義・ディスカッション(対面)
12. 発表・ディスカッション(対面)
13. 講義・発表・ディスカッション(対面)
14. 講義・ディスカッション(対面)
15. ディスカッション(対面)

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・予習の内容:次回の授業内容に応じて、文献を読み、ディスカッションの話題提供、及び問題提起を準備する。
・復習の内容:その日の授業内容を省察することに加えて、文献の探索や更なる問いを立てる等、持続的・発展的な振り返りを行う。

・予習・復習の時間：各回の授業につき、それぞれ最低2時間を要する。

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：**

（60－69）
・当事者意識を持って演習に出席・参加する。
・修士論文執筆において、当事者意識を持ち、従事している。
（70－79）
・当事者意識を持って演習に出席・参加・発表する。
・修士論文作成において、全体構成を鑑みつつ、計画性を持って従事している。
（80－100）
・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。
・問題意識を持ち、多角的に捉えつつ、論文作成に従事している。
・修士論文に作成に向けて明確な問題意識を持ち、積極的に関連文献を探究し執筆する。

**課題へのフィードバック：**

演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。

**教科書：** 授業にて、必要に応じて指示する。資料等文献を配布する。

**参考書：** 適宜、授業にて紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回の演習授業に出席・参加しましょう。
・一人ひとりが演習を構成する参加者・貢献者としての心持ちで、互いに研鑽し合いましょう。
・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BK00400001

**担当者:** 隈元 泰弘 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 教育学専攻での学修の総まとめとして、同時に教育学演習での研究の結実として、修士論文を完成する。
修士論文の完成に向けた研究のプロセスを通して、教育並びに教育学への高度な資質能力そのものを育む。

**到達目標:** 1. 修士論文を完成させる。
2. 教育に関する批判的観察力・思考力を養い、深く先鋭な教育学的思索力を培って、教育界の担い手たり得る資質能力を身に着ける。
3. 教育及び教育学に関する専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に貢献できる力を養う。

**各回の授業計画:**

1. 修士論文作成計画の再検討
2. 修士論文執筆箇所の発表と指導(1)序論における問題提起
3. 修士論文執筆箇所の発表と指導(2)序論における研究史への論究
4. 修士論文執筆箇所の発表と指導(3)序論における当該研究の位置づけ
5. 修士論文執筆箇所の発表と指導(4)本論の全体構成
6. 修士論文執筆箇所の発表と指導(5)本論各章の構成
7. 修士論文執筆箇所の発表と指導(6)本論各章の展開
8. 修士論文執筆箇所の発表と指導(7)本論各章の詳細
9. 修士論文執筆箇所の発表と指導(8)本論各章において残された課題
10. 修士論文執筆箇所の発表と指導(9)本論各章における当該課題の将来的展望
11. 修士論文執筆箇所の発表と指導(10)結論における全体の再考察
12. 修士論文執筆箇所の発表と指導(11)結論における当該研究の研究史上の意義づけ
13. 修士論文執筆箇所の発表と指導(12)結論における当該研究の独自性の明示と確認
14. 修士論文執筆箇所の発表と指導(13)結論において指摘すべき残された課題
15. 修士論文の完成稿の見直し

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

**授業方法:** 授業は、対面で行う。
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 **%** | **確認テスト:** | － **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60～69点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち：
1. 修士論文を必要不可欠な学術的レベルで完成させる。
2.教育に関する基本的な観察力・思考力を養い、基礎的な教育学的思索力を培って、教育界の担い手たり得るための基盤としての資質能力を身に着ける。
3.教育及び教育学に関する専門的知識・技能を必要不可欠な水準において培い、学校教育の発展に貢献できる基本的な力を養う。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち：
1. 修士論文を高い学術的レベルにおいて完成させる。
2.教育に関する批判的観察力・思考力を高い水準において養い、深く先鋭な教育学的思索力を高度に培って、教育界の担い手たり得る高い資質能力を身に着ける。
3.教育及び教育学に関する高い専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に高度なレベルで貢献できる力を養う。

---

**課題へのフィードバック：**

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

---

**教科書：** なし

**参考書：** 授業中に適宜指示する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BK00400003

**担当者:** 廣岡 義之 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 教育学専攻での学修の総まとめとして、同時に教育学演習での研究の結実として、修士論文を完成する。
修士論文の完成に向けた研究のプロセスを通して、教育並びに教育学への高度な資質能力そのものを育む。

**到達目標:**
1. 修士論文を完成させる。
2. 教育に関する批判的観察力・思考力を養い、深く先鋭な教育学的思索力を培って、教育界の担い手たり得る資質能力を身に着ける。
3. 教育及び教育学に関する専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に貢献できる力を養う。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。
5. 明晰な文章の作成指導

**各回の授業計画:**

1. 修士論文作成計画の再検討 誤字脱字のチェック
2. 修士論文執筆箇所の発表と指導(1)序論における問題提起 誤字脱字のチェック
3. 修士論文執筆箇所の発表と指導(2)先行研究への論究 誤字脱字のチェック
4. 修士論文執筆箇所の発表と指導(3)先行研究への論究 当該研究の位置づけ 誤字脱字のチェック
5. 修士論文執筆箇所の発表と指導(4)先行研究と本論の相違点への論究 本論の全体構成 誤字脱字のチェック
6. 修士論文執筆箇所の発表と指導(5)先行研究と本論の相違点への論究 誤字脱字のチェック
7. 修士論文執筆箇所の発表と指導(6)先行研究と本論の相違点への論究 誤字脱字のチェック
8. 修士論文執筆箇所の発表と指導(7)先行研究と本論の相違点への論究 誤字脱字のチェック
9. 修士論文執筆箇所の発表と指導(8)先行研究と本論の相違点への論究 残された課題 誤字脱字のチェック
10. 修士論文執筆箇所の発表と指導(9)本論各章における当該課題の将来的展望 誤字脱字のチェック
11. 修士論文執筆箇所の発表と指導(10)結論における独自性の考察 誤字脱字のチェック
12. 修士論文執筆箇所の発表と指導(11)結論における独自性の考察 誤字脱字のチェック
13. 修士論文執筆箇所の発表と指(12)結論における独自性の明示と確認 誤字脱字のチェック
14. 修士論文執筆箇所の発表と指導(13)結論において残された今後の課題 誤字脱字のチェック
15. 修士論文の完成稿の見直し 誤字脱字のチェック

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う
授業方法
演習形式を基盤として以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、予定される議題や課題発表の準備を周到に行い、プレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)
復習においては、求められる課題について各種資料・文献調査に基づいて学習し、レポートを作成すること。(2時間)

**評価方法:** **授業へのとりくみ:** 50 **%** **確認テスト:** － **%** **レポート:** 50 **%**

**その他1：** **%**

**その他2：** **%**

---

**評価基準：** ・最低限の到達度（60～69点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち：
1. 修士論文を必要不可欠な学術的レベルで完成させる。
2.教育に関する基本的な観察力・思考力を養い、基礎的な教育学的思索力を培って、教育界の担い手たり得るための基盤としての資質能力を身に着ける。
3.教育及び教育学に関する専門的知識・技能を必要不可欠な水準において培い、学校教育の発展に貢献できる基本的な力を養う。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち：
1. 修士論文を高い学術的レベルにおいて完成させる。
2.教育に関する批判的観察力・思考力を高い水準において養い、深く先鋭な教育学的思索力を高度に培って、教育界の担い手たり得る高い資質能力を身に着ける。
3.教育及び教育学に関する高い専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に高度なレベルで貢献できる力を養う。

---

**課題へのフィードバック：**

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点について具体的に講評する。

---

**教科書：** なし

**参考書：** 授業中に適宜指示する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育について自分事として実存的に関わってほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BK00400004

**担当者:** 森 眞理 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:幼稚園教諭(日米:私立)、幼稚園園長(日:私立)、補習校授業校(米:幼児・初等部)

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 教育学専攻における学修の総まとめとして修士論文を完成する。新たな学び・研究へと展望する。

**到達目標:**
1. 修士論文を完成する。
2. 推敲を重ね、クリティカル(批判的)に自己の修士論文を捉えられる。
3. 修士論文の意味・意義について再考察する。。
4. 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策を全うして、修士論文を完成する。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション:演習授業の理解・把握。
2. 演習Ⅲにおける中間発表の省察と問題提起・展望
3. 修士論文作成・提出における心構え・留意点の確認
4. 修士論文経過発表と討議:① 序論
5. 修士論文経過発表と討議:② 序論
6. 修士論文経過発表と討議:③ 本論:文献・先行研究
7. 修士論文経過発表と討議:④ 本論:文献・先行研究
8. 修士論文経過発表と討議:⑤ 本論:調査・研究方法の考察
9. 修士論文経過発表と討議:⑥ 本論:調査・研究方法の考察
10. 修士論文経過発表と討議:⑦本論:調査・研究方法の考察
11. 修士論文経過発表と討議:⑧本論:調査・研究方法の考察
12. 修士論文経過発表と討議:⑨結論:総合考察・課題・展望
13. 修士論文経過発表と討議:⑩結論:総合考察・課題・展望
14. 修士論文完成稿の精査:①
15. まとめ:修士論文完成稿の精査②・振り返りと今後の展望

**特記事項:** なし

**授業方法:** ①～⑮ 回の授業は、(対面)で行う。

なお、以下を総合的に取り入れて行う。
・教員からの講義
・教員と履修生とのディスカッション
・グループワーク
・視聴覚教材からの学び
・プレゼンテーション

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・予習の内容:次回の授業内容に応じて、文献を読み、ディスカッションの話題提供、及び問題提起を準備する。
・復習の内容:その日の授業内容を省察することに加えて、文献の探索や更なる問いを立てる等、持続的・発展的な振り返りを行う。
・予習・復習の時間:各回の授業につき、それぞれ最低2時間を要する。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 60 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** (60−69)

・当事者意識を持って演習に出席・参加する。
・修士号取得の要件を満たす論文の内容である。
（70－79）
・当事者意識を持って演習に出席・参加・発表する。
・修士号取得の要件を満たす論文の内容であり、独自性がある。
（80－100）
・演習生と協調的に意見を交わし、仲間の学びに貢献する。
・修士号取得の要件を満たす論文の内容であり、批判的（クリティカル）な思考が見出され、新たな知見を豊富に取り入れた論文である。
・教育学のこれからへと貢献度が高く、期待される。

---

**課題へのフィードバック：**

演習授業内、また個別面談等にて、口頭および文書にて助言等を行う。適宜、授業にて紹介する。

---

**教科書：** 授業にて、必要に応じて指示する。資料等文献を配布する。

**参考書：** 適宜、授業にて紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

・学べる喜びと楽しさと幸せを味わい、毎回の演習授業に出席・参加しましょう。
・一人ひとりが演習を構成する参加者・貢献者としての心持ちで、互いに研鑽し合いましょう。
・公正を心がけて課題に取り組みましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK01100001

**担当者:** 金山 健一 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 授業の目的は、修士論文を作成するための教育心理学・学校心理学の研究内容の理解と研究方法の習得である。本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を追行する。

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である
1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の内容を理解する。
2. 教育心理学・学校心理学の研究の方法、資料の分析の方法、及びまとめ方等、論文作成の基本技術を修得する。

**各回の授業計画:**

1. Introduction ならびに本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育の講義
2. 教育心理学・学校心理学と学校教育
3. 教育心理学・学校心理学における教育臨床の現状
4. 教育心理学・学校心理学における教育臨床のスキル
5. 教育心理学・学校心理学における教育臨床の測定
6. 教育心理学・学校心理学における教育臨床の課題
7. 教育心理額・学校心理学の研究倫理基準・規定
8. 各自の論文発表・解説・討論（1）
9. 各自の論文発表・解説・討論（2）
10. 各自の論文発表・解説・討論（3）
11. 各自の論文発表・解説・討論（4）
12. 各自の論文発表・解説・討論（5）
13. 各自の論文発表・解説・討論（6）
14. 各自の論文発表・解説・討論（7）
15. まとめ・講評

**特記事項:** なし

**授業方法:** 授業は対面とする。教員による講義と学生による発表。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

修士論文作成のために、各自の発表がある。そのために、次回の発表のための予習が 30 時間であり、発表後の関連文献の確認の復習が 30 時間である。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** （100～80点）関連文献等を批判的に読みこなしている。
（79～70点）関連文献等の理解ができている。
（69～60点）関連文献等の理解に偏りがある。

**課題へのフィードバック:**

授業で、研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する。課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく。

**教科書:** 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

**参考書:** 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

論文発表のためには、関連する文献収集し理解を深めることが必要である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し，調査研究ができる体制を提供するので、積極的に活用してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK01100002

**担当者:** 小川内 哲生 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** 修士論文作成のために必要な教育心理学の研究内容と研究法、分析や考察の在り方、論文の書き方等を習得することを目的とする。

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である。
1. 修士論文作成に関連する学術論文の内容を理解する。
2. 教育心理学の研究法、分析や考察の在り方、論文の書き方等を習得する。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーションならびに本学研究倫理基準・規定に則った研究倫理教育の講義
2. 教育心理学の研究内容(1)
3. 教育心理学の研究内容(2)
4. 教育心理学の研究法
5. 教育心理学の分析法
6. 教育心理学の学術論文を読む(1)
7. 教育心理学の学術論文を読む(2)
8. 教育心理学の研究倫理基準・規定
9. 教育心理学の研究論文の発表・討論(1)
10. 教育心理学の研究論文の発表・討論(2)
11. 教育心理学の研究論文の発表・討論(3)
12. 教育心理学の研究論文の発表・討論(4)
13. 教育心理学の研究論文の発表・討論(5)
14. 教育心理学の研究論文の発表・討論(6)
15. まとめ・講評

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

---

**授業方法:** 講義、グループワーク、ディスカッション
全ての授業を対面で行う。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 授業内容の予習・復習(180分)
2. 授業内容の予習・復習(180分)
3. 授業内容の予習・復習(180分)
4. 授業内容の予習・復習(180分)
5. 授業内容の予習・復習(180分)
6. 授業内容の予習・復習(180分)
7. 授業内容の予習・復習(180分)
8. 授業内容の予習・復習(180分)
9. 授業内容の予習・復習(180分)
10. 授業内容の予習・復習(180分)
11. 授業内容の予習・復習(180分)
12. 授業内容の予習・復習(180分)
13. 授業内容の予習・復習(180分)
14. 授業内容の予習・復習(180分)
15. 授業内容の予習・復習(180分)

| 評価方法： | 授業へのとりくみ： | 20 % | 確認テスト： | － % | レポート： | 80 % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | その他1： | | | % | | |
| | その他2： | | | % | | |

**評価基準：** （100点～80点）レポート課題に適切に対処できている。
（79～70点）レポート課題に対応できている。
（69～60点）参考文献等の読み込みが不十分なレポート課題への対処である。

**課題へのフィードバック：**

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

**教科書：** 教科書は使用しないが、随時、参考文献を紹介する。

**参考書：** 必要に応じて紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

レポートの内容は、タイトルを明記し、テーマに沿って具体例を挿入すること。
日頃から教育心理学の研究に関心を持ち、積極的に情報収集したり文献検索を行う等してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK01100003

**担当者:** 藤原 忠雄 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 授業の目的は，修士論文作成のための教育心理学・学校心理学等の研究内容の理解と研究法の修得である。
本学の研究倫理基準を学び，研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し，研究を遂行する。

**到達目標:** 到達目標は以下の２点である
1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の内容を理解する。
2. 教育心理学・学校心理学等の研究法，分析法，結果記述，考察及び課題整理等，論文作成の基本技術を修得する。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション，本学研究倫理基準・規定に則った研究倫理教育の講義
2. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(1)
3. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(2)
4. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(3)
5. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(4)
6. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(5)
7. 教育心理学・学校心理学等の研究倫理基準・規定
8. 修士論文に係る研究の発表・討論(1)
9. 修士論文に係る研究の発表・討論(2)
10. 修士論文に係る研究の発表・討論(3)
11. 修士論文に係る研究の発表・討論(4)
12. 修士論文に係る研究の発表・討論(5)
13. 修士論文に係る研究の発表・討論(6)
14. 修士論文に係る研究の発表・討論(7)
15. まとめ・講評

**特記事項:** なし

**授業方法:** 【対面】
講義，発表及び協議。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

先行研究の発表及び資料作成、修士論文に係る研究の発表及び資料作成を行う予習に毎回平均して180分(合計2700分)，授業における協議内容の整理・総括を踏まえた文献収集・検討を行う復習に毎回平均して180分(合計2700分)が必要である。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** (100～80点)関連文献等の理解が批判的検討を加えてできている。
(79～70点)関連文献等の理解が全般的にできている。
(69～60点)関連文献等の理解が部分的にできている。

**課題へのフィードバック:**

先行研究に関する情報の提供，文献収集の偏り等に対する指摘，理解不足への助言・指導を行う。
課題・レポートの疑問点などは，授業・ゼミなどを活用してフィードバックする。

**教科書:** 教科書は指定しないが，必要に応じて資料を配布する。

**参考書:** 日本学術会議協力学術研究団体（https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html）が発行している雑誌に掲載された学術論文。

**授業・準備学習のアドバイス:**

先行研究をどれだけ吟味したかが，修士論文の質に大きく影響する。なるべく多くの文献に当たるように努めてもらいたい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK01100004

**担当者:** 杉山 真人 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 授業の目的は，修士論文を作成するための身体教育・体育心理学の研究内容の理解と研究方法の習得である．本学の研究倫理基準を学び，研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し，研究を遂行する．

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である
1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の内容を理解する．
2. 身体教育・体育心理学の研究方法，分析法，結果記述，考察及び課題整理等，論文作成の基本技術を修得する．

**各回の授業計画:**

1．Introductionならびに本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育の講義
2．身体教育・体育心理学等の先行研究の発表・解説・討論（1）
3．身体教育・体育心理学等の先行研究の発表・解説・討論（2）
4．身体教育・体育心理学等の先行研究の発表・解説・討論（3）
5．身体教育・体育心理学等の先行研究の発表・解説・討論（4）
6．身体教育・体育心理学等の先行研究の発表・解説・討論（5）
7．身体教育・体育心理学等の研究倫理基準・規定
8．修士論文に係る研究の発表・討論（1）
9．修士論文に係る研究の発表・討論（2）
10．修士論文に係る研究の発表・討論（3）
11．修士論文に係る研究の発表・討論（4）
12．修士論文に係る研究の発表・討論（5）
13．修士論文に係る研究の発表・討論（6）
14．修士論文に係る研究の発表・討論（7）
15．まとめ・講評

**特記事項:**

**授業方法:** 授業は対面とする．教員による講義と学生による発表．

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

先行研究の発表及び資料作成，修士論文に係る研究の発表及び資料作成を行う予習に毎回平均して180分（合計2700分），授業における協議内容の整理・総括を踏まえた文献収集・検討を行う復習に毎回平均180分（合計2700分）が必要である．

| **評価方法:** | **授業へのとりくみ:** | 50 **%** | **確認テスト:** | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | **その他1:** | | | **%** | | |
| | **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:** （100～80点）関連文献等を批判的に読みこなしている．
（79～70点）関連文献等の理解ができている．
（69～60点）関連文献等の理解に偏りがある．

**課題へのフィードバック:**

授業で，研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する．課題・レポートの疑問点などは，授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく．

**教科書:**　教科書は指定しないが，必要に応じて資料を配布する.

**参考書:**　教科書は使用しないが，必要に応じて毎時間，資料を配布する.

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

論文発表のためには、関連する文献を収集し理解を深めることが必要である．授業では，体育やスポーツのフィールドを紹介し，各種実験や調査研究ができる体
制を提供するので，積極的に活用してほしい.

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK01200001

**担当者:** 金山 健一 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 授業の目的は、修士論文を作成するための教育心理学・学校心理学の研究内容の理解と研究方法の訓練、並びに修士論文に関連するデータの収集である。

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である
1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の理解
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

**各回の授業計画:**

1. introduction ならびに本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育の講義
2. 学校心理学の研究論文の発表・討論(1)
3. 学校心理学の研究論文の発表・討論(2)
4. 教育臨床の研究論文の発表・討論(1)
5. 教育臨床の研究論文の発表・討論(2)
6. 統計を用いた研究論文の発表・討論(1)
7. 統計を用いた研究論文の発表・討論(2)
8. 各自の収集したデータの分析・討論(1)
9. 各自の収集したデータの分析・討論(2)
10. 各自の収集したデータの分析・討論(3)
11. 各自の収集したデータの分析・討論(4)
12. 各自の収集したデータの分析・討論(5)
13. 各自の収集したデータの分析・討論(6)
14. 各自の収集したデータの分析・討論(7)
15. まとめ・講評

**特記事項:** なし

**授業方法:** 授業は対面とする。教員による講義と学生による発表。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

学術論文の紹介、ならびに各自の研究テーマに関する実証的資料の収集の準備・分析のために、予習と復習に各週4時間の学習時間を必要とする。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** (100〜80点)関連文献等を批判的に読みこなしている。
(79〜70点)関連文献等の理解ができている。
(69〜60点)関連文献等の理解に偏りがある。

**課題へのフィードバック:**

授業で、研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する。課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく。

**教科書:** 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

**参考書:** 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

論文発表のためには、関連する文献収集し理解を深めることが必要である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し、調査研究ができる体制を提供するので、積極的に活用してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK01200002

**担当者:** 小川内 哲生 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 修士論文作成のために必要な教育心理学の研究法、分析や考察の在り方、論文の書き方等を習得するとともに、修士論文に関連するデータを収集することを目的とする。

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である。
1. 修士論文作成に関連する教育心理学の学術論文の内容を理解する。
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 教育心理学の学術論文の発表・討議(1)
3. 教育心理学の学術論文の発表・討議(2)
4. 教育心理学の学術論文の発表・討議(3)
5. 教育心理学の学術論文の発表・討議(4)
6. 教育心理学の学術論文の発表・討議(5)
7. 教育心理学の学術論文の発表・討議(6)
8. 各自の修士論文についての発表・討議(1)
9. 各自の修士論文についての発表・討議(2)
10. 各自の修士論文についての発表・討議(3)
11. 各自の収集したデータの分析・討論(1)
12. 各自の収集したデータの分析・討論(2)
13. 各自の収集したデータの分析・討論(3)
14. 各自の収集したデータの分析・討論(4)
15. まとめ・講評

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

**授業方法:** 講義、大学院生による発表・討論
全ての授業を対面で行う。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

教育心理学の学術論文の紹介、ならびに各自の修士論文のテーマに関する参考文献やデータの収集・分析のために、予習と復習に毎週4時間の学習時間を必要とする。

**評価方法:**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 % | **確認テスト:** | － % | **レポート:** | 50 % |
| **その他1:** | | | % | | |
| **その他2:** | | | % | | |

**評価基準:** (100～80点)修士論文の関連文献等を自分の視点から十分に読みこなしている。
(79～70点)修士論文の関連文献等の理解ができている。
(69～60点)修士論文の関連文献等の理解が不十分である。

**課題へのフィードバック:**

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

**教科書:**　教科書は使用しないが、教育心理学の学術論文を参考にする。

**参考書:**　必要に応じて紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

日頃から教育心理学の研究に関心を持ち、積極的に情報取集したり文献検索を行う等してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK01200003

**担当者:** 藤原 忠雄 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 授業の目的は，修士論文を作成するための教育心理学・学校心理学等の研究内容の理解と研究法の修得である。
修士論文に関連するデータの収集と分析である。

**到達目標:** 到達目標は以下の２点である
1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の内容を理解する。
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析を行う。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(6)
3. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(7)
4. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(8)
5. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(9)
6. 教育心理学・学校心理学等の先行研究の発表・解説・討論(10)
7. 統計法の活用及び結果記述のモデル論文の検討
8. 修士論文に係るデータ分析の検討(1)
9. 修士論文に係るデータ分析の検討(2)
10. 修士論文に係るデータ分析の検討(3)
11. 修士論文に係るデータ分析の検討(4)
12. 修士論文に係るデータ分析の検討(5)
13. 修士論文に係るデータ分析の検討(6)
14. 修士論文に係るデータ分析の検討(7)
15. まとめ・講評

**特記事項:** なし

**授業方法:** 【対面】
講義，発表及び協議。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

先行研究の発表及び資料作成、修士論文に係るデータの分析及び結果整理を行う予習に毎回平均して180分(合計2700分)，授業における検討内容の整理・総括を踏まえた文献検討・データ再分析を行う復習に毎回平均して180分(合計2700分)が必要である。

**評価方法:**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 % | **確認テスト:** | － % | **レポート:** | 50 % |
| **その他1:** | | | % | | |
| **その他2:** | | | % | | |

**評価基準:** (100～80点)関連文献の批判的検討，データ分析とその結果の理解と解釈ができている。
(79～70点)関連文献，データ分析とその結果の理解が全般的にできている。
(69～60点)関連文献，データ分析とその結果の理解が部分的にできている。

**課題へのフィードバック:**

先行研究に関する情報の提供，適切な分析法の使用及び結果の理解・解釈への助言・指導を行う。
課題・レポートの疑問点などは，授業・ゼミなどを活用してフィードバックする

**教科書:** 教科書は指定しないが，必要に応じて資料を配布する。

**参考書:** 日本学術会議協力学術研究団体（https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html）が発行している雑誌に掲載された学術論文。

**授業・準備学習のアドバイス:**

適切な分析法の使用と結果の解釈は、考察の深さとともに発信する知見の評価に大きく影響する。研究デザインの検討の際に，使用統計法の検討が含まれていることが重要である。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK01200004

**担当者:** 杉山 真人 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 授業の目的は，修士論文を作成するための身体教育・体育心理学等の研究内容の理解と研究法の修得である．
修士論文に関連するデータの収集と分析である．

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である．
1．修士論文のテーマに関連する学術論文の内容を理解する．
2．修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析を行う．

**各回の授業計画:**

1．Introductionならびに本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育の講義
2．身体教育・体育心理学の先行研究の発表・解説・討論（6）
3．身体教育・体育心理学の先行研究の発表・解説・討論（7）
4．身体教育・体育心理学の先行研究の発表・解説・討論（8）
5．身体教育・体育心理学の先行研究の発表・解説・討論（9）
6．身体教育・体育心理学の先行研究の発表・解説・討論（10）
7．統計法の活用及び結果記述のモデル論文の検討
8．修士論文に係るデータ分析の検討（1）
9．修士論文に係るデータ分析の検討（2）
10．修士論文に係るデータ分析の検討（3）
11．修士論文に係るデータ分析の検討（4）
12．修士論文に係るデータ分析の検討（5）
13．修士論文に係るデータ分析の検討（6）
14．修士論文に係るデータ分析の検討（7）
15．まとめ・講評

**特記事項:**

**授業方法:** 授業は対面とする．教員による講義と学生による発表．

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

先行研究の発表及び資料作成，修士論文に係る研究の発表及び資料作成を行う予習に毎回平均して180分（合計2700分），授業における協議内容の整理・総括を踏まえた文献収集・検討を行う復習に毎回平均180分（合計2700分）が必要である．

**評価方法:**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 % | **確認テスト:** | % | **レポート:** | 50 % |
| **その他1:** | | | % | | |
| **その他2:** | | | % | | |

**評価基準:** （100～80）関連文献等を批判的に読みこなしている．
（79～70）関連文献等の理解ができている．
（69～60）関連文献等の理解に偏りがある．

**課題へのフィードバック:**

授業で，研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する．課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく．

**教科書:**　教科書は指定しないが，必要に応じて資料を配布する.

**参考書:**　教科書は使用しないが，必要に応じて毎時間，資料を配布する.

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

論文発表のためには，関連する文献収集し理解を深めることが必要である．授業では，学校現場のフィールドを紹介し，調査研究ができる体制を提供するので，積極的に活用してほしい，

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BK01300001

**担当者:** 金山 健一 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 学校教育の現代的課題について、分析・検討・発表・討論等を積極的に行うことを通して、教職に必要な資質とスキルを形成する。さらに研究法を習得し、自らテーマを設定し論文を作成する。

**到達目標:**
1. コミュニケーションスキル及びディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成する。
2. 研究に関する情報の収集と、統計分析を取得する。
3. 論文作成に関する基本的技能の獲得し、論文を完成させる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーションと研究倫理
2. 研究とは何か
3. テーマ探求(1)
4. テーマ探求(2)
5. 研究目的
6. 研究方法(1)
7. 研究方法(2)
8. 研究結果のまとめ方(1)
9. 研究結果のまとめ方(2)
10. 考察方法(1)
11. 考察方法(2)
12. プレゼン方法
13. ゼミ内研究発表会(1)
14. ゼミ内研究発表会(2)
15. 評価とまとめ

**特記事項:** なし

**授業方法:** 授業は対面とする。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。同時に、論文作成をするためにSPSSを用いた統計分析を学ぶ。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 復習(180分)
2. 復習(180分)
3. 論文テーマ作成(180分)
4. 論文テーマ作成(180分)
5. 統計復習(180分)
6. 統計復習(180分)
7. 統計復習(180分)
8. 統計復習(180分)
9. 統計復習(180分)
10. 統計復習(180分)
11. プレゼン準備(180分)
12. 論文まとめ(180分)
13. 論文まとめ(180分)
14. 論文まとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

| 評価方法： | 授業へのとりくみ： | 50 % | 確認テスト： | － % | レポート： | 50 % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | その他1： | | | % | | |
| | その他2： | | | % | | |

**評価基準：** 「最低限の到達」（60～69点）
・授業への取り組み：学校教育の現代的課題について、知識を習得することができる。
・レポート：学校教育の現代的課題について、まとめることができる。
「望ましい到達度」（80～100点）
・授業への取り組み：学校教育の現代的課題について、分析・討論することができる。
・レポート：学校教育の現代的課題について、研究することができる。

**課題へのフィードバック：**

課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

**教科書：** 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

**参考書：** 菱田 準子（著）、森川 澄男（監修）『すぐ始められるピア・サポート指導案＆シート集』 ほんの森出版

**授業・準備学習のアドバイス：**

理論ばかりでなく、実践場面を意識した授業である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し、必要に応じて学校教師の協力も仰げる体制を提供するので、積極的に参加してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BK01300002

**担当者:** 小川内 哲生 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 授業の目的は、修士論文を作成するために必要な関連文献の理解と修士論文に関連するデータの収集である。

**到達目標:** 到達目標は以下の２点である
1. 修士論文のテーマに関連する学術論文の理解
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

**各回の授業計画:**

1. introductionと本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育
2. 学校心理学に関する関連文献の発表・討論(1)
3. 学校心理学に関する関連文献の発表・討論(2)
4. 教育臨床研究に関する関連文献の発表・討論(1)
5. 教育臨床研究に関する関連文献の発表・討論(2)
6. 量的研究に関する関連文献の発表・討論(1)
7. 量的研究に関する関連文献の発表・討論(2)
8. 各自の収集したデータの分析・討論(1)
9. 各自の収集したデータの分析・討論(2)
10. 各自の収集したデータの分析・討論(3)
11. 各自の収集したデータの分析・討論(4)
12. 各自の収集したデータの分析・討論(5)
13. 各自の収集したデータの分析・討論(6)
14. 各自の収集したデータの分析・討論(7)
15. まとめ・講評

**特記事項:** なし

**授業方法:** 教員による講義と学生による発表。
全ての授業を対面で行う。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

修士論文作成のために、自分のテーマに関係する論文と研究計画を発表する。その準備のために、修士論文作成のために、発表論文の予習が 30 時間であり、発表後の関連文献の確認の復習が 30 時間である。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** (100～80点)関連文献等を批判的に読み、自分の修論テーマに適切に組み込むことができる。
(79～70点)関連文献等を理解し、自分の修論テーマに組み込むことができる。
(69～60点)自分の修論テーマに関連文献等を引用できる。

**課題へのフィードバック:**

授業で、研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する。課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく。

**教科書:** 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

**参考書:** 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

**授業・準備学習のアドバイス:**

授業では、学校現場のフィールドを紹介し、調査研究ができる体制を提供するので、積極的に活用してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅲ

**クラス:**

**授業コード:** BK01300003

**担当者:** 藤原 忠雄 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 修士論文作成のために必要な教育心理学・学校心理学の関連文献の理解と修士論文に関連するデータを収集し分析することを目的とする。

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である。
1. 修士論文作成に関連する教育心理学・学校心理学の学術論文の内容を理解する。
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーションと本学研究倫理基準・規定に則った研究倫理教育
2. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(11)
3. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(12)
4. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(13)
5. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(14)
6. 教育心理学・学校心理学の学術論文の発表・解説・討論(15)
7. 各自の収集データの分析・討論(1)
8. 各自の収集データの分析・討論(2)
9. 各自の収集データの分析・討論(3)
10. 各自の収集データの分析・討論(4)
11. 各自の収集データの分析・討論(5)
12. 各自の収集データの分析・討論(6)
13. 各自の収集データの分析・討論(7)
14. 各自の収集データの分析・討論(8)
15. まとめ・講評

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

**授業方法:** 【対面】
講義、大学院生による発表・討論

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

教育心理学・学校心理学の学術論文や各自の修士論文のテーマに関連する参考文献の紹介、ならびに各自の修士論文のデータ収集や分析のために、予習と復習に毎週4時間の学習時間を必要とする。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** (100～80点)修士論文の関連文献等を自分の視点から読みこなしたり、データの収集や分析を行うことが十分にできている。
(79～70点)修士論文の関連文献等を理解したり、データの収集や分析を行うことができている。
(69～60点)修士論文の関連文献等を理解したり、データの収集や分析を行うことがやや不十分である。

**課題へのフィードバック:**

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

**教科書:**　日本学術会議協力学術研究団体（https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html）が発行している雑誌に掲載された学術論文。

**参考書:**　必要に応じて紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

日頃から教育心理学・学校心理学の研究に関心を持ち、積極的に情報収集したりデータ分析を行う等してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BK01400001

**担当者:** 金山 健一 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 学校教育の現代的課題について、分析・検討・発表・討論等を積極的に行うことを通して、教職に必要な資質とスキルを形成する。さらに研究法を習得し、自らテーマを設定し論文を作成する。

**到達目標:**
1. コミュニケーションスキル及びディスカッション力、プレゼンテーション能力の形成する。
2. 研究に関する情報の収集と、統計分析を取得する。
3. 論文作成に関する基本的技能の獲得し、論文を完成させる。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーションと研究倫理
2. 先行研究の調べ方
3. テーマ探求
4. テーマ探求
5. 研究とは何か
6. 研究目的
7. 研究方法
8. 研究方法
9. 研究結果分析
10. 研究結果分析
11. 研究考察
12. 研究考察
13. ゼミ内研究発表会
14. ゼミ内研究発表会
15. 評価とまとめ

**特記事項:** なし

**授業方法:** 授業はすべて対面で実施する。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。同時に、論文作成をするためにSPSSを用いた統計分析を学ぶ。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 復習(180分)
2. 復習(180分)
3. 論文テーマ作成(180分)
4. 論文テーマ作成(180分)
5. 統計復習(180分)
6. 統計復習(180分)
7. 統計復習(180分)
8. 統計復習(180分)
9. 統計復習(180分)
10. 統計復習(180分)
11. プレゼン準備(180分)
12. 論文まとめ(180分)
13. 論文まとめ(180分)
14. 論文まとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

| 評価方法： | 授業へのとりくみ： | 50 % | 確認テスト： | － % | レポート： | 50 % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | その他1： | | | % | | |
| | その他2： | | | % | | |

**評価基準：** 「最低限の到達」（60～69点）
・授業への取り組み：学校教育の現代的課題について、知識を習得することができる。
・レポート：学校教育の現代的課題について、まとめることができる。
「望ましい到達度」（80～100点）
・授業への取り組み：学校教育の現代的課題について、分析・討論することができる。
・レポート：学校教育の現代的課題について、研究することができる。

**課題へのフィードバック：**

課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

**教科書：** 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

**参考書：** 菱田 準子（著）、森川 澄男（監修）『すぐ始められるピア・サポート指導案&シート集』 ほんの森出版

**授業・準備学習のアドバイス：**

理論ばかりでなく、実践場面を意識した授業である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し、必要に応じて学校教師の協力も仰げる体制を提供するので、積極的に参加してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BK01400002

**担当者:** 小川内 哲生 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 授業の目的は、教育心理学演習の仕上げで、教育心理学の修士論文を完成させることである。

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である
1. 修士論文を完成させること
2. 教育心理学研究の本質を理解し、critical thinking の力をつけること

**各回の授業計画:**

1. Introduction ならびに本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育の講義
2. 各自の収集したデータの分析と討論(1)
3. 各自の収集したデータの分析と討論(2)
4. 各自の収集したデータの分析と討論(3)
5. 各自の収集したデータの分析と討論(4)
6. 各自の収集したデータの分析と討論(5)
7. 各自の収集したデータの分析と討論(6)
8. 各自の収集したデータの分析と討論(7)
9. 各自の収集したデータの分析と討論(8)
10. 各自の収集したデータの分析と討論(9)
11. 作成した論文並びに関連文献の発表と討論(1)
12. 作成した論文並びに関連文献の発表と討論(2)
13. 作成した論文並びに関連文献の発表と討論(3)
14. 作成した論文並びに関連文献の発表と討論(4)
15. まとめと講評

**特記事項:** なし

**授業方法:** 教員による講義と学生による発表。
全ての授業を対面で行う。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

修士論文作成のために、予習と復習を含めた学習時間に、毎週4時間の学習時間を確保する。

| **評価方法:** | **授業へのとりくみ:** | 50 % | **確認テスト:** | － % | **レポート:** | 50 % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | **その他1:** | | | % | | |
| | **その他2:** | | | % | | |

**評価基準:** (100～80点)関連文献等を批判的に読み、自分の修論テーマに適切に組み込むことができる。
(79～70点)関連文献等を理解し、自分の修論テーマに組み込むことができる。
(69～60点)自分の修論テーマに関連文献等を引用できる。

**課題へのフィードバック:**

授業で、研究発表内容に関する文献や文献の収集方法・読み方等を指導する。課題・レポートの疑問点などは、授業・ゼミなどを活用してフィードバックしていく。

**教科書:** 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

**参考書:** 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

授業では、学校現場のフィールドを紹介し、必要に応じて学校教師の協力も仰げる体制を提供するが、調査対象学校には研究結果をフィードバックすることが肝要である。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学演習Ⅳ

**クラス:**

**授業コード:** BK01400003

**担当者:** 藤原 忠雄 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 修士論文に関連するデータを収集や分析を行い修士論文を完成させることを目的とする。

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である。
1. 修士論文を完成させる。
2. 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析を行う。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 各自の収集データの分析・討論(9)
8. 各自の収集データの分析・討論(10)
4. 各自の収集データの分析・討論(11)
5. 各自の収集データの分析・討論(12)
6. 各自の収集データの分析・討論(13)
7. 各自の収集データの分析・討論(14)
8. 各自の収集データの分析・討論(15)
9. 各自の収集データの分析・討論(16)
10. 各自の収集データの分析・討論(17)
11. 作成した修士論文の発表と討論(1)
12. 作成した修士論文の発表と討論(2)
13. 作成した修士論文の発表と討論(3)
14. 作成した修士論文の発表と討論(4)
15. まとめ・講評

**特記事項:** 本授業の単位認定には、土曜日に実施される各種発表会(研究計画発表会、中間発表会、修論発表会)への参加・出席を必要とする。

**授業方法:** 【対面】
講義、大学院生による発表・討論

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**
各自の修士論文のデータ収集や分析、論文作成のために予習と復習に毎週4時間の学習時間を必要とする。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** (100～80点)データの収集、分析を行うことや修士論文作成が十分にできている。
(79～70点)データの収集、分析を行うことや修士論文作成ができている。
(69～60点)データの収集、分析を行うことや修士論文作成がやや不十分である。

**課題へのフィードバック:**
課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

**教科書:** 日本学術会議協力学術研究団体(https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html)が発行している雑誌に掲載された学術論文。

**参考書:**　　必要に応じて紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

日頃から教育心理学・学校心理学の研究に関心を持ち、積極的に情報収集したりデータ分析を行う等してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育実践学・国際教育演習Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK06100001

**担当者:** 近藤 要司 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 国際教育に役立つ日本語についての深い課題探求・課題解決能力を育成する。本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を行う。

**到達目標:** 修士課程での研究活動を効率よく深化させるための方法を理解し、実践できる。
日本語に関する先行研究を幅広く読み、日本語に関するさまざまな課題とその位置関係を理解している。
日本語に関するさまざまなデータの扱い方を理解し活用できる。
研究倫理について理解し、これにそって研究をすすめることができる。

**各回の授業計画:**

1. 研究計画を考える 研究計画書とは何かを理解する(大学院で学ぶ目的を明確にする) 研究倫理について
2. 研究課題を決める1 大きな方向性を決める 日本語について、どのようなことを探求したいのか、互いにテーマを出し合い討論する。
3. 研究目的・研究動機・研究の意義を文章化する
4. 先行研究の情報を集める 文献リストを作成し、必読文献をみつける
5. 日本語論文での引用の仕方・参考文献の挙げ方を学ぶ
6. 必読文献を読んで報告する1
7. 必読文献を読んで報告する2
8. 必読文献を読んで報告する3
9. 必読文献を読んで報告する2
10. 必読文献について、内容を分析し、課題を整理した文章を作成する(1)
11. 必読文献について、内容を分析し、課題を整理した文章を作成する(2)
12. 必読文献について、内容を分析し、課題を整理した文章を作成する(3)
13. 研究計画案を発表する1
14. 研究計画案を発表する2
15. 研究計画案を発表する3

**特記事項:** なし

**授業方法:** 対面授業。
演習方式で、毎回履修者に発表させる

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

日本語能力N1レベル以上の力が要求されるので、日本語に関する訓練を積み重ねること
1回目:大学院で学ぶ目的を明確にし、他人に分るように説明する準備をする(180分)
2回目:日本語の何を探求したいのか、発表できるように準備する(180分)
3回目:研究目的・研究動機・研究の意義を文章化する(180分)
4回目:先行研究の情報を集める 文献リストを作成し、必読文献をみつける(180分)
5回目:日本語論文での引用の仕方・参考文献の挙げ方を自分で調べる(180分)
6回目:必読文献2点を読み、報告できるようにまとめる(180分)
7回目:必読文献2点を読み、報告できるようにまとめる(180分)
8回目:必読文献2点を読み、報告できるようにまとめる(180分)
9回目:必読文献2点を読み、報告できるようにまとめる(180分)
10回目:必読文献について2編について報告を作成する(180分)
11回目:必読文献について2編について報告を作成する(180分)
12回目:必読文献について2編について報告を作成する(180分)
13回目:研究計画書原案を書き上げる(180分)
14回目:授業での質疑応答を踏まえて、研究計画書原案を書き直す(180分)
15回目:研究計画書原案を書き上げる(180分)

| 評価方法： | 授業へのとりくみ： | 50 % | 確認テスト： | 0 % | レポート： | 50 % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | その他1： | | | % | | |
| | その他2： | | | % | | |

**評価基準：** 秀（100～90）：研究課題が明確で、先行研究の分析が的確であり、自身の研究の進め方について、精密な文章で表現している。
優（89～80）：研究課題が明確で、先行研究を複数紹介できている。自分の研究の方向性を理解し、それを文章化できる。
良（79～70）：研究課題の方向性が定まっていて、その分野の先行研究を読んでいる。自分の研究の達成点未達成な点を十分理解している。
可（69～60）：研究課題の方向が定まっているが、先行研究を十分に理解できていない。

**課題へのフィードバック：**

対面で指導を行う。

**教科書：** なし

**参考書：** 北原保雄監修『実践 研究計画作成法』凡人社
沖森卓也編著『日本語学説』朝倉書店
中俣尚巳『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』ひつじ書房

**授業・準備学習のアドバイス：**

修士課程では、先行研究をよく読み理解することが必須です。ネットで公開されている論文のみを読むのではなく、必読文献については図書館の文献複写サービスなど活用して、かならず入手してください。高価な書籍については、図書館に購入をお願いしましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育実践学・国際教育演習Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK06200001

**担当者:** 近藤 要司 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 国際教育に役立つ日本語についての深い課題探求・課題解決能力を育成する。

**到達目標:** 日本語に関する先行研究を幅広く読み、日本語に関するさまざまな課題とその位置関係を理解している
日本語に関するさまざまなデータの扱い方を理解し活用できる
自分自身の研究課題を設定し、その課題に答えるための方策について構想できる。

**各回の授業計画:**

1. 春学期に発表した研究計画案について、細部を精密化する。
2. 研究計画発表の予行演習を行い、相互に質疑応答を行う。
3. 研究計画発表の反省・質問とそれへの対応など足りなかった部分を反省する。
4. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-1
5. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-2
6. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-3
7. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-4
8. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-5
9. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-6
10. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-7
11. 先行研究から必読文献を選び精読し、その文献の方法論結論を報告する-8
12. 文献を分析した結果を生かして、先行研究の整理を行う
13. 先行研究の整理を行う 先行研究の研究史的位置づけ、方法論の位置関係などを整理する。
14. 自分の課題のための調査の計画策定 先行研究をもとに自分の課題を整理し、その課題への解答を得るためにはどのような独自調査が必要かを構想する
15. 中間発表の予行演習

**特記事項:** なし

**授業方法:** 対面授業。
演習形式 出席者同士の質疑応答を重視する

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 春学期のレポートについての教員のコメントをもとに研究計画書を改良する(180分)
2. 発表用スライドと発表原稿を作成する(180分)
3. 研究計画発表での質疑を踏まえ、新たな課題を確認する(180分)
4. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
5. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
6. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
7. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
8. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
9. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
10. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
11. 必読文献を要約し、自分の課題との位置関係を考察する(180分)
12. 研究計画書の課題をさらに深化させる(180分)
13. 先行研究を分類し、まとめる(180分)
14. 自分のデータをどのように集めるのか計画する(180分)
15. 発表用のスライドと発表原稿を用意する(180分)

| 評価方法： | 授業へのとりくみ： | 50 % | 確認テスト： | － % | レポート： | 50 % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | その他1： | | | % | | |
| | その他2： | | | % | | |

**評価基準：** 秀（100～90）：研究課題が明確で、先行研究の分析が的確であり、自身の研究の進め方について、精密な文章で表現している。
優（89～80）：研究課題が明確で、先行研究を複数紹介できている。自分の研究の方向性を理解し、それを文章化できる。
良（79～70）：研究課題の方向性が定まっていて、その分野の先行研究を読んでいる。自分の研究の達成点未達成な点を十分理解している。
可（69～60）：研究課題の方向が定まっているが、先行研究を十分に理解できていない。

**課題へのフィードバック：**

論文講読、論文計画については、随時フィードバックを行う。

**教科書：** 使用しない

**参考書：** 沖森卓也編著『日本語学説』朝倉書店
中俣尚巳『「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門』ひつじ書房

**授業・準備学習のアドバイス：**

修士課程では、先行研究をよく読み理解することが必須です。ネットで公開されている論文のみを読むのではなく、必読文献については図書館の文献複写サービスなど活用して、かならず入手してください。高価な書籍については、図書館に購入をお願いしましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK10100001

**担当者:** 隈元 泰弘 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想Ⅰ
4. 研究の構想Ⅱ
5. 研究の構想Ⅲ
6. 研究の構想Ⅳ
7. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅠ
8. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅡ
9. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅢ
10.修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅣ
11. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅠ
12. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅡ
13. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅢ
14. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅣ
15. 授業のまとめ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会(研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会)への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究発表会での協議を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・研究発表の準備:思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度をその基本的な在り方において身につける。

・望ましい到達度(80～100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的を必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

---

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK10100003

**担当者:** 廣岡 義之 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想Ⅰ
4. 研究の構想Ⅱ
5. 研究の構想Ⅲ
6. 研究の構想Ⅳ
7. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅠ
8. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅡ
9. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅢ
10.修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅣ
11. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅠ
12. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅡ
13. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅢ
14. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅣ
15. 授業のまとめ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会(研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会)への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究発表会での協議を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・研究発表の準備:思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度をその基本的な在り方において身につける。

・望ましい到達度(80～100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的を必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

---

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK10100004

**担当者:** 森 眞理 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想Ⅰ
4. 研究の構想Ⅱ
5. 研究の構想Ⅲ
6. 研究の構想Ⅳ
7. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅠ
8. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅡ
9. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅢ
10.修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅣ
11. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅠ
12. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅡ
13. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅢ
14. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅣ
15. 授業のまとめ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会(研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会)への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究発表会での協議を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・研究発表の準備:思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度をその基本的な在り方において身につける。

・望ましい到達度(80～100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的を必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

---

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK10100007

**担当者:** 金山 健一 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想Ⅰ
4. 研究の構想Ⅱ
5. 研究の構想Ⅲ
6. 研究の構想Ⅳ
7. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅠ
8. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅡ
9. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅢ
10. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅣ
11. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅠ
12. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅡ
13. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅢ
14. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅣ
15. 授業のまとめ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会(研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会)への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究発表会での協議を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・研究発表の準備:思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度をその基本的な在り方において身につける。

・望ましい到達度(80～100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的を必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

---

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK10100008

**担当者:** 小川内 哲生 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想Ⅰ
4. 研究の構想Ⅱ
5. 研究の構想Ⅲ
6. 研究の構想Ⅳ
7. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅠ
8. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅡ
9. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅢ
10.修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅣ
11. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅠ
12. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅡ
13. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅢ
14. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅣ
15. 授業のまとめ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会(研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会)への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究発表会での協議を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・研究発表の準備:思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度をその基本的な在り方において身につける。

・望ましい到達度(80～100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的を必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

---

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅰ

**クラス:**

**授業コード:** BK10100009

**担当者:** 藤原 忠雄 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 問題意識を温める
3. 研究の構想Ⅰ
4. 研究の構想Ⅱ
5. 研究の構想Ⅲ
6. 研究の構想Ⅳ
7. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅠ
8. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅡ
9. 修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅢ
10.修士論文の研究課題と先行研究のディスカッションⅣ
11. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅠ
12. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅡ
13. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅢ
14. 修士論文の研究課題と研究方法のディスカッションⅣ
15. 授業のまとめ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会(研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会)への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究発表会での協議を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・研究発表の準備:思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的な枠組みにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度をその基本的な在り方において身につける。

・望ましい到達度(80～100点)

上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを基本的を必要十分なレベルにおいてにおいて収集する。また、幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必要十分なレベルにおいて身につける。

---

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究のテーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK10200001

**担当者:** 隈元 泰弘 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅰ
15.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅱ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会（研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会）への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

・研究発表の準備：思索の深化・拡大を目指す研究の展開（30時間）。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開（30時間）。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度（60～69点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる

専門性の高い資質や本質遡求的な態度を高いレベルで身につける。

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

**教科書:** なし

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るように配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK10200003

**担当者:** 廣岡 義之 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅰ
15.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅱ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会（研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会）への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

・研究発表の準備：思索の深化・拡大を目指す研究の展開（30時間）。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開（30時間）。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度（60～69点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる

専門性の高い資質や本質遡求的な態度を高いレベルで身につける。

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

**教科書:** なし

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るように配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK10200004

**担当者:** 森 眞理 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅰ
15.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅱ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会（研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会）への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

・研究発表の準備：思索の深化・拡大を目指す研究の展開（30時間）。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開（30時間）。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度（60～69点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる

専門性の高い資質や本質遡求的な態度を高いレベルで身につける。

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

**教科書:** なし

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るように配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK10200007

**担当者:** 金山 健一 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ(修士論文の研究内容を議論する。)
7.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ(修士論文の研究内容を議論する。)
8.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ(修士論文の研究内容を議論する。)
9.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ(修士論文の研究内容を議論する。)
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14.「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅰ
15.「修士論文発表会」(最終審査会)の実施と研究成果の発表Ⅱ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会(研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会)への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・研究発表の準備:思索の深化・拡大を目指す研究の展開(30時間)。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開(30時間)。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60〜69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度(80〜100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる

専門性の高い資質や本質遡求的な態度を高いレベルで身につける。

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

**教科書:** なし

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るように配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK10200008

**担当者:** 小川内 哲生 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅰ
15.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅱ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会（研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会）への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

・研究発表の準備：思索の深化・拡大を目指す研究の展開（30時間）。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開（30時間）。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度（60～69点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる

専門性の高い資質や本質遡求的な態度を高いレベルで身につける。

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

**教科書:** なし

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るように配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 特別研究Ⅱ

**クラス:**

**授業コード:** BK10200009

**担当者:** 藤原 忠雄 **単位数:** 1

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

**到達目標:** 1. 各自の研究を修士論文として完成させること。
2. 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を身につけること。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション
2. 研究内容への指導Ⅰ
3. 研究内容への指導Ⅱ
4. 研究内容への指導Ⅲ
5. 研究内容への指導Ⅳ
6.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅰ（修士論文の研究内容を議論する。）
7.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅱ（修士論文の研究内容を議論する。）
8.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅲ（修士論文の研究内容を議論する。）
9.「中間発表会Ⅱ」の実施と参加Ⅳ（修士論文の研究内容を議論する。）
10. 研究内容への指導Ⅴ
11. 研究内容への指導Ⅵ
12. 研究内容への指導Ⅶ
13. 研究内容への指導Ⅷ
14.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅰ
15.「修士論文発表会」（最終審査会）の実施と研究成果の発表Ⅱ

**特記事項:** この科目の受講者は、教育学専攻主催の研究発表会（研究計画発表会・中間発表会Ⅰ・Ⅱ、修士論文発表会）への参加が義務付けられます。発表の有無に関係なく参加してください。この科目の成績に反映されます。

**授業方法:** ・授業はすべて対面で実施する。
・全大学院生、全教員参加の研究会で個別発表をする。
・発表の準備とそのための個別指導を行う。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の深化・拡大への個別指導をする

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

・研究発表の準備：思索の深化・拡大を目指す研究の展開（30時間）。
・研究会での発表への質問・批判を参考にした研究の新たな展開（30時間）。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度（60～69点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として基本的なレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質遡求的な態度を必用不可欠なレベルにおいて身につける。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち、各自の研究を修士論文として高いレベルで完成させる。幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる

専門性の高い資質や本質遡求的な態度を高いレベルで身につける。

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、できるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

**教科書:** なし

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**

〇研究計画発表会や中間発表会に参加し、研究テーマ設定、研究の目的、研究の内容について示唆を得るようにしましょう。
〇課題への解答に対して、できるだけ早い機会にその秀逸な論点を、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、学修に生産的に還元され得るように配慮します。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育哲学特論

**クラス:**

**授業コード:** BK20100001

**担当者:** 廣岡 義之 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** 教育思想を教育哲学的に考察しつつ、教育の本質的な見方、考え方についての専門的な理解を深める。

**到達目標:** 教育思想を教育哲学的に考察しつつ、教育的課題について論理的に思考し、判断し、それを主体的に解決し、表現する能力を身につけることをねらいとする。

**各回の授業計画:**

1. ボルノーの生涯と思想① 退官前まで
2. ボルノーの生涯と思想② 退官後
3. 哲学的人間学の根本問題
4. 時間論の教育哲学的意義
5. 空間論の教育哲学的意義
6. 言語教育論
7. 真理論の教育哲学的意義
8. 危機の教育学的意義
9. 教育学的解釈学
10. 経験の教育哲学
11. 教師と生徒の信頼関係
12. 自立への教育
13. 練習の精神の教育的意義
14. モンテッソーリにおける練習の意義
15. ボルノーの徳論

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う

1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
2.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
3.(予習)当該テキストを通読する。(180分)

4.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
5.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
6.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
7.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
8.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
9.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
10.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
11.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
12.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
13.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
14.(予習)当該テキストを通読する。(180分)
15.(予習)当該テキストを通読する。(180分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | 50 | **%** | **レポート:** | - **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:**
1. 授業参加態度
①授業内容の「メモをとる」等ができる(60-69)。これらに加えて(90-100)は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
2. 試験
①教育哲学の基礎的な概念を説明できる。(60-69) これらに加えて教育哲学の専門的な概念を説明できる。(90-100)
・上記項目を総合的に評価する。

**課題へのフィードバック:**
試験については、その課題のポイントと評価の観点を全体に向けて説明する。

**教科書:** 講義の際に提示する

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**
予習復習を習慣づけましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 道徳教育特論

**クラス:**

**授業コード:** BK20200001

**担当者:** 隈元 泰弘 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 1. 人間の「善さ」とは何か、学校教育において「善さ」の発達を促すということはどのようにして可能となるのか。この問題について様々な道徳教育論を考察する。
2. 様々な道徳教育の思想を歴史的、世界的視野から検討する。
3. 日本における道徳教育を、その歴史、現在のあり方と問題点、世界との比較という観点から論じる。
4. 道徳の授業の様々な方法論を、善さとその発達に関する基礎理論との一体的視点から解説し、学校における人間教育の新たな可能性について提案する。

**到達目標:** 1. 人間の善さに関する思想の多彩な内容と、その向上を促す教育の持つ様々な困難について理解する。
2. 道徳教育の本質並びに現代日本おける道徳教育の状況と困難について歴史的・世界的視野から理解し、道徳教育の意義を説明できるようになる。
3. 道徳の授業に関してその様々な方法論を習得する。さらに、それに立脚して自分独自の指導案を作成し、実際に授業を展開する力を身につける。

**各回の授業計画:**

1. 道徳教育の課題
2. 世界における道徳教育・人間教育の現状
3. 日本における道徳教育の歴史
4. 現代日本の道徳教育(学校教育全般における道徳教育)
5. 現代日本の道徳教育(道徳の時間における道徳教育)
6. 道徳教育思想史(1)古代ギリシャ
7. 道徳教育思想史(2)近世ヨーロッパ
8. 道徳教育思想史(3)現代アメリカ
9. 道徳性の発達に関する諸理論とその類型
10. 「道徳の授業」の方法論(1)「品性教育」
11. 「道徳の授業」の方法論(2)「価値明確化の教育」
12. 「道徳の授業」の方法論(3)「コールバーグ理論」
13. 「道徳の授業」の方法論(4)「構成的ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ」
14. 「道徳の授業」の方法論(5)「モラルスキルトレーニング」
15. 道徳教育論の新たな展開

**特記事項:** 授業は、対面の講義形式で行う。

**授業方法:** 授業は、対面で行う。
講義形式を基本としつつ演習形式の長所も取り入れて以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク
・プレゼンテーション
・視聴覚教材の活用

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、配布された資料や参考文献をもとに、予定される講義内容の理解のための準備や課題発表の用意を周到に行い、グループワークやプレゼンテーション等の必要性に対応できるようにすること。(2時間)

復習においては、講義ノートを整理し、文献や各種資料を調査・学修して講義についての理解を深め、レポート・ワークシート等の課題が課せら有れている場合はそれを完成すること。(2時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 **%** | **確認テスト:** | − **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:**

・最低限の到達度(60～69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。すなわち:
1. 人間の善さに関する思想の多彩な内容と、その向上を促す教育の持つ様々な困難についてその概要を理解すること。
2. 道徳教育の本質並びに現代日本おける道徳教育の状況と困難について歴史的・世界的視野から概括的に理解し、道徳教育の意義をその概要において説明できるようになること。
3. 道徳の授業に関してその様々な方法論の基本を習得すること。さらに、それに立脚して自分独自の指導案を作成し、実際に授業を展開する力をその基本的なレベルにおいて身につけること。
・望ましい到達度(80～100点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。すなわち:
1. 人間の善さに関する思想の多彩な内容と、その向上を促す教育の持つ様々な困難について明確に理解すること。
2. 道徳教育の本質並びに現代日本おける道徳教育の状況と困難について歴史的・世界的視野から十全に理解し、道徳教育の意義を明瞭に説明できるようになること。
3. 道徳の授業に関してその様々な方法論を確実に習得すること。さらに、それに立脚して自分独自の指導案を作成し、実際に授業を展開する力をその確実なレベルにおいて身につけること。

**課題へのフィードバック:**

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

**教科書:** 土戸敏彦編集『＜道徳＞は教えられるのか？』教育開発研究 2003年

**参考書:** 佐野安仁、吉田謙二編『コールバーグ理論の基底』第2版 世界思想社 1996年
佐野安仁監修、加賀裕郎、隈元泰弘編集『現代教育学のフロンティア』世界思想社 2003年

**授業・準備学習のアドバイス:**

「善さ」と「善さの発達」という根本問題について歴史的・世界的視野から理解するという姿勢をもって講義にのぞんでほしい。さらに、「善さの発達を実現する教育」の具体的な方法に関して理論と実践との両面から総合的に学んでほしい。(尚、レポートの代わりに確認テストを行う可能性もある。)

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** カリキュラム特論

**クラス:** ☆集中

**授業コード:** BK20300001

**担当者:** 石井 英真 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 資質・能力を重視する新学習指導要領、個別最適な学びの実現に向けたGIGAスクール構想など、変化する社会の中で、各学校において創意工夫を活かしてカリキュラムを構想する力量が求められている。本講義では、特徴的な実践事例も取り上げながら、教育課程に関する基礎的な概念を深め、将来の実践づくりに向けた展望を示したい。

**到達目標:** カリキュラム開発に関する基礎的な概念の習得にあたっては、それらをめぐる争点や論点を様々な資料によって共有し、さらには課題解決の過程を通じて、より深い理解への到達をめざしたい。また、このようなカリキュラム開発への深い理解を通じて、教育現場に活きる実践的な力量形成をはかりたい。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション(教育課程・カリキュラム研究の意義)
2. カリキュラムと授業
3. 教科書とカリキュラム(教材と教科内容の区別)
4. 教科書とカリキュラム(教科書比較)
5. 子どもの学びとカリキュラム
6. 総合学習のカリキュラム
7. 教科指導と教科外活動
8. カリキュラムと評価(評価の目的と機能)
9. カリキュラムと評価(評価の方法)
10. カリキュラム開発とカリキュラム経営
11. カリキュラムの接続と入試
12. カリキュラム改革の歴史(制度史の観点から)
13. カリキュラム改革の歴史(実践史の観点から)
14. 諸外国のカリキュラム
15. カリキュラム開発の現代的課題

**特記事項:** なし

**授業方法:**

1. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
2. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
3. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
4. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
5. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
6. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
7. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
8. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
9. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
10. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
11. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
12. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
13. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
14. 講義とグループワーク(オンライン(同時配信))
15. 発表とディスカッション(オンライン(同時配信))

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
2. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)

3. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
4. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
5. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
6. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
7. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
8. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
9. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
10. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
11. 授業プリントの復習と意見の整理(4時間)
12. 授業プリントの復習と意見の整理(2時間)+発表準備(2時間)
13. 授業プリントの復習と意見の整理(2時間)+発表準備(2時間)
14. 授業プリントの復習と意見の整理(2時間)+発表準備(2時間)
15. 発表の振り返り(4時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 70 **%** | **確認テスト:** | − **%** | **レポート:** | 30 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:**

1. 授業へのとりくみ(授業態度、関心・意欲、発表など)
・ 授業内容の各トピックスに対して、基本的な関わり(教育学的な視点をふまえた態度および学ぶ関心・意欲など)により授業への参加がなされている(60～69点)。
・ 授業内容の各トピックスに対して、自ら積極的に関わり(教育学的な視点をふまえた態度および学ぶ関心・意欲など)を持ちながら授業へ参加し、内容への発言や質問をする取り組みがなされている(80～100点)。

2. レポート
・ 各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされている(60～69点)。
・ 各トピックスで学んだ内容について、レポート課題に対する論述(自身の考えや表現)がなされつつ、読み手に伝わるように作成されている(80～100点)。

**課題へのフィードバック:**

授業中にレポートを作成し、その場でフィードバックを行う。

**教科書:** 石井英真『カリキュラム・オーナーシップ』教育開発研究所、2026年

**参考書:** 石井英真『教育「変革」の時代の羅針盤』教育出版 2024年
石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房 2020年

**授業・準備学習のアドバイス:**

自分たちの学校経験、これまで学んできた教育に関する知識、各自の問題意識を踏まえて、大いに議論に参加してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育方法学特論

**クラス:**

**授業コード:** BK20400001

**担当者:** 廣岡 義之 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 本講義では、まず、西洋の教育方法の変遷を全体的に把捉する。その後、具体的な教育者の教育方法について詳細に考察していく。日本の教育者についても論究する。最後に、最新の学習指導要領の教育方法、評価の仕方についても考察を深めつつ、今後の課題を展望してみたい。

**到達目標:** 西洋や日本の教育方法を概観することを通じて、現代学校で採用されている教育方法を批判的に考察する視点を獲得する。そのうえで、ひとりひとりが創造的な授業を構想し、創造する力量を身に付けることを目標とする。

**各回の授業計画:**

1. 教育方法の歴史的展開
2. 教育方法の理論的背景
3. 学習指導の方法原理
4. 学習指導の方法
5. 新学習指導要領における教育方法
6. 西洋の教育方法の歴史的変遷①
7. 西洋の教育方法の歴史的変遷②
8. フレーベルの教育方法①
9. フレーベルの教育方法②
10. シュタイナーの教育方法①
11. シュタイナーの教育方法②
12. 林竹二の教育方法①
13. 林竹二の教育方法②
14. 東井義雄の教育方法①
15. 東井義雄の教育方法②

**特記事項:** なし

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う

1.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
2.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
3.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
4.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
5.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
6.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
7.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
8.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
9.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
10.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
11.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
12.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
13.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
14.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。
15.(授業方法)講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

第1回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)
第2回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく(180分)

第3回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第4回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第5回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第6回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第7回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第8回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第9回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第10回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第11回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第12回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第13回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第14回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）
第15回 資料と論文を配布するので、それをよく読んでおく（180分）

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 | **%** | **確認テスト：** | 50 | **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：** (60～69)最低限の到達度
・教育方法の概念を全体的に理解している。
・教育者の具体的な教育方法の内容を理解していること。

(80～100)
・教育方法の概念について、具体的に説明ができ、その長所と問題点を指摘できること
・現代の学校教育で採用されている教育方法の問題的を認識していること
・現代における授業を改善するための方途を構想できること

**課題へのフィードバック：**
授業内の討議については、授業中に解説をする。

**教科書：** 適宜、指示をする。

**参考書：** 適宜、資料を配布する。

**授業・準備学習のアドバイス：**
1. しばしば資料を配布するので、なくさないように綴じておいて、授業時には持参してください。
2. 授業中に、発表したり、主体的に参加することを求めます。
3. 楽しく議論して自分の意見を深めましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育社会学特論

**クラス:** ☆集中

**授業コード:** BK20500001

**担当者:** 稲垣　恭子　　**単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** －　　**一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 現代社会では、多様な価値や生きかたが併存しており、既存のライフコースにとらわれず、自らのヴィジョンや生きかたを探究することが求められるようになっています。新しい価値創造社会を実現していく上で、既成の価値や成功感にとらわれずそれぞれが幸福感を感じられる文化の存在が重要な意味をもっています。こうした視点から本授業では、人間の一生を支える教育文化について、教育社会学、歴史社会学の視点から探究していきます。子どもの成長の過程は、家族や友人、教師、メディアなどさまざまな出会い、そうした関係の中で時には失敗や挫折を経験しながらそれらを乗り越えていく過程でもあります。授業では、「教育文化」を柱として、子どもの成長を支える空間・身体・物語などを取り上げ、その意味を検討します。ジェンダーや階層などの視点も取り入れながら、多様でインクルーシブなこれからの教育について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。具体的には以下のようなテーマを取り上げる予定です。

1. 価値創造社会に向けて:現代における教育文化の意味と可能性を考えます。
2. 大人と子どもの関係の変化:子ども文化の特徴と変容、現在の子どもと大人の関係等について考えます。
3.教育空間と教育文化:家庭、学校、教育文化施設の空間の変容とこれからについて考えます。
4. 都市と地方の教育文化:都市部と地方の教育文化の違いや、地方創生とジェンダーなどの課題について考えます。
5. 自己形成の物語とジェンダー:ビルドゥングスロマンという視点から、ドラマや小説等の中で子どもから大人への成長過程がどのように描かれてきたのかについて考えます。
6. 文化としての「師」:生きかたのモデルとしての「師」の存在の意味について考えます。
7. 現代の自己形成と教育文化:現代社会における教育文化の可能性とこれからについて議論します。

**到達目標:** 人間の成長を支えるさまざまな教育文化について、具体的なテーマにそって教育社会学の観点から考えていきながら、現代の教育の課題とこれからの教育を展望することが目標です。これらを通して、教育文化の重要性を理解するとともに、文化社会学、歴史社会学の視点と方法を身につけることも目指しています。

**各回の授業計画:**

1. イントロダクション
授業の初回にあたって、以下のことを行います。
＊各自の研究や関心等についての自己紹介
＊現代社会の教育文化について社会学的視点からとらえる視点と面白さについて
＊授業の概略と進めかたについて
＊評価やレポートについて

2. 教育文化とは
第2回においては、本授業全体のテーマである「教育文化」とは何か、について概説します。
＊価値創造社会と教育文化
＊子どもの成長を支えるもの:身体・空間・物語
＊家庭・学校・メディア
＊教育文化とジェンダー
＊文化の多様性と包摂性(インクルージョン)

3. 子どもから大人への移行をどうとらえるか
第3回においては、子どもへのまなざしの変化と現代における子どもと大人の関係について、社会学的な視点から考えます。
＊子どもは変わったか
＊教育的まなざしの誕生と変容
＊変容する社会と子ども

4. 学校空間と教育文化
第4回では、教育空間としての学校建築と学校文化について考えます。
＊学校の思い出と学校空間
＊近代学校の成立
＊学校建築の特徴と変容
＊教室という空間
＊学校空間の変容

5. 新しい教育空間
第5回では、学校外のさまざまな教育空間を具体的に紹介し、これからの教育空間と教育文化について考えます。
＊子どもをとりまく教育空間:保育所、子供部屋、教室、図書館etc

＊ひとりで／みんなで、遊ぶ／まなぶ 空間づくり
＊ストーリーとストリート

6. 都市と地方の教育文化
第6回では、都市部と地方の教育文化の状況について具体例を取り上げ、その課題について考えます。
＊都市と地方における進学行動の現状について
＊地域文化とジェンダー
＊地方創生と教育文化の課題

7. 教育空間と教育文化
第7回では、第1回～第6回の講義とディスカッションをふまえて、現代の子どもや女性をとりまく教育文化の現状とこれからについて議論します。

8. 現代の通過儀礼と成長物語
第8回においては、成長物語（ビルドゥングスロマン）を取り上げながら、現代における成長の意味を考えます。
＊ビルドゥングスロマンとは
＊ビルドゥングスロマンのストーリー
＊旅立ち・挫折と乗り越え・現実との和解・成長
＊ビルドゥングスロマンの終焉？
＊成長の意味を考え直す

9. 新しい時代の成長物語
第9回においては、朝ドラやアニメなどの作品を用いて、特に現代における女子の成長の意味を考えます。
＊朝ドラにおける成長物語の変容
＊アニメにみる成長物語
＊男子の成長物語・女子の成長物語

10. 女性の生きかたとウェルビーイング
第10回では、第8回～第9回の講義とディスカッションをふまえて、現代の女性のライフコースやキャリアを含めた生きかたについて議論します。
＊戦前の女学生と現代の女子学生
＊キャリアやライフイベントの変化
＊成長からウェルビーイングへ

11. 文化としての「師」
第11回では、伝統文化、学校、メディアなどを具体的に取り上げながら、生きかたのモデルとしての「師」の意味について考えます。
＊伝統芸能・芸術における「師匠」
＊学校の「先生」
＊「師事」と「私淑」
＊メディアと「師」

12. 現代の教育課題
第12回においては、家庭文化、学校空間、成長物語、ジェンダーなど、これまでの議論をふまえて、現代における教育の課題について考えます。
＊伝統文化とモダン文化
＊できることとできないこと：「失敗」の意味について
＊自立しないといけない？：自立と依存のジレンマ
＊教育のみかたを変える

13. 多様性な生きかたを支えるもの
第13回においては、より広い視点から、多様な生きかたを支える教育文化と価値創造社会について考えます。
＊多様性と包摂性
＊DEIBとは
＊多様な文化と多様な生きかた
＊教育文化と価値創造社会

14. 総合討議
第14回においては、これまでの内容を振り返っていくつかのトピックを繋ぎ直しながら、これからの教育と文化の課題について総合的にディスカッションします。
受講者間でのディスカッションを通して、これまで気づかなかった共通の課題と共に、受講者ひとりひとりの課題を明確にしていきたいと思います。

15. まとめと課題
最終回になる第15回においては、各回のまとめと受講者同士のディスカッションを取りまとめ、各自の関心や課題と照らし合わせて
レポートを作成し提出していただきます。

**特記事項：** なし

---

**授業方法：** 基本的には講義形式で行うが、各授業ではできるだけ講義内容について相互にディスカッションしながら進める。
講義は、すべてオンライン（同時配信）で行う。
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義

8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

授業時に指示する。
合計で2700分の予習・復習が必要である。

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 30 | **%** | **確認テスト：** | 30 | **%** | **レポート：** | 40 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：**

1. 授業へのとりくみ（出席、授業態度、関心・意欲、発表など）
・授業内容の各トピックスに対して、基本的な態度・関心（教育文化論・教育社会学に求められる視点を養う姿勢および学ぶ関心・意欲など）をもって授業への参加がなされている（60～69点）。
・授業内容の各トピックスに対して、基本的な知識を習得すると同時に、内容へのコメントや質問をするなど、積極的な取り組みが行われている（80～100点）。

2. 確認テスト
・各トピックスで学んだことに関して、学習内容をある程度理解している（60～69点）。
・各トピックスで学んだことに関して、学習内容を理解すると同時に、社会学的な視点をもって説明することができる（80～100点）。

3. レポート
・授業で学んだ内容について、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされている（60～69点）。
・授業で学んだ内容について、レポート課題に対する論述（自身の考えや表現）がなされつつ、社会学的な視点から読み手に伝わるように作成されている（80～100点）。

---

**課題へのフィードバック：**

確認テストについては授業中にコメントを行う。
レポートについては、希望者に対して個別のコメントによるフィードバックを行う。

---

**教科書：** 稲垣恭子『女学校と女学生』中公新書 2007年
稲垣恭子編『教育文化の社会学』放送大学教育振興会 2017年

**参考書：** 授業中に紹介します。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

特に事前の準備は必要ありませんが、テキストや関連文献を読んでおくことが望ましいです。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 臨床教育学特論

**クラス:**

**授業コード:** BK20600001

**担当者:** 廣岡 義之 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** 臨床教育学とは何かを理解し、具体的な教育実践での支援の在り方を探求する。

**到達目標:**
1. 臨床教育学とは何か、その理論を理解する。
2. 教育問題や課題を的確に把捉してその解決策の端緒を探る。

**各回の授業計画:**

1. 臨床教育学的徳論
2.臨床教育学的生の哲学論
3. 臨床教育学的庇護性の問題
4. 臨床教育学的宗教性のアプローチ
5.臨床教育学的「信頼」の問題
6. ボルノーの庇護性と安全な居場所を紐解き討論する(1)ある不登校児の事例を中心に
7. 臨床教育学的な「希望」研究
8.臨床教育学が考える「死」の問題
9. 臨床教育学的家庭教育論
10.臨床教育学的平和教育論
11..臨床教育学的高齢者教育論
12. 臨床教育学的環境教育論
13. フレーベルの臨床教育学的遊戯論 理論編
14.フレーベルの臨床教育学的遊戯論 実践編
15. これまでの振り返り

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** すべての授業を対面授業で行う
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義
5. 講義
6. 講義
7. 講義
8. 講義
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義
13. 講義
14. 講義
15. 講義

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

予習 15回 90分
復習 15回 90分
合計2700分

1.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
2.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
3.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
4.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
5.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
6.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
7.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
8.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
9.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
10.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
11.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
12.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
13.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
14.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)
15.(予習)(復習)当該テキストを通読する。(180分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 **%** | **確認テスト:** | − **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:**
1. 授業参加態度
①授業内容の「メモをとる」等ができる(60-69)。これらに加えて(90-100)は受講態度がきわめて積極的なことが条件。
2. レポート
①臨床教育学の基礎的な概念を説明できる。(60-69) これらに加えて臨床教育学の専門的な概念を説明できる。(90-100)
・上記項目を総合的に評価する。

**課題へのフィードバック:**
毎回予習復習を習慣化しましょう。

**教科書:** 適宜、指示をする

**参考書:** なし

**授業・準備学習のアドバイス:**
毎回予習復習を習慣化しましょう。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 幼児教育学特論

**クラス:**

**授業コード:** BK20700001

**担当者:** 戸江 茂博 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 「子供」(子ども、こども)について、多角的な側面から探究していきたい。子供は大人になるための過渡的存在なのか、自足的な存在なのか、大人との関係において子供はどのような存在なのか、生命として子供はどのような存在なのか、歴史の中で子供はどのように捉えられ、どのように生きてきたのか、社会の中ではどのような存在なのか、遊びの中ではどのような生き方をしているのか、さらに文学の中では子供はどのように描かれてきたのか等について思いを巡らしながら、子供について総合的に考えていきたい。

**到達目標:**
1. 子供の人間学という視座について理解する。
2. 子供という存在について、様々な視点から学ぶ。
3. 子供観について理論的に知る。
4. 社会の中の子供、遊びの中の子供、文学の中の子供等について学ぶ。

**各回の授業計画:**

1. 授業オリエンテーション(子供について総合的に学ぶことへの誘い\invitation)
2. 子供とは何かⅠ(生物学の視点から)
3. 子供とは何かⅡ(人間学の視点から)
4. 子供とは何かⅢ(子供と大人)
5. 子供とは何かⅣ(子供と大人、プレゼンテーション1)
6. 歴史の中の子供Ⅰ(近代における子供の誕生、ルソーにおける子どもの発見)
7. 歴史の中の子供Ⅱ(子供観の変遷①)
8. 歴史の中の子供Ⅲ(子供観の変遷②)
9. 社会の中の子供Ⅰ(情報化社会、消費社会の中の子供)
10. 社会の中の子供Ⅱ(少子社会の中の子供)
11. プレゼンテーション2
12. 遊びの中の子供Ⅰ(子供はホモ・ルーデンス)
13. 遊びの中の子供Ⅱ(遊びのための教育と教育のための遊び)
14. 文学の中の子供Ⅰ(日本の小説や児童文学から)
15. 文学の中の子供Ⅱ(海外の小説や児童文学から)

**特記事項:** なし

**授業方法:** ○対面授業とする。
○講義を中心とするが、授業展開の状況に応じて、学びを深めるためにプレゼンテーションの機会も設ける。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

○1～4、6～10、12～15に関しては、学習した内容の復習及び学習すべき内容の予習を行う。(各回、160分)
○5に関しては、学習内容の復習に加えてプレゼンテーションの準備を含む。(350分)
○11に関しては、プレゼンテーションの準備を含む。(270分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** 可(60～69)
○学修:基本的な学びができている。
○レポート:学修のまとめが反映されている。
○プレゼンテーション:整理された発表内容である。
○研究的姿勢:幼児教育について問題意識がある。

優（80～100）
〇学修：包括的な学びと固有の学びができている。
〇レポート：学修のまとめが反映され、自分の意見と考察が述べられている。
〇プレゼンテーション：発表内容が優れている。
〇研究的姿勢：幼児教育について深い問題意識を持ちながら取り組めている。

**課題へのフィードバック：**

〇試験50％、レポート50％で評価を行う。
〇レポート作成等については、学びの確認を行う。

**教科書：** なし

**参考書：** 授業中に適宜配布又は指示する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

〇いろいろな機会に、子供を発見し、観察する（表情、動きなど）ようにしましょう。
〇子供について、様々な視点から考えたり、探究したりしましょう。
〇子供の面白さ、素晴らしさ、ユニークな点等、子供を見る視点を深めてください。
〇教育と関連する「子供像」や「子供観」などについても考えましょう。
〇歴史の中の子供の姿（古代の子供は、江戸時代の子供は、清（中国）の時代の子供は）に思いをはせましょう。
〇社会の中で、家族の中で、また学校社会の中で子供はどのように生きているでしょうか、息苦しさ（生き苦しさ）を感じている子供はいないでしょうか。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 幼児教育方法学特論A(基礎)

**クラス:**

**授業コード:** BK20800001

**担当者:** 猪田 裕子 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 教育方法学は、教育方法の理論的探究である。したがって、幼児教育方法学は、幼児教育(保育)の方法についての理論的な探究といえる。方法はたんにメソッドの意味にとどまらず、実践論の意味合いをもつ。本講義では、子供の生活をより豊かにする教育、子供の遊びをより充実させる教育、子供が環境とどうかかわるか等について、教育方法の視座から追究していきたい。

**到達目標:**
1. 方法論や方法学の視点から幼児教育を理解する。
2. 幼児教育の様々な方法論(生活の教育、遊びの教育、環境の教育)について知る。
3. 幼児教育の方法上、実践上の問題や課題について理解を深める。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション:生成する遊びとは何か(理論枠組みと研究視点)
2. 規範と快の二重性:遊びは自由か形成か(プラトン/アリストテレス)
3. 感覚と自然経験:遊びを"学び"に接続する方法(コメニウス)
4. 内発性と介入:自由な遊びをどう支えるか(ルソー)
5. 関係性と情緒:生活世界の中で育つ遊び(ペスタロッチ)
6. 美と表現:遊びが統合する感性と理性(シラー)
7. 教具と構成:遊びを組織化するとは何か(フレーベル①)
8. 制度とカリキュラム:遊び中心教育の成立と課題(フレーベル②)
9. 経験と探究:遊びを思考のプロセスとして捉える(デューイ①)
10. 協同と問題解決:遊びと学習の連続性(デューイ②)
11. 環境構成と自立:遊び=仕事という再定義(モンテッソーリ)
12. 文化と秩序:遊びが社会をつくる(ホイジンガー)
13. 類型と逸脱:遊びの構造と社会的機能(カイヨワ)
14. 発達と象徴:遊びはどのように変化するか(ピアジェ①)
15. 論理と総括:遊びから学びを再設計する(ピアジェ②+発表)

**特記事項:** なし

**授業方法:**
・講義を中心とするが、意見交換、プレゼンテーションの機会も設けて行う。
・対面授業とする。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

①については、学習した内容の復習(120分)
②～⑬については(第2回～第13回)学習すべき内容の予習・学習した内容の復習(各180分)
⑭については、ディスカッションした内容の復習(120分)
⑮については、プレゼンテーション案の検討および作成(300分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:**
可(60～69)
○学修:基本的な学びができている。
○レポート及びプレゼンテーション:学修のまとめが記述されている。
優(80～100)
○学修:包括的な学びと固有の学びができている。

〇レポート及びプレゼンテーション：学修のまとめが丁寧に記述されている。自分の意見と考察が述べられている。

**課題へのフィードバック：**

〇レポートについては、50%の評価とする。
〇レポート作成等については、学びの確認を行う。

**教科書：** なし

**参考書：** 授業中に適宜配布又は指示する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

本講義は講義・討議・グループワークを組み合わせて進める。毎回、配布資料（要約）を精読し、重要概念・論点を自分の言葉で整理してから参加すること。
討議では「賛否」ではなく、根拠（理論・資料・保育場面の具体例）に基づいて発言すること。
遊びの事例は身近な保育実践（自由遊び・ルール遊び・環境構成・生活場面）から選び、理論と往復しながら考察する姿勢を重視する。
レポート作成に向け、各回の学びを短いメモとして蓄積し、最終的に一貫した問題設定と論証にまとめること。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 幼児教育方法学特論B(レッジョ・エミリア教育)

**クラス:**

**授業コード:** BK20850001

**担当者:** 森 眞理 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:幼稚園教諭(日米)、幼稚園園長(日)補習校教諭(米)

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 「教育はすべての人、すべての子どもの権利であり、同様にコミュニティの責任である」を教育の理念として位置づけ、「子どもは100の言葉を持っている」子ども観により、教育実践を展開するイタリアのレッジョ・エミリア市。 同市の乳幼児教育について、その歴史・思想・文化・教育実践について理解を深めると同時に、受講生が社会・世界に貢献する一員として、子どもの権利を保障する教育・生活のあり方について発信する力を育む。

**到達目標:** ・レッジョ・エミリアの教育思想哲学・実践の理解を深めることのみならず、受講生の子ども観、乳幼児教育保育観、世界観の再考と展望に繋げる。
・子どもが市民として、社会の真ん中にある生活のあり方について、考え発信できる力を身につける。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. レッジョ・エミリア 市の概要
3. 子ども観:子どもたちの100の言葉
4. ローリス・マラグッツィの生涯と思想・実践
5. 乳児保育所
6. 幼児学校
7. アトリエとアトリエリスタ
8. REMIDA(レミダ)の働き
9. 受講生の個人プロジェクトについて
10. プロジェクト・アプローチ ① 理念
11. プロジェクト・アプローチ ② 実践
12. ドキュメンテーション
13. 諸外国におけるレッジョ・アプローチの取り組み
14. 受講生個人プロジェクトのプレゼンテーション
15. 振り返りと今後の展望

**特記事項:** なし

**授業方法:** 毎回の授業は、以下を総合的に展開する。
①〜⑮ 講義(対面)
・文献輪読とグループディスカッション
・個人プレゼンテーション

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

＊時間
予習:2時間
復習:2時間
を課して、自己研鑽に励むことが求められる。

＊内容
予習:
・指定の文献について読み、まとめる。
・次回の授業で話し合いたいこと・取り上げたい問いや仮説を立てて、授業に参加する。

復習
・授業の内容をまとめる
・疑問を抱いたことや、授業からさらなる発展を探究して、文献等にあたる。

| 評価方法： | 授業へのとりくみ： | 60 % | 確認テスト： | － % | レポート： | 40 % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | その他1： | | | % | | |
| | その他2： | | | % | | |

**評価基準：**

＊最低限の到達度（60－69点）
・授業を理解し、課題に取り組み提出する。
・当事者意識を持って、授業に参加する。

＊望ましい到達度（80－100点）
・問題意識をもち、問いを立てる
・授業内容から発展的に探究し、受講生に還元する。
・授業内のみならず、理解したことや問題意識を地域・社会・世界へ発信する実践力を携える。

**課題へのフィードバック：**

・毎回の授業、並びに個別に時間を設定してフィードバックを行う。

**教科書：**

・「発達 156号：特集 なぜ、いま レッジョ・エミリア なのか」（ミネルヴァ書房）2018年、ISBN 978-4-623-08458-6（1,500円＋税）
・「レッジョ・エミリア市自治体立乳児保育所と幼児学校の事業憲章～大切にしていること～」Reggio Children, JIREA（1,600円税込）

**参考書：**

・「レッジョ・エミリア市自治体の幼児学校と乳児保育所の指針」Reggio Children, JIREA（1,000円＋税）
・ヴェア・ヴェッキ著、森眞理・刑部育子（監訳）『レッジョ・エミリアのアートと創造性：保育におけるアトリエの役割と可能性を探る』北大路書房, 2025年, ISBN 978-4-762-83289-5.
・その他、授業にて説明、紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

・知りたい、深めたいとの心持ちで授業に参加していただきたい。
・幼児教育保育をよりよくする当事者意識を持って、授業に参加されたい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 英書講読(教育学)

**クラス:**

**授業コード:** BK20900001

**担当者:** 隈元 泰弘 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 教育学に関する原書(英文テキスト)の講読を通して、英文の内容を正確に読み取り理解するとともに、教育学の専門的な知識と教養および論文作成のための基礎を身につけることを課題とする。

**到達目標:** 英文を正確に読み取って理解する能力とともに、テキストの解読を通して教育学に関する専門的な知識と思考力、判断力と表現力を身につけることができるようにする。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. テキストの執筆者の教育学ならびにテキストの内容の紹介
3. テキスト講読の方法の指導
4. テキストの講読1
5. テキストの講読2
6. テキストの講読3
7. テキストの講読4
8. テキストの講読5
9. テキストの講読6
10. テキストの講読7
11. テキストに関する研究動向と文献の紹介
12. テキストに関する研究文献の講読1
13. テキストに関する研究文献の講読2
14. テキストに関する研究文献の講読3
15. まとめと評価

**特記事項:** なし

**授業方法:** 授業は、対面で行う。
講読形式を基本とし、演習形式の長所を取り入れつつ以下のような様々な方法を用いる。
・教員との意見交換
・受講生相互の意見交換・討議
・グループワーク

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

・予習・復習の時間
各回の授業につき2時間の予習と2時間の復習を必要とする。
・予習・復習の内容
予習においては、テキストを精読し、その内容を理解すること。(2時間)
復習においては、授業内容を綿密に見直し、参考資料・参考文献を熟読して授業内容の理解を深化させる。質問がないかどうか検討し、理解を確認する。テキストを真に理解するとは、その内容を第3者にわかるように説明できるようなることであるということを念頭に置き、自分の読みと理解をこのような水準にまで高めるよう努めること。(2時間)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 50 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** ・最低限の到達度(60〜69点)
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において基本的なレベルで達成できている。

すなわち：
英文を正確に読み取って理解する能力とともに、テキストの解読を通して教育学に関する専門的な知識と思考力、判断力と表現力を必用不可欠な水準において身につけることができている。
・望ましい到達度（80～100点）
上記の「到達目標」を、その学術性・実践性において客観的な説得力を持つレベルで達成できている。
すなわち：
英文を正確に読み取って理解する能力とともに、テキストの解読を通して教育学に関する専門的な知識と思考力、判断力と表現力を、研究における英文献の活用を広く可能とする水準において身につけることができている。

---

**課題へのフィードバック：**

課題への解答に対しては、授業のできるだけ早い機会にその秀逸な論点、問題となる論点、これから解決すべき課題といった観点から総合的かつ具体的に講評し、爾後の学修に生産的に還元され得るよう配慮する。

---

**教科書：** Lawrence Kohlberg, Justice as Reversibility
テキストはコピーして配布する。

**参考書：** 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

文章の意味を考えながら、一文一文丁寧に読むことが重要である。
部分的にはわからなくても、段落全体、当該章節の全体を読むとわかってくることもある。難しいと感じたら、もう少し先まで読んでみる、もう一度前の部分を読み直してみる等、とにかく、根気よく取り組むことが何よりも大切である。
辞書は中辞典以上のものが望ましい。当該の単語が原文ではどのような意味で使われているのかを、例文を参考にしつつじっくりと考えて「辞書を読む」という勉強ができるようになるとよい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** スポーツ教育学特論A

**クラス:**

**授業コード:** BK21050001

**担当者:** 三木 四郎 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** スポーツは人間の文化の一つであり、人間の「身体」に依拠した「文化」と捉えることができる。スポーツの概念を「遊びの要素をもつ身体活動」と定義することでスポーツの本質的価値とその身体活動の意義について考える。本講義では生涯にわたってスポーツの楽しさや喜びを味わうために求められる身体活動（スポーツ運動）に求められる運動習得の動感発生について焦点を当て当て、発生運動学の運動理論に基づいて人間の運動を理解する。また，スポーツの技能習得やルールに関する諸問題を明らかにする。

**到達目標:**
1. 学校体育におけるスポーツ教育の考え方を理解できる。
2. 遊びとスポーツの関係を理解する。
3. 人間の運動について理解する。
4. スポーツでの動きかたを身に付けるこの問題を理解する。
5. 発生論的運動学の運動指導の理論が理解できる。
6. 幼児、児童の運動習得の様相を理解できる。
7. スポーツの楽しみ方を理解できる。

**各回の授業計画:**

1. 学校体育におけるポーツ教育の考え方。
・戦前の心身二元論的な身体活動の考え方
・スポーツによる教育
・スポーツの楽しさを味わうことを目標する体育学習

2. 遊びとスポーツ
・スポーツの語源
・遊びの定義
ホイジンガーの遊びの定義
カイヨワの遊びの定義
・スポーツの定義

3. 人間の運動
・日常的運動
・表現運動
・労働運動
・スポーツ運動
楽しみのスポーツ
健康と体力のスポーツ
競技運動のスポーツ
身体教育のスポーツ

4. スポーツに求められる新しい運動理論
・幼児期における運動遊びの必要性（受動志向性）
・スポーツにおける身体性の学習
・「身体である」と「身体をもつこと」の関係
・スポーツに求められる動きかたを身に付ける意味

5. スポーツ指導について考える
・スポーツの楽しさと「できる」ことの関係
・「できる」ということをどのように考えるか
・人間が「動きかた」を覚える意味
・科学的理論に基ずくスポーツ指導
・新しい発生運動学の運動理論による指導

6. 発生運動学に基づく動感指導とスポーツの楽しさ
・動きの構造（動きのかたち）について考える
・動きの局面構造を理解する
・動きのリズムを理解する
・コツ・カンについて考える
・コツと動きのアンロゴン

7. 幼児と児童の運動発達とスポーツについて考える

人間の赤ちゃんの運動
幼児期に形成される運動感覚
・運動習得の意欲とスポーツについて考える

8. スポーツでの動きかたを習得する形成位相について
・原志向位相
・探索位相
・偶発位相
・形態化位相
・自在位相

9. スポーツの動きかたを覚えるための動感能力について（1）
・始原（今ここを感じる）身体知
・体感（ここを感じる）身体知
・時間化（今を感じる）身体知

10. スポーツの動きかたを覚えるための動感能力について（2）
・形態化（形づくり）の身体知
コツの身体知
カンの身体知
・洗練化の身体知

11. スポーツの動きかたを教えるための動感指導能力について（1）
・素材つくりの身体知
観察身体知
交信身体知
代行身体知

12. スポーツの動きかたを教えるための動感指導能力について（2）
・処方できる身体知
道しるべを立てる
動く感じを示せる

13. スポーツの技能指導の実践的事例の検証

14. テーマ発表とまとめ

15. テーマ発表とまとめ

**特記事項：** なし

---

**授業方法：** 全ての授業を対面で行う。講義と課題に対する発表とディスカッション

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

1. 事前に提示する資料および参考書を予習する（毎回45分）
2. 提示された課題を講義内容に基づいて具体的例示を挙げながらレポートにまとめて復讐する（毎回45分）
3. 次時の発表原稿を書く（毎回90分）

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 | **%** | **確認テスト：** | 20 | **%** | **レポート：** | 30 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：** （60～69点）講義に問題意識をもって理解できる。
（70～79点）講義内容を理解して具体的な例によって説明することができる。
（80～100点）復習によって講義内容をまとめ、関連文献を調べてレポートを提出する。

---

**課題へのフィードバック：**

発表するレポートをもとに討議を行う。討議を基に修正したレポートを提出。
添削して返却する。

---

**教科書：** 講義資料の配付
三木四郎 新しい体育授業の運動学（明和出版）
三木四郎 器械運動の動感指導と運動学（明和出版）
三木四郎、灘 英世編著 ボール運動の運動感覚指導（明和出版）

**参考書：** 金子明友 スポーツ運動学（明和出版）
金子明友 わざの伝承の道しるべ（明和出版）

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

事前に提示された資料および課題に対して参考書、ネット等で下調べ、理解できないことを質問できるようにしておく。また、発表するレポート

をもとに課題を提案できるようにする。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 総合学習特論

**クラス:** 集中

**授業コード:** BK21100001

**担当者:** 酒井 達哉 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:公立小学校教諭の経験に基づき、実践的な研究の指導を行う。

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 「総合的な学習の時間」の教育的意義や現状と課題をとらえるとともに、「総合的な学習の時間」における地域教材を生かした年間指導計画の作成について理解を深め、それらに関する研究についても探求する。

**到達目標:** 学習指導要領において「探究な学習」の充実として位置づけられた「総合的な学習の時間」の学習理論と具体的な授業実践について理解を深める。総合的な学習の時間について目標、内容、指導計画、評価、学習指導、組織体制等の理論と実際の方法が具体的に実践できる指導能力の獲得を目標とする。

**各回の授業計画:**

1. ガイダンス・総合的な学習の時間の現状と課題について
2. 総合的な学習の時間の創設の趣旨と経緯
3. 総合的な学習の時間の目標の構成と趣旨
4. 指導計画の作成にあたっての配慮事項と指蒋計画の要素
5. 内容と内容の取り扱いについての配慮事項
6. 学校における実践事例の検討① (小学校中学年)
7. 学校における実践事例の検討② (小学校高学年)
8. 評価の基本的な考え方と評価方法
9. 学習指導の基本的な考え方と学習指導のポイント
10. PBLの進め方と主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動の進め方
11. 総合的な学習の時間における探究的な学びの過程① (課題設定、情報の収集)
12. 総合的な学習の時間における探究的な学びの過程② (整理・分析、まとめ・表現)
13. 単元指導計画の作成
14.作成した 単元指導計画の発表・協議
15. 総括

**特記事項:** なし

---

**授業方法:**

1. 講義、グループワーク
2. 講義、パソコンを使用した授業
3. 講義、パソコンを使用した授業
4. 講義、グループワーク
5. 講義、パソコンを使用した授業
6. 講義、DVD視聴
7. 講義、DVD視聴
8. 講義、パソコンを使用した授業
9. 講義、パソコンを使用した授業
10. 講義、グループワーク
11. 講義、DVD視聴
12. 講義、DVD視聴
13. 講義、パソコン.を使用した授業
14. 講義、グループワーク
15. 講義、グループワーク

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 復習:講義内容を復習し、総合的な学習の時間の現状と課題についてまとめる。(180分)
2. 復習:講義内容を復習し、総合的な学習の時間の創設の趣旨と経緯についてまとめる。(180分)
3. 復習:総合的な学習の時間の目標の構成と趣旨について調べ、まとめる。(180分)

4. 復習：指導計画の作成にあたっての配慮事項と指導計画の要素について調べ、まとめる。(180分)
5. 復習：内容と内容の取り扱いについての配慮事項について調べ、まとめる。(180分)
6. 予習：学校における実践事例の検討① (小学校中学年)について調べ、まとめる。(180分)
7. 予習：学校における実践事例の検討② (小学校高学年)について調べ、まとめる。(180分)
8. 復習：評価の基本的な考え方と評価方法について調べ、まとめる。(180分)
9. 復習：学習指導の基本的な考え方と学習指導のポイントについて調べ、まとめる。(180分)
10. 復習：PBLの進め方と主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動の進め方 について調べ、まとめる。(180分)
11. 復習： 総合的な学習の時間における探究的な学びの過程① (課題設定、情報の収集)について調べ、まとめる。(180分)
12. 復習：総合的な学習の時間における探究的な学びの過程② (整理・分析、まとめ・表現)について調べ、まとめる。(180分)
13. 予習：単元指導計画について調べ、まとめる。(180分)
14. 予習：単元指導計画について調べ、まとめる。(180分)
15. 復習：講義内容を復習し、総合的な学習の時間についてまとめる。(180分)

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 20 **%** | **確認テスト：** | 10 **%** | **レポート：** | 50 **%** |
| **その他1：** | 発表 | | 20 **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

**評価基準：**
60～69点：学習指導要領などにおける「総合的な学習の時間」を理解できている。
70～79点：学習指導要領などにおける「総合的な学習の時間」を理解し、効果的な指導を行えるように論ずることができる。
80～100点：学習指導要領などにおける「総合的な学習の時間」を深く理解し、効果的な指導を行えるように論じ、効果的な実践・研究の方法が理解できている。

**課題へのフィードバック：**
・質問については、授業時に全体に向けて回答し説明する。必要に応じて、個別に説明する。

**教科書：** 村川雅弘・酒井達哉 他4名『総合的な学習の時間の指導法』日本文教出版、2018年

**参考書：** 随時紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス：**
提示された課題に関して、予習・復習を行う。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** ホリスティック教育特論

**クラス:** ☆

**授業コード:** BK21200001

**担当者:** 中川 吉晴 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 本講義では、ホリスティック教育の発展、理論、方法、実践例をとりあげ、ホリスティック教育の全体像を理解できるようにする。

**到達目標:**
1. ホリスティック教育に関する基礎的な知識を得ることができる。
2. ホリスティックな思考様式を習得することができる。
3. ホリスティック教育の基礎的な方法を習得することができる。

**各回の授業計画:**

1. ホリスティック教育の成立と発展、隣接分野との関係
『ホリスティック臨床教育学』1章、『ホリスティック教育講義』1章
2. ホリスティック教育の考え方、ジョン・ミラーの理論
『ホリスティック教育講義』第2章
3. 教育におけるスピリチュアリティ、教師の自己成長
『ホリスティック臨床教育学』第2章、第9章
4. 魂のケア、ケアリング教育
『ホリスティック臨床教育学』第3章、第4章
5. ホリスティック教育の実例 、シュタイナー学校
『ホリスティック教育講義』第5章
6. ホリスティック教育の実例 、タイ、ルンアルン校
『ホリスティック教育講義』第3章
7. ホリスティック教育の実例、ブータンのGNH教育
8. ホリスティック教育の実例、クリシュナムルティの学校
『ホリスティック臨床教育学』第2章、『ホリスティック教育講義』第5章
9. ホリスティック教育の実例、タゴールの学校、ガンディの教育論
10. ホリスティック教育の実例、オーロビンドの学校、サティシュ・クマールのシューマッハーカレッジ
『ホリスティック教育講義』第1章
11. ホリスティック教育の方法、観想教育、マインドフルネス
『ホリスティック臨床教育学』第7章、『ホリスティック教育講義』第5章
12. ホリスティック教育の方法、身体技法、ソマティック教育
『ホリスティック臨床教育学』第6章、『ホリスティック教育講義』第4章、第6章
13. ホリスティック教育の方法、感情教育、SEL
『ホリスティック臨床教育学』第8章
14. ホリスティック教育の方法、サイコシンセシス実習サブパーソナリティ
『ホリスティック教育講義』第6章
15. ホリスティック教育の方法、サイコシンセシス実習セルフ、講義のまとめ
『ホリスティック教育講義』第7章

**特記事項:** テキストをふまえて質疑の時間をとる。内容について講義をおこなう。実習の時間をとる。映像資料も使用する。

**授業方法:** 1～15 オンライン(同時配信) 講義、ディスカッション、アクティビティ

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

予習 テキストを事前に読んで質問を考えておくこと(120分×15＝1800 )
復習と課題 授業内容を復習しコメントを残すこと(60分×15＝900)

**評価方法:** **授業へのとりくみ:** 80 % **確認テスト:** － % **レポート:** 20 %
**その他1:** %

**その他2：** **%**

**評価基準：** 最低限の到達度（60～69点）
授業へのとりくみ　テキストを読んできているが、質問や議論があいまい。
レポート　テキストと授業で学んだことの概要を理解している。

標準的な到達度（70～79点）
授業へのとりくみ　テキストを読んで質問を準備し、議論に参加する。
レポート　テキストと授業で学んだことを整理して理解している。

望ましい到達度（80～100点）
授業へのとりくみ　テキストを詳しく読んで、的確な質問を準備し、積極的に議論に参加する。
レポート　テキストと授業で学んだことに関心をもち、自分でも調べて十分に理解している。

**課題へのフィードバック：**

質問について随時、Teams上で回答する。レポートに対して簡潔なコメントをする。

**教科書：** 中川吉晴『ホリスティック臨床教育学』せせらぎ出版
中川吉晴『ホリスティック教育講義』出版館ブッククラブ
各自で事前に用意しておくこと

**参考書：** 授業時に随時指示する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

テキストを使用するので、事前に読んで質問を考えてくること。授業内では簡単な実習も取り入れるので積極的に参加すること。授業への出席と参加度を評価において重視する。テキストや授業で学んだことを最後にレポートにまとめ最終回に提出すること。なお受講者の関心に応じて授業内容を変更することがある。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 日本語学特論

**クラス:**

**授業コード:** BK21250001

**担当者:** 近藤 要司 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 「とりたて助詞」を解説する。「とりたて助詞」という名称は「文のある要素をきわだたせ，同類の要素との関係を背景にして，特別な意味を加える」働きをする助詞である。しかし、その文法的な特徴は助詞ごとにまちまちで、相互関係がつかみにくい。本講義では、「ダケ、シカ、バカリ、コソ、モ、デモ、サエ、マデ、ナンカ、ハ」について、その「とりたて助詞」としての働きをわかりやすく説明する一方で、各助詞の相互関係についても考察する。

**到達目標:**
1. 日本語の文法の全体像を理解すること。
2. 日本語の助詞のさまざまな特質について理解すること。
3. とりたて助詞それぞれの意味用法の特徴とともにその相互関係についても理解する。

**各回の授業計画:**

1. 日本語文法の基本1 文法の特徴
2. 日本語文法の基本2 品詞の概観 体言と用言
3. 日本語文法の基本3 品詞の概観 副用語 付属語1助動詞
4. 日本語文法の基本4 付属語2 助詞 格助詞・終助詞・接続助詞
5. とりたて助詞概観1
6. 限定の取り立て助詞1 ダケ
7. 限定のとりたて助詞2 シカ・バカリ
8. 限定のとりたて助詞3 コソ
9. 累加のとりたて助詞 モ1（累加）
10. 累加のとりたて助詞 モ2（極限・ぼかし）
11. 極限のとりたて助詞 サエ・デモ
12. 極端のとりたて助詞 ハ・ナラ
13. 評価のとりたて助詞 ナンカ・ナンテ
14. 他言語のとりたて表現
15. とりたて助詞相互の関係

**特記事項:** なし

**授業方法:** 対面授業。
スライドと事前配付資料を中心に授業をすすめる。スライド・配付資料には授業前に目をとおしておくこと。
授業ごとにまとめの小課題を出題するので、かならず解答を提出すること。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

この講義については、2700分の予習復習が必要です。
文法の授業は用語などが難しいので、かならず復習すること。
とくにあげられた用例について、自分で別の用例を考えたり、作ったりしてみること。
必要に応じ、文献を指示するので指示された文献については読んでおくこと。

**評価方法:**

| 授業へのとりくみ: | − % | 確認テスト: | 42 % | レポート: | 58 % |
|---|---|---|---|---|---|
| その他1: | | | % | | |
| その他2: | | | % | | |

**評価基準:** 授業への取り組み：中に行う用例の採集と分類の小レポートを含む。
レポート：最終回に課題を提示し、それについてレポートを提出する。

**課題へのフィードバック:**

レポートにはコメントをつけて返却します。

---

**教科書:** 使用しない。毎回、資料を配付する。

**参考書:** 坂梨隆三 (1984)「助詞の分類」鈴木一彦・林巨樹編『研究資料日本文法 第5巻 助辞編(一)助詞』明治書院
澤田美恵子(2007)『現代日本語における「とりたて助詞」の研究』くろしお出版 2007年12月3日現代日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法 5 』くろしお出版 2009年6月
沼田善子(2009)『現代日本語とりたて詞の研究 (ひつじ研究叢書 言語編)(ひつじ研究叢書 言語編 第 68巻)』ひつじ書房
野田尚史編(2019)『日本語と世界の言語のとりたて表現』くろしお出版
宮地朝子(2019)「副助詞研究の軌跡と課題」『名古屋大学人文学研究論集』

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

『日本語文法大辞典』(明治書院)、『日本語文型辞典』(くろしお出版)などを調べて、授業で扱う助詞の意味用法について、予習しておいてください。特に留学生は十分に予習をしておいてください。
授業中には、文芸文あるいは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』などのコーパスを配布して、副助詞の実際の用例を採集調査しますが、授業時間中に調査しきれなかった分については、次週までに調べてレポートするようにしてください。
学部の春学期開講科目「日本語文法(現代)」を受講しておくことをすすめます。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 日本語教育特論

**クラス:**

**授業コード:** BK21300001

**担当者:** 齋藤 隆彦 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 日本語教育のさまざま実践と研究に学び、「日本語教育とは誰に対し何をすることか」について改めて問い直し、「日本語教育」の授業づくりを充実させる力を形成する。

**到達目標:** ・関連文献の講読や教材づくり・自己表現作品づくりなどの課題に取り組むことができ、さらにそれらの課題を学び手が共有することをとおして、「言語習得」「言語教育」について深く考えることができる。
・日本語教育における多様性を認識し、現状問題と課題について新たな教育観を形成しつつ、教材や授業法の開発・深化することができる。

**各回の授業計画:**

1. 言葉の習得・発達とは（本講義のオリエンテーション含む）
2. 日本語教育は誰に何をどう教育するのか（教育の三要素と日本語教育の諸相）
3. 「確かな知識」の教育を考える「単語・フレーズ」覚える価値ランキング作成（初級編）
4. 「確かな知識」の教育を考える「単語・フレーズ」を使いたい場面の想定（初級編）
5. 「確かな知識」の教育を考える「単語・フレーズ」覚える価値ランキング作成（中・上級者編）
6. 「確かな知識」の教育を考える「単語・フレーズ」を使いたい場面の想定（中・上級者編）
7. 「確かな知識」の教育を考える「単語・フレーズ」を使いたい場面の想定（中・上級者編）
8. 言語を軸に文化にまきこむ「好き」を表現することと言語習得の往還
9. 言語を軸に文化にまきこむ マンガ・アニメ サブカルから日本語を学ぶ（1）
10. 言語を軸に文化にまきこむ マンガ・アニメ サブカルから日本語を学ぶ（2）
11. 具体的な対象のために授業をつくる 教育の三要素をもとに（1）
学習者観・教材観・指導観 学習者の状況をつかむ
12. 具体的な対象のために授業をつくる 教育の三要素をもとに（2）
学習者観・教材観・指導観 教材を探す・つくる
13. 具体的な対象のために授業をつくる 教育の三要素をもとに（3）
学習者観・教材観・指導観 活動と教材を組み合わせ授業プランを整える
14. 日本の言語文化を考える
文脈への高い依存性とどうつきあうか 短歌と日常会話を通して
15. 「私の（得意な・めざす）日本語教育」をまとめる

**特記事項:** なし

**授業方法:** ①～⑮ 講義・演習 （対面）

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

論文講読などで、計2700分の予習が必要である。
1. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
2. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
3. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
4. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
5. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
6. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
7. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
8. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
9. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
10. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
11. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
12. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）
13. 授業課題（発表・購読等）の準備と毎回の授業の復習（各授業ミニレポートの作成等）（180分）

14. 授業課題(発表・購読等)の準備と毎回の授業の復習(各授業ミニレポートの作成等)(180分)
15. 受講内容のまとめとレポート執筆。(180分)
授業内容は、そのときどきのみなさんの学究的関心等で変更の可能性があります。そのときは、授業で伝えます。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 60 **%** | **確認テスト:** | - **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:**
授業への取り組み、課題、発表や模擬授業への評価などを、統合的に評価する。
(80-100)講義内容をよく理解し、積極的に購読・発表に参加し、協働学習を進めることができる。優れた視点から研究テーマを設定し、丁寧に文献調査を進め、先行研究を適格に論理的にまとめ、発表することができる。
(70-79)講義内容を理解し、購読・発表に参加し、協働学習を進めることができる。適格な視点から研究テーマを設定し、文献調査を進め、先行研究をまとめる姿勢に努力がうかがえる。課題を発表をすることができる。
(60-69)協働学習に参加することができる。やや不十分さが残るが、なんとか研究テーマを設定し、文献調査を進め、先行研究をまとめられる。助言を受けながら、課題を発表することができる。

**課題へのフィードバック:**
発表内容・論文講読についてフィードバックを授業内で行う。

**教科書:**
使用しません。
ただし、途中で教科書があったほうが学びが充実すると判断した場合は、使用する可能性があります。そのときは、ご購入ください(その場合は3,000円以内で選定する予定)

**参考書:**
国立国語研究所(編)(2006)『日本語教育の新たな文脈ー学習環境, 接触場面, コミュニケーションの多様性ー』アルク.
細川英雄(2008)『ことばの教育を実践する・探求する 活動型日本語教育の広がり』凡人社.
細川英雄・三代純平(編)(2018)『日本語教育学研究4 実践研究は何をめざすか 日本語教育における実践研究の意味と可能性(新装版)』ココ出版
池田玲子・舘岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門ー創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房.
坂本正他(監修)(2017)『日本語教育への道しるべ1 ことばのまなび手を知る』凡人社
坂本正他(監修)(2017)『日本語教育への道しるべ2 ことばのしくみを知る』凡人社
坂本正他(監修)(2017)『日本語教育への道しるべ3 ことばの教え方を知る』凡人社
坂本正他(監修)(2017)『日本語教育への道しるべ4 ことばのみかたを知る』凡人社
砂川有里子(2024)『日本語コーパスの世界へようこそー気になる言葉の使い方を調べてみよう』大修館書店
宮崎里司(2006)『外国人力士はなぜ日本語がうまいのか あなたに役立つ「ことば習得」のコツ 新装版』明治書院
三宅香帆(2023)『推しの素晴らしさを語りたいのにやばい!しか出てこない』ディスカヴァー・トゥエンティワン
柿内尚文(2021)『バナナの魅力を100文字で伝えてください』かんき出版
その他は授業時に提示します。

**授業・準備学習のアドバイス:**
日本語教育と、日本語教育に影響を与える隣接分野の研究について考え、必要とされる場面、必要とされる方法の理解を深め、よりよい日本語教育の実践の可能性を探りたいと思います。まず、日本語教育の基本的な概念を学び、日本語教育の背景にある第二言語習得研究を学びます。先行研究や先行実践の知見をもとに、日本語教育分野に理論的に、あるいは、実践的にアプローチできる能力を、実際に自分たちで活動をしたり企画を立てたりすることを通して身につけたいと思いますので、予習復習とともに授業内でも積極的に活動して力をつけてください。
自身の言語習得体験も考えるための貴重な材料になります。どのような学習法が効果的だったのか、アプリやAIでの学習法も含めて、日本語教育とつないで考えることで、見え方が広く・深くなり、これからの研究・実践に生きると思います。そういう経験やアイデアも出し合い、「活動型」「協働型」の学びの経験にもつなげましょう。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**
https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 国際教育特論

**クラス:**

**授業コード:** BK21350001

**担当者:** 奥野 アオイ　　**単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** －　　**一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** "真なる教育"として国際的に発展を遂げ、日本においても期待されているオルタナティブな教育について理解を深める。

**到達目標:** ①なぜ国内外でオルタナティブ教育が広まったのか、その歴史を振り返る。
②多様化する社会において、オルタナティブな教育の必要性を明確にする。
③それぞれの教育現場で、オルタナティブな教育をどのように実践可能にするかについて計画・提案する。

**各回の授業計画:**

1. 授業に関するオリエンテーション

私たちの社会と教育現場を可視化してみよう！
国際的にオルタナティブな教育が求められてきた変遷について考える。

2. 第一章「オルタナティブ」の三つの意味合い―日本のオルタナティブ教育の動向
3. 第二章 オルタナティブ教育の法制化をめぐって―教育機会を確保するもう一つの法制度
4. 第三章 シュタイナーのホリスティックな人間観と教育観―独自理念型オルタナティブ学校の範例
5. 第四章 シュタイナー学校の教育現実から―ブーバーの対話哲学で読み解く
6. 第五章 教育のパラドクスから「もうひとつの世界」へ―村井実の「〈善さ〉の教育学」より
7. 第六章 教育的日常のなかに働くスピリチュアリティ―ブーバーの「対話の生涯」に学ぶ―
8. 第七章 別様の他者との「対話」の（不）可能性―井筒俊彦を補助線としたブーバー
9. 第八章 人類史的な問いとしての「ケア」―「教育」概念を外部へ開く新たな地平
10. 結章 〈ホリスティック教育/ケア〉研究のために
プレゼンテーションについての説明
11. 世界のオルタナティブな学校I
12. 世界のオルタナティブな学校II
13. プレゼンテーションI＆ディスカッション
14. プレゼンテーションII＆ディスカッション
15. まとめ：授業の振り返り＆ディスカッション

**特記事項:** なし

**授業方法:** 基本的に対面授業で実施する。
（ 前回の授業のフィードバック、全体の予習のコメント、講義、ディスカッション、復習）

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

2回目の授業以降、前回授業の復習から関連させて、次回授業範囲を熟読して感想をのまとめておくこと（800～1000字）。
予習15回×120分＋復習15回×60分＝2700分

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 75 | **%** | **確認テスト:** | － | **%** | **レポート:** | 25 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** 1. 毎授業を次回の授業に関連させて思考し、文章に表現化
2. ディスカッションでの参加態度・意欲・協働
3. プレゼンテーションと最終レポートで授業の学びを活用できているか

**課題へのフィードバック:**

授業中のコメントから学生各自が次回の授業までにつなげること

---

**教科書:** 吉田敦彦(2022)『教育のオルタナティブ ー〈ホリスティック教育/ケア〉研究のために一』せせらぎ出版

**参考書:** 毎日、新聞を読んで教育に関連する社会の事象を知ること(それらについてメモを残しておくと最終レポートの作成の参考になるため)

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

各自が毎回、授業の予習と復習をファイルにし、学びを深めるオリジナル資料を作成しましょう。
本授業は履修生数によって授業の進行や課題方法が変更することがあります。
第一回のオリエンテーションに必ず出席してから履修を決めましょう。

**科目ナンバリングコード/ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 生涯福祉特論

**クラス:** ★

**授業コード:** BK21400001

**担当者:** 小口 将典 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:障害児・者支援施設においてソーシャルワーカーとして勤務

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 私たちは人生のなかでさまざまな困難さに遭遇する可能性をもっている。それらは、予測できる困難と、災害や事故など偶発的に起こる困難に分けられる。この授業では、暮らしのなかで出会うさまざまな課題を取り上げながら、ソーシャルワークにおける支援を考える。

**到達目標:** (1)人々のライフサイクルと暮らしの課題を理解する。
(2)福祉的課題が現代社会から生み出される構造を理解する。
(3)福祉と密接に関係する地域社会に目を向け、地域の変化や福祉的課題を理解する。

**各回の授業計画:**

1. 社会福祉の基礎(1)社会福祉の概念【オンライン授業(非同期型 )】
2. 社会福祉の基礎(2)社会福祉の理念【対面授業】
3. 社会福祉の現代的課題【対面授業】
4. 子ども家庭福祉(1)子どもの権利、格差、貧困【対面授業】
5. 子ども家庭福祉(2)保護者への支援【対面授業】
6. 障害者福祉(1)障害とは何か【オンライン授業(同時配信)】
7. 障害者福祉(2)「自立」とは何か?【オンライン授業(同時配信)】
8. 高齢者福祉(1)高齢者になるとは 【対面授業】
9. 高齢者福祉(2)在宅における介護問題【オンライン授業(同時配信)】
10. 災害における被災者支援【対面授業】
11. 孤立する人々への福祉的支援 【オンライン授業(同時配信)】
12. 多様性を尊重する社会づくり【対面授業】
13. 「生きづらさ」とは何か?【対面授業】
14. 人や環境の強さにはたらきかけるアプローチ【オンライン授業(非同期型)】
15. 人の暮らしに向き合う専門職の姿勢【対面授業】

**特記事項:** なし

**授業方法:** 第2回～第5回、第8回、第10回、第12回～第13回、第15回:講義(対面)、DVD視聴及びディスカッション含む
第1回、第6回～第7回、第9回、第11回、第14回:Teamsによる講義:オンライン授業(非同期型)

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

各回につき予習75分、復習75分の学修を行うことが望ましい。予習は、参考書や事前に配布した資料等を参照してキーワードを調べる。復習は講義で学んだことをまとめたり自分の考えをまとめたりする。レポート作成(3回)には計450分程度の学修時間を想定している。

| **評価方法:** | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | **授業へのとりくみ:** | 60 **%** | **確認テスト:** | **%** | **レポート:** | 40 **%** | |
| | **その他1:** | | | **%** | | | |
| | **その他2:** | | | **%** | | | |

**評価基準:** 到達目標を達成し、優れた成績をおさめている 80～100点
到達目標をおおむね到達している 70～79点
到達目標をある程度到達している 60～69点

**課題へのフィードバック:**

毎回、時間内にふりかえりシート(小課題)を提出してもらうが、確認して返却するとともに次の回に解説する。
レポート課題については確認後、コメントをつけて返却する。

**教科書:** なし（随時、資料を配布する）

**参考書:** 小口将典編著（2025）「ファミリーソーシャルワーク」ミネルヴァ書房
鈴木孝典、・鈴木裕介（2023）「図解でわかるソーシャルワーク 」中央法規出版

**授業・準備学習のアドバイス:**

授業ではグループワークやディスカッションも行うので学生の積極的な参加を期待しています。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育行政学特論

**クラス:** 集中

**授業コード:** BK21500001

**担当者:** 三羽 光彦　　**単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** －　　**一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** 現代公教育における教育行政の意義と役割について考察し、教育行政の基本的事項を理解するとともに、現代日本の教育と教育行政の諸現象を教育学的に分析し、現在課題となっている教育改革についても考察を深める。

**到達目標:** 学校教育を中心とする教育行政学の基本知識を修得するとともに、近年の教育行政学の研究成果や論争点を理解し、今日の日本の教育と教育行政の諸課題を教育学的に整理・検討することができることを到達目標とする。

**各回の授業計画:**

1. 教育行政の意義とその機能
2. 日本国憲法と教育を受ける権利
3. 教育の機会均等
4. 社会経済的格差と教育行政の課題
5. 教育基本法の意義と論点
6. 教育行政の原理と教育委員会制度
7. 教育課程行政の在り方と学習指導要領（カリキュラムマネジメント）
8. 教科書と教科書行政
9. 教員法制と教員の服務
10. 教員組織と学校経営（学校の危機管理とチーム学校の在り方）
11. 学校制度の原理と課題
12. 幼保一元化と幼児教育の課題
13. 学校・家庭・地域の連携
14. これからの教育改革の課題
15. 本講義のまとめ

**特記事項:** なし

**授業方法:** すべて対面授業。講義半分、討論形式半分で授業を進める。

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

予習については、教科書・プリントなどをあらかじめ読んで、それにともなう諸資料を図書館、インターネット、新聞・雑誌などで調べて、そのノート・ファイルを持って出席してください。毎回全員ノート・ファイル等を見せていただきます。その上でその日の報告者をお願いいたします。報告者については加点致します。復習として前回のまとめの小試験をします。なお、最終的に各自講義に関連して自由題で最終レポートを作成していただきます。合計で2700分の授業外学習が必要です。

**評価方法:**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 20 % | **確認テスト:** | 50 % | **レポート:** | － % |
| **その他1:** | 授業中のレポート | | 30 % | | |
| **その他2:** | | | % | | |

**評価基準:** レポート（100点）によって評価する。授業内容を的確に理解したレポートを最低限の到達度（60～69点）とし、さらにそれを各自発展させたレポートのうち筋道だった考察をしているものを望ましい到達度（80～100点）とする。その間その程度を勘案して70～79点と評価する。

**課題へのフィードバック:**

次回の授業のテーマが毎回の課題です。教科書・プリントなどをあらかじめ読んで、それに関する資料を図書館などで調べて出席してください。それに基づいて授業をします。したがって課題へのフィードバックそのものが授業となります。

**教科書:** 文部省『高等学校学習指導要領』
『教育と教育行政』勁草書房。
宇野重規『民主主義と何か』講談社現代新書。
池上彰『学び続ける力』講談社現代新書。
その他は授業中に指示します。

**参考書:** 教科書は使わず、資料およびプリントで進める。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

次回の授業のテーマが毎回の課題です。教科書・プリントなどをあらかじめ読んで、それに関する資料を図書館などで調べて出席してください。それに基づいて授業をします。したがって課題へのフィードバックそのものが授業となります。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** メディア教育特論

**クラス:**

**授業コード:** BK21600001

**担当者:** 神月 紀輔 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:公立中学校・特別支援学校で教諭として実務経験あり。

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 授業でのICTの利活用やメディアと教育のかかわりについて，情報活用能力の育成・教育心理学とのかかわり・アクティブラーニングとのかかわり・AIなどの先進的な情報科学の利活用などの視点から，今後の教育実践のあり方を考究する。

**到達目標:** 以下の3つの目標をたてるが，学校現場の状況や新しい学習指導要領によって変更することがある
1. 基礎理論 教育心理学の学習理論や情報活用能力の考え方などを理解する
2. 教育メディア活用の実際 学校現場におけるGIGAスクールの実態や授業支援システムを利用した学習設計を行う
3. 今後のメディア教育 AIや先進的なメディアの利用を理論的に組み立てる

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション，イントロダクション
2. 教育とは，メディアとは
3. 教育心理学における学習理論
4. アクティブラーニングに資するメディア教育
5. 各校におけるメディア教育の実際 ロイロノートなど授業支援ソフトの利用
6. クラウドベースのソフトの利用
7. デジタル・シティズンシップの考え方を進めるには
8. 知的財産権と教育
9. プログラミング教育の各校での進め方
10. AI・データサイエンスとメディア教育
11. 教育データの教務的活用と問題点
12. メディアリテラシーとファクトチェック
13. 小学校におけるメディア教育の実際と問題点
14. 中学校・高等学校におけるメディア教育と問題点
15. まとめと自己評価

**特記事項:** 受講生の興味によって内容を変更することがある

---

**授業方法:** 各回のトピックに応じた論文を購読し，毎回その内容の発表を行う
全員が毎回発表を行う

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

予習 各回のトピックに応じた論文を検索・購読し，まとめて発表できるようにする
復習 他者の発表の内容をまとめておく
宿題 毎回次の回のトピックに応じた論文の検索・購読を必要とする
予習・復習・宿題の時間には合計2700分の時間を要する。

---

**評価方法:**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 % | **確認テスト:** | − % | **レポート:** | 50 % |
| **その他1:** | | | % | | |
| **その他2:** | | | % | | |

---

**評価基準:** 最低限度の到達度(60〜69点)
・毎回トピックに合わせたレジュメを提出する
・内容について毎回発表する
・他者の発表内容を理解する

望ましい到達度(80〜100点)

・自分の読んだ論文についてわかりやすく他者に解説できる
・基礎的な内容を完全に理解できている
・他者の発表に関して意見や問いを持ち，ディスカッションができる

---

**課題へのフィードバック:**

毎回，発表内容についてその場でコメントをし指導する。

---

**教科書:** なし

**参考書:** なし

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

自分から学んでいく姿勢をもち，探求心を持ってください。
図書館やその他情報サイトをしっかり使い，正しい情報を手に入れることを心がけてください。
メディア教育に興味を持ち，日本のメディア教育をもっとよくしたいという気持ちを持ってください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育心理学特論

**クラス:**

**授業コード:** BK30100001

**担当者:** 小川内 哲生 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** この講義では、教師の主な仕事、児童生徒指導、教育の今日的問題、教師に関わる問題等について教育心理学が明確にしてきた成果や知見を提供し検討していくことによって多角的に考え理解していくことを目的とする。

**到達目標:** 学校現場の様々な問題に対して、教育心理学の知見を活用することにより教師の立場から対応方法を考えることができる。

**各回の授業計画:**

1. 教育現場における様々な問題
2. 学級づくり
3. 保護者対応
4. 不登校
5. 非行
6. いじめ
7. 教育相談
8. 学級崩壊
9. 学習の動機づけ
10. 主体的学習を支える学習の理論・形態と過程
11. 発達障害
12. 教育評価
13. 課題研究発表とディスカッション1
14. 課題研究発表とディスカッション2
15. まとめと確認

**特記事項:** なし

**授業方法:** 講義、グループワーク、ディスカッション
全ての授業を対面で行う。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 授業内容の復習(180分)
2. 授業内容の復習(180分)
3. 授業内容の復習(180分)
4. 授業内容の復習(180分)
5. 授業内容の復習(180分)
6. 授業内容の復習(180分)
7. 授業内容の復習(180分)
8. 授業内容の復習(180分)
9. 授業内容の復習(180分)
10. 授業内容の復習(180分)
11. プレゼン準備(180分)
12. プレゼン準備(180分)
13. プレゼン準備(180分)
14. 課題のまとめ(180分)
15. まとめと評価(180分)

| 評価方法： | 授業へのとりくみ： | 20 % | 確認テスト： | － % | レポート： | 80 % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | その他1： | | | % | | |
| | その他2： | | | % | | |

**評価基準：** （100～80点）レポートの課題に適切に対処できている。
（79～70点）一部の参考文献にしか目を通していない。
（69～60点）思いつきによるレポート課題への対処である。

**課題へのフィードバック：**

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを活用してフィードバックを行う。

**教科書：** 教科書は使用しないが、随時、参考文献を紹介する。

**参考書：** 必要に応じて紹介する。

**授業・準備学習のアドバイス：**

レポートの内容は、タイトルを明記し、テーマに沿って具体例を挿入すること。
日頃から学校の問題について関心を持ち、積極的に情報収集したり文献検索を行う等してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 学校心理学特論

**クラス:**

**授業コード:** BK30200001

**担当者:** 金山 健一 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:高等学校及び養護学校(現特別支援学校)教諭＜教育相談室長・特別支援教育コーディネーター等＞, 県教育センター教育相談部指導主事
【関連資格】学校心理士SV・公認心理師 等

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 本授業では、心理教育的援助の理論と実践を支える学問である学校心理学の全般について学ぶ。学校心理学の視点から、子どもを取り巻く現状、対応方法、実践例を、日本の研究ばかりでなく海外の研究も視野に入れて学びを深める。これらの理論と実際について, 知的理解とともに体験的理解を基に実践的理解を深める。

**到達目標:**
1. 学校心理学の概念とその意義を理解し、心理学を活用した考え方ができる。
2. 学校における児童生徒への支援の全体像を理解し、具体的な対応ができる。

**各回の授業計画:**

1. 学校心理学で、子どもを幸せにする(なぜ、学校心理学は必要か)
2. 教育の最新事情(日本の子どもの現状)
3. ピアサポート(人と人とをつなぐ)
4. 発達障がい(効果的な対応とは何か)
5. UDL(ユニバーサルデザインと障がい)
6. 協同学習(心理学を用いた勉強方法)
7. 心理テスト①(自己分析と自己理解)
8. ネット問題(いじめ・投稿・自殺・性の問題)
9. 愛着障害(親の愛情のない子どもたち)
10. 虐待 (虐待を受けた子どもの未来)
11. ストレス心理学(いいストレス、悪いストレス)
12. 自己肯定感(自信のない人、不安な人の心理)
13. 心理テスト②(深層心理と夢分析)
14. 事例研究(家族の心理、問題の親)
15. 児童心理学の今後の課題と展望

**特記事項:** なし

**授業方法:** 授業は対面とする。全体を通して, アクティブ・ラーニングを展開する。
1. 講義・グループディスカッション
2. 講義・グループディスカッション
3. 講義・演習
4. 講義・演習
5. 講義・演習
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11. 講義・グループディスカッション
12. 講義・グループディスカッション
13. 講義・演習
14. 講義・演習
15. 全体ディスカッション・総括

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

予習として, 各回の内容に関する事前の情報収集が必要である(毎回1時間)。
復習として,「授業アンケート」(体験の振り返り)及びそれに基づく関連内容の追加情報収集が必要である(毎回1時間)。

また，レポート課題の作成作業が必要である（毎回1時間分）。
なお，予習及び復習課題に関しては，毎回の授業終了時に提示する。

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 40 **%** | **確認テスト：** | 30 **%** | **レポート：** | 30 **%** |
| **その他1：** | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | **%** | | |

**評価基準：** 受講態度（40%），確認テスト「授業アンケート」（30%），レポート（30%）を総合的に評価する。
受講態度は，授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を評価する。
授業アンケート及びレポートは，授業内容に関して適切に理解ができているかについて評価する。

**課題へのフィードバック：**

授業アンケートに関しては，次回の授業の中で感想や質問等を全体でシェアリングする。
レポートに関しては，必要に応じて授業外の場でフィードバックを行う。

**教科書：** 教科書は特に指定しない。必要に応じて，関連資料を配布する。

**参考書：** 石隈利紀（著）「学校心理学」誠信書房 1999年
大野精一・藤原忠雄（編）「学校教育相談の理論と実践」あいり出版 2018年

**授業・準備学習のアドバイス：**

授業中の積極的・能動的・協働的な参加態度を大切にする。
授業アンケートへの取り組みを通して授業内容を整理するとともに，自身の気付きや考えの変容等を再認識することを大切にする。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 発達心理学特論

**クラス:**

**授業コード:** BK30400001

**担当者:** 小山 正 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員(療育の実際や課題について言及しながら学びを深めていきます。)

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 本特論では、主な発達の理論について学び、定型発達や障がいのある子どもの発達過程とその支援についての理解を通して、発達心理学における課題を考究できるようになることを目的とする。
①各時期の発達の様相について理解できるようになることを目的とする。
②また、知的発達症や、自閉スペクトラム症をもつ子どもの発達支援に関して理解できるようになることを目的とする。
③そして、子どもの発達、人間発達について、発達心理学的立場から考察することを目的とする。

**到達目標:**
1.主な発達理論について説明できる。
2.定型発達、非定型発達について説明できる。
3. 象徴機能の発達について説明できる。
4. 子どもの発達過程を解釈できる。
5. 発達支援の視点・方法を考えるうえでの基本的事柄を述べることができる。
6. 発達心理学的立場から人間発達について解釈することができる。

**各回の授業計画:**

1. 発達とは
2. ピアジェ理論の今日的意義
3. 発達における安定性と不安定性
4. 定型発達と非定型発達
5. 発達の段階
6. ダイナミック・システムズ・アプローチ
7. 遊びの発達的意義
8. 人間発達における象徴機能と言語
9. 発達におけるスピードアップ
10. 発達臨床と発達理論
11. 発達における多様性と個人差
12. 障がいをもつ子どもの言語発達支援をめぐって
13. 親になること−現代の親の養育態度と子どもの発達
14. 発達の理論
15. 全体の総括と振り返り

**特記事項:** なし

**授業方法:** (授業方法)対面。テキストにそって(必要に応じて資料も配布します), 講義後, 討論の形式で行う。

1～15回: 講義と討論

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**
毎回の授業に対して、
テキストの予習 (60分)
テキスト、配布資料の復習 (120分)

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 60 | **%** | **確認テスト:** | − | **%** | **レポート:** | 40 **%** |
| **その他1:** | | | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | | | **%** | | |

**評価基準:** 主な発達理論や人の発達段階について説明することができる。発達理論と発達支援の視点・方法を考えるうえでの基本的事柄を述べることができる。(優)

---

**課題へのフィードバック:**

レポート提出後の授業においてコメントをフィードバックします。

---

**教科書:** 小山 正 著『発達の理論: 発達の多様性とその支援に向けて』ナカニシヤ出版

**参考書:** 小山 正著『言語発達』ナカニシヤ出版

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

①テキストの該当章を事前によく読んでおいてください。
②「授業への取り組み」とは授業態度やディスカッションに対する意欲的な取り組みのことである。「レポート」とは授業内レポートである。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 生徒指導特論

**クラス:**

**授業コード:** BK30600001

**担当者:** 藤原 忠雄 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:高等学校及び養護学校(現特別支援学校)教諭＜教育相談室長・特別支援教育コーディネーター等＞, 県教育センター教育相談部指導主事
【関連資格】学校心理士SV・公認心理師 等

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

**授業の目的:** 本授業では、日本における児童生徒支援のバイブルとして, 2022年12月に発刊された「生徒指導提要」を概観し, 日本における生徒指導の原理原則について学ぶとともに、生徒指導上の諸問題についての現状理解を深め、その対応と具体的支援方法について検討する。

**到達目標:**
1. 生徒指導提要の概要を理解する。
2. 生徒指導を学校心理学の立場から構造的に捉えることができる。
3. 学校における生徒指導体制を構想することができる。
4. 学校教育相談の意義とその内容を理解する。
5. キャリア教育の意義とその内容を理解する。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション, 生徒指導とは
2. 第1章「生徒指導の基礎」
3. 第2章「生徒指導と教育課程」
4. 第3章「チーム学校における生徒指導体制」
5. 第4章「いじめ」
6. 第5章「暴力行為」, 第6章「少年非行」
7. 第7章「児童虐待」, 第8章「自殺」
8. 第9章「中途退学」, 第10章「不登校」
9. 第11章「インターネット・携帯電話に関わる問題」, 第12章「性に関する課題」
10. 第13章「多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導」
11. 隣接領域①:学校心理学の理論と実際
12. 隣接領域②:学校教育相談の意義とその実際
13. 隣接領域③:キャリア教育の意義とその実際
14. 隣接領域④:今後の展望(包括的支援の重要性)
15. 総括討議, レポート

**特記事項:** なし

**授業方法:** 【対面】
全体を通して, アクティブ・ラーニングを展開する。
1. 講義・グループディスカッション
2. 発表＆質疑・グループディスカッション
3. 発表＆質疑・グループディスカッション
4. 発表＆質疑・グループディスカッション
5. 発表＆質疑・グループディスカッション
6. 発表＆質疑・グループディスカッション
7. 発表＆質疑・グループディスカッション
8. 発表＆質疑・グループディスカッション
9. 発表＆質疑・グループディスカッション
10. 発表＆質疑・グループディスカッション
11. 発表＆質疑・グループディスカッション
12. 発表＆質疑・グループディスカッション
13. 発表＆質疑・グループディスカッション
14. 講義・グループディスカッション
15. 全体ディスカッション・総括

**予習・復習・宿題など（内容・時間）：**

予習として，シラバスに記載されている次回の授業内容を事前学習して臨むことが必要である（1560分）。発表を担当する「章」「領域」に関しては，その概要のプレゼンとともに質疑の対応を担う。復習として，「授業アンケート」及びそれに基づく関連内容の追加情報収集が必要である（780分）。また，レポート課題の作成作業が必要である（360分）。なお，予習及び復習課題に関しては，毎回の授業終了時に提示する。

---

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 50 | **%** | **確認テスト：** | 30 | **%** | **レポート：** | 20 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

---

**評価基準：** 受講態度（50%），課題テスト「授業アンケート」（30%），レポート（20%）により評価する。
受講態度は，プレゼン発表の取組態度及びその完成度、授業中における討議に対する積極的・能動的な参加態度を評価する。
「授業アンケート」及びレポートは，授業で学んだ内容に関して適切な解釈ができているかについて評価する。

評価指標は、以下の通りである。
【最低限の到達（60～69点）】
1. 生徒指導提要の概要を説明することができる。
2. 生徒指導と学校心理学との関連を説明することができる。
3. 学校における生徒指導体制を構想することができる。
4. 学校教育相談の意義とその内容を説明することができる。
5. キャリア教育の意義とその内容を説明することができる。
【望ましい到達度（80～100点）】
1. 生徒指導提要に示された原理原則を生かした指導を実際に構想できる。
2. 生徒指導と学校心理学との構造的関連を構想できる。
3. 学校における生徒指導体制を構想し，実際的な配慮のポイントを説明できる。
4. 学校教育相談の意義とその内容を踏まえた実際的な展開を構想できる。
5. キャリア教育の意義とその内容を踏まえた実際的な展開を構想できる。

---

**課題へのフィードバック：**

授業アンケートに関しては，次回の授業の中で感想や質問等を全体でシェアリングする。
レポートに関しては，必要に応じて授業外の場でフィードバックする。

---

**教科書：** 文部科学省『生徒指導提要（改定版）』2022年12月＜Web版＞
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf

**参考書：** 大野精一・藤原忠雄（編著）『学校教育相談の理論と実践：学校教育相談の展開史、隣接領域の動向、実践を踏まえた将来展望』ほんの森出版 2018年
一般社団法人日本学校教育相談学会（企画）春日井敏之・梅川康治・栗原慎二・藤原忠雄（編著）「学校教育相談 理論と実践のガイドブック」ほんの森出版 2025年

---

**授業・準備学習のアドバイス：**

生徒指導に関することに対して，日頃から高いアンテナを張り，積極的な情報収集に心掛けることが必要である。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 学校カウンセリング特論

**クラス:**

**授業コード:** BK30700001

**担当者:** 金山 健一 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:中学校教諭(生徒指導・教育相談担当)、臨床心理士・学校心理士・学生相談室長(カウンセリング・学生相談・教育相談担当)

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** すべての子どもは幸せになる権利がある。しかし、現実には、子どもたちは様々な問題に直面して苦悩している。本授業では、学校カウンセリングの理論と実践を習得し、今日の子どもたちの抱える様々な問題への具体的な対応方法を学ぶ。学校カウンセリングでは、予防・開発的な包括的支援モデルを理解し実践方法を体験する。カウンセリングには様々な手法があるが、代表的なカウンセリング・心理療法を学び、人生を豊かにすることも目的である。

**到達目標:** 1. 学校カウンセリングの理論と実践を体系的に学び、課題・問題に対して、対応できるカウンセリングを習得する。
2. 子ども支援、家庭支援に必要な問題解決能力・発表力・表現力などを習得する。

**各回の授業計画:**

1. 学校カウンセリング概論(人の心を理解する)
2. ロジャーズ理論・来談者中心療法(カウンセリングの基礎の基礎)
3. マイクロカウンセリング(カウンセリングの技を学ぶ)
4. ブリーフセラピー(効果的なカウンセリングとは何か)
5. 論理療法・.認知療法(考え方・思考へのアプローチするカウンセリング)
6. 認知行動療法(ワークシートでトレーニング体験)
7. 選択理論(人生は選択で決まる)
8. 心理検査(自分の知能を測定する)
9. 事例研究(不登校・引きこもりの現状と対応)
10. 事例研究(いじめ・自殺の現状と対応)
11. 事例研究(虐待・家庭内暴力の現状と、関係機関との連携)
12. ピアサポート(人と人とをつなぐ)
13. 心理学の法則(人生で必要な心理学の法則・効果を学ぶ)
14. 学校カウンセリングの倫理(カウンセラーの条件)
15. 学校カウンセリングの課題と展望

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 授業は対面とする。教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。同時に、各自が取り組んでいる論文の指導を随時、実施する。
1. 講義・議論
2. 講義・議論
3. 講義・議論
4. 講義・議論
5. 講義・ ロールプレイ
6. 講義・ロールプレイ
7. 講義・ロールプレイ
8. 講義・ロールプレイ
9. 講義
10. 講義
11. 講義
12. 講義・議論
13. 講義・議論
14. 講義・議論
15. 講義・テスト

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 復習（180分）
2. 復習（180分）
3. 復習（180分）
4. 復習（180分）
5. 復習（180分）
6. 各自の研究準備（180分）
7. 各自の研究準備（180分）
8. 各自の研究準備（180分）
9. 各自の研究準備（180分）
10. 各自の研究準備（180分）
11. プレゼン準備（180分）
12. プレゼン準備（180分）
13. 課題まとめ（180分）
14. 課題まとめ（180分）
15. まとめと評価（180分）

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 40 | **%** | **確認テスト：** | 30 | **%** | **レポート：** | 30 **%** |
| **その他1：** | | | | | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：** (1)授業への取り組み：授業態度、関心・意欲、発表
(2)確認テスト：中間テスト、期末テスト
(3)レポート：期末レポート

**課題へのフィードバック：**

課題・レポートの疑問点などは、授業ばかりでなくオフィスアワーなどを活用して、フィードバックしていく。

**教科書：** なし。随時、プリントを配布する。

**参考書：** 『学校教育相談の理論と実践』 大野精一 藤原忠雄（編） あいり出版

**授業・準備学習のアドバイス：**

教育に関する新聞報道や、文部科学省HP、教育心理学、学校心理学、キャリア教育などの分野の文献にも関心を持つことを期待している。
授業に関する質問は随時、受け付けている。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 学校心理臨床特論

**クラス:**

**授業コード:** BK30800001

**担当者:** 藤原 忠雄 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:高等学校及び養護学校(現特別支援学校)教諭＜教育相談室長・特別支援教育コーディネーター等＞, 県教育センター教育相談部指導主事
【関連資格】学校心理士SV・公認心理師 等

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 学校における心理臨床に関する基礎的知識及び多様な心理療法の枠組みの理解の下に, 学校における様々な課題・問題の理解と援助の力量を高める。

**到達目標:** 1. 学校における心理臨床に関する基礎的知識及び具体的支援方法(本講義ではストレス対処に焦点化)を習得する。
2. 多様な心理療法の枠組みの理解する。
3. 児童生徒の発達・教育上の課題(不登校, 発達障害等)に対する適切な支援を理解する。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション, 学校における心理臨床
2. 臨床診断基準(DSM-5-TR・ICD-10)
3. 心理療法①:力動的アプローチ
4. 心理療法②:認知行動論的アプローチ
5. 心理療法③:パーソンセンタードアプローチ
6. リラクセーション①:呼吸法
7. リラクセーション②:漸進性弛緩法
8. リラクセーション③:自律訓練法
9. リラクセーション④:臨床動作法
10. リラクセーション⑤:イメージ法
11. 児童生徒の発達・教育上の課題①(不登校)
12. 児童生徒の発達・教育上の課題②(非行)
13. 児童生徒の発達・教育上の課題③(発達障害)
14. 児童生徒の発達・教育上の課題④(危機対応)
15. 総括討議, レポート

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 【対面】
全体を通して, アクティブ・ラーニングを展開する。
1. 講義・グループディスカッション
2. 講義・グループディスカッション
3. 講義・グループディスカッション
4. 講義・グループディスカッション
5. 講義・グループディスカッション
6. 講義・演習
7. 講義・演習
8. 講義・演習
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11. 講義・グループディスカッション
12. 講義・グループディスカッション
13. 講義・グループディスカッション
14. 講義・グループディスカッション
15. 全体ディスカッション・総括

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

予習として, 各回の内容に関する情報収集が必要である(780分)。復習として, リラクセーション技法の習得のための一定期間のトレーニン

グとその記録が必要である(1680分)。また，レポート課題の作成作業が必要である(240分)。

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 50 **%** | **確認テスト:** | 30 **%** | **レポート:** | 20 **%** |
| **その他1:** | | | **%** | | |
| **その他2:** | | | **%** | | |

**評価基準:** 受講態度(50%)，課題テスト「授業アンケート」(30%)，レポート(20%)により評価する。
受講態度は授業中に実施する討議・演習に対する積極的・能動的な参加態度を評価する。
課題テスト「授業アンケート」及びレポートは，講義で学んだ内容に関して適切な解釈及び活用ができているかについて評価する(授業中に体験したスキルの習得のためのトレーニング記録の評価を含める)。

評価指標は，以下の通りである。
【最低限の到達(60～69点)】
1. 学校における心理臨床に関する基礎的知識及び具体的支援方法について説明できる。
2. 多様な心理療法の枠組みについて説明できる。
3. 児童生徒の発達・教育上の課題に対する適切な支援について説明できる。
【望ましい到達度(80～100点)】
1. 学校における心理臨床に関する基礎的知識及び具体的支援方法を理解し，具体的活用を構想できる。
2. 多様な心理療法の枠組みを理解し，学校における様々な課題・問題の理解と援助の枠組みとして参照できる。
3. 児童生徒の発達・教育上の課題に対する適切な支援を理解し，その具体的展開を構想できる。

**課題へのフィードバック:**

授業アンケートに関しては，次回の授業の中で感想や質問等を全体でシェアリングする。
レポートに関しては，必要に応じて授業外の場でフィードバックを行う。

**教科書:** 教科書は指定しない。必要に応じて，関連資料の配布及び参考文献の紹介を行う。

**参考書:** 伊藤良子(編)『臨床心理面接技法1』誠信書房 2004年
倉光修(編)『学校臨床心理学』誠信書房 2004年
藤原忠雄(著)『学校で使える5つのリラクセーション技法』ほんの森出版 2006年

**授業・準備学習のアドバイス:**

リラクセーション技法の習得のためのトレーニングに積極的に取り組み，ストレスマネジメント能力を高めることを期待している。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 心理教育アセスメント特論

**クラス:**

**授業コード:** BK30900001

**担当者:** 小川内 哲生 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** −

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 教室場面における心理教育アセスメントを理解し、教育実践に活用できるスキルを身につけることを目的とする。

**到達目標:** 到達目標は以下の2点である。
1. 心理教育アセスメントの効用と限界を理解すること。
2. 心理教育アセスメントの理論と方法を理解し、実践に活かすスキルを身につける。

**各回の授業計画:**

1. 心理教育アセスメントとは何か
2. 教育測定の理解
3. 心理検査の信頼性と妥当性
4. 教育評価の理解
5. 心理検査の理解と活用
6. 知能検査と教育の評価
7. 学習面のアセスメント
8. 心理・社会面のアセスメント
9. 進路面のアセスメント
10. 健康面のアセスメント
11. 学級集団のアセスメント
12. 学級風土のアセスメント
13. アセスの理解と活用(1)
14. アセスの理解と活用(2)
15. 心理教育アセスメントと子ども理解

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 講義、グループワーク、討論
全ての授業を対面で行う。

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

授業の予習・復習とレポート課題の作成等に毎週4時間の学習時間を必要とする。

---

**評価方法:**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 20 % | **確認テスト:** | − % | **レポート:** | 80 % |
| **その他1:** | | | % | | |
| **その他2:** | | | % | | |

---

**評価基準:** (100〜80点)心理教育アセスメントの理論と方法を理解し適切に活用できる。
(79〜70点)心理教育アセスメントの理論と方法を理解し活用できる。
(69〜60点)心理教育アセスメントの理論と方法を理解し不十分ではあるが活用できる。

---

**課題へのフィードバック:**

課題・レポート等については授業時にその都度、講評を行う。それ以外にもオフィスアワーなどを利用してフィードバックを行う。

---

**教科書:**　教科書は使用しないが、随時、参考文献を紹介する。

**参考書:**　必要に応じて紹介する。

---

**授業・準備学習のアドバイス:**

予習復習をしっかりと行うこと。日頃から心理教育アセスメントについて関心を持ち、積極的に情報収集したり文献検索を行う等してほしい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）:**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 教育研究法特論

**クラス:**

**授業コード:** BK31000001

**担当者:** 藤原 忠雄 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** 実務経験有:6学会・2機関の学会誌・機関誌の査読経験

**教職課程における位置づけ:** −

**含めることが必要な事項:** −

**教科に関する専門的事項:** − **一般的包括的科目:** −

---

**授業の目的:** 本講義は，教育研究法という大きな枠組みから教育における心理学研究法に焦点化する。
心理学で用いられる種々の研究方法や分析方法について概観し，自らの研究を推進することに資する。

**到達目標:** 1. 研究を進めるために必要な研究方法の基礎的な知識・手続きを習得する。
2. 研究を進めるために必要な分析方法の基礎的な知識・スキルを習得する。

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション，研究とは
2. 論文検索の方法
3. 選択論文の決定，レジュメ作成
4. 選択論文の解読及び発表①
5. 選択論文の解読及び発表②
6. 心理学研究法①:実験的・実践的研究法
7. 心理学研究法②:面接・観察による質的研究法
8. 心理学研究法③:質問紙調査による研究法
9. 量的データ分析法⓪:データ整理，基本統計量
10. 量的データ分析法①:t検定
11. 量的データ分析法②:分散分析
12. 量的データ分析法③:因子分析
13. 量的データ分析法④:相関分析
14. 量的データ分析法⑤:重回帰分析
15. 総括討議

**特記事項:** なし

---

**授業方法:** 【対面】
アクティブ・ラーニング授業であり，次のような流れで展開する。
まず、学術誌掲載論文の中から興味のある論文を選択し、そのレジュメの作成を通して，研究計画・実施・結果のまとめ方を学ぶ。次に教育における心理学研究法の概要を学び，最後に質問紙調査法における量的データの分析方法を実習形式で学ぶ。

1. 講義・グループディスカッション
2. 講義・演習
3. 講義・演習
4. 発表・質疑
5. 発表・質疑
6. 講義・グループディスカッション
7. 講義・グループディスカッション
8. 講義・グループディスカッション
9. 講義・演習
10. 講義・演習
11. 講義・演習
12. 講義・演習
13. 講義・演習
14. 講義・演習
15. 全体ディスカッション・総括

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

本授業は，授業外の個人作業（論文検索・論文選択とその解読，発表のためのレジュメ作成とプレゼン作成 等）が必要である（1080分）。また，心理学研究法及び量的データ分析法を理解・習得するためには各180分の復習が必要である（1620分）。

**評価方法：**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ：** | 60 | **%** | **確認テスト：** | － | **%** | **レポート：** | － **%** |
| **その他1：** | 発表 | | | 40 | **%** | | |
| **その他2：** | | | | | **%** | | |

**評価基準：**

授業態度（60%）と発表内容（40%）を総合的に評価する。
授業態度は，課題への積極的・能動的な参加態度を評価する。
発表内容は，論文の解読・プレゼンテーションの適切さについて評価する。

評価指標は、以下の通りである。
【最低限の到達（60～69点）】
1. 研究を進めるために必要な研究方法の基礎的な知識・手続きを説明できる。
2. 研究を進めるために必要な分析方法の基礎的な知識・スキルを説明できる。
【望ましい到達度（80～100点）】
1. 研究を進めるために必要な研究方法の基礎的な知識・手続きを踏まえて，自らの研究法を構想できる。
2. 研究を進めるために必要な分析方法の基礎的な知識・スキルを踏まえて，自らの研究のデザインとともに使用する分析法を構想できる。

**課題へのフィードバック：**

課題に対する評価及び補足説明等は，必要に応じて授業及び授業外で個人的にフィードバックする。

**教科書：**

教科書は指定しない。必要に応じて，関連資料の配布及び参考文献の紹介を行う。

**参考書：**

日本教育心理学会（編）『教育心理学ハンドブック』有斐閣 2003年
山田剛史・村井潤一郎（著）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 2004年
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)『心理学研究法入門－調査・実験から実践まで』東京大学出版会 2001年
森敏昭・吉田寿夫（編著）『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房 1990年

**授業・準備学習のアドバイス：**

日本学術会議協力学術研究団体（https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html）が発行している雑誌に掲載された学術論文への積極的なアクセスに努めてもらいたい。
良質な論文から多くのことを学んでもらいたい。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 障害児教育特論

**クラス:** 集中

**授業コード:** BK31100001

**担当者:** 堀田　千絵　　**単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** 教職課程関連科目:大学が独自に設定する科目(教育の基礎的理解に関する科目)(小学校専修及び幼稚園専修)【選択】

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** －　　**一般的包括的科目:** －

---

**授業の目的:** 特別支援教育の理念を理解するとともに、特別支援教育における実際の支援と指導の在り方について学ぶ。

**到達目標:**
1. 特別支援教育の理念を理解する
2. 特別支援教育の理念に基づいた実際の支援を習得する
3. 特別支援教育の支援、指導のあり方について各自の理解を深める

**各回の授業計画:**

1. オリエンテーション
2. 特別支援教育の理念
3. 特別支援教育の実際
4. 知的障害
5. 肢体不自由
6. 発達障害(LD、ADHD)
7. 神経発達症
8. 聴覚障害
9. 視覚障害
10. 重度重複障害
11. 特別支援教育の教育課程とその特質
12. 発達段階を踏まえた支援について(1)アセスメントの方法
13. 発達段階を踏まえた支援について(2)授業デザイン
14. 事例による理解
15. まとめと発表

**特記事項:** なし

---

**授業方法:**
1. 講義
2. 講義
3. 講義
4. 講義、視聴覚教材
5. 講義、視聴覚教材
6. 講義、視聴覚教材
7. 講義、視聴覚教材
8. 講義、視聴覚教材
9. 講義、視聴覚教材
10. 講義、視聴覚教材
11. 講義
12. 講義、演習、グループワーク
13. 講義、グループワーク
14. 講義、グループワーク
15. 講義、発表、ディスカッション

**予習・復習・宿題など(内容・時間):**

1. 特別支援教育はなぜ必要なのか自分なりの考えを記録しておく(140分)
2. 特別支援教育に携わる自分をイメージして何を大切にするひつようがあるか、自由に考え記録しておく(140分)
3. 特別な支援を必要とする子どもの支援にとって必要な知識や技能等を自分なりに記録しておく(140分)

4. 知的障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
5. 肢体不自由児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
6. 発達障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
7. 発達障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
8. 聴覚障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
9. 視覚障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
10. 重度重複障害児に関する文献等を調べ、通読しておく(140分)
11. 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編並びに自立活動編の総説を通読しておく(140分)
12. 発達段階に関する文献等を通読しておく(140分)
13. 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説教科編を通読しておく(140分)
14. 興味のある障害種について文献等を調べ、通読しておく(140分)
15. 授業を通じて学んだことを発表できるようにまとめておく(140分)
※小レポート作成150分×4回

**評価方法:**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **授業へのとりくみ:** | 15 **%** | **確認テスト:** | 15 **%** | **レポート:** | 45 **%** | | |
| **その他1:** | 授業への参加に対する発言等を重視する。 | 15 **%** | | | | | |
| **その他2:** | 発表の質を評価する。 | 10 **%** | | | | | |

**評価基準:**

課題レポート:課題を正しく把握し、自分の意見が述べられている(60～69)。
課題レポート:課題を正しく把握し、他の考えなどを取り入れながら、自分の意見が述べられている(80～)。

グループワーク:話し合いに参加し、自分の意見を述べることができる(60～69)。
グループワーク:話し合いに積極的に参加し、人の意見も取り入れながら、自分の意見を述べることができる(80～)。

**課題へのフィードバック:**

提出物については、適宜コメントをしたり、指導を行い返却する。

**教科書:**

読んでわかる教育心理学 (2018). 第11章 障害の発達と学習
※授業中に適宜資料を配布します。

**参考書:**

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部)
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
特別支援学校学習指導要領解説各教科等偏(小学部・中学部)

**授業・準備学習のアドバイス:**

授業と共に、予習、復習を通して特別支援教育に対する理解を深めてください。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力(学部科目のみ):**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html

**科目名:** 身体教育学特論

**クラス:**

**授業コード:** BK31150001

**担当者:** 杉山 真人 **単位数:** 2

**科目に関連した実務経験:** －

**教職課程における位置づけ:** －

**含めることが必要な事項:** －

**教科に関する専門的事項:** － **一般的包括的科目:** －

**授業の目的:** スポーツなどの身体運動は幼児から高齢者に至るまで実生活に浸透しており、生涯にわたる営みであると捉えられる。他方で、高度に文明が発達した今日において、身体運動を健康や教育と関連づけた場合、種々の問題を見いだすことができる。そこで、本講義ではこれらの問題を前提として身体運動の教育的意義を理解し、科学的根拠に基づいた運動指導における知識を習得することを目的とする。

**到達目標:** 科学的知見に基づいた諸理論を通して身体運動の原理を理解し、運動実行者の指導や援助ができる。

**各回の授業計画:**

1. 身体を通した教育の重要性
2. システムとしての身体
3. 身体運動と環境情報
4. 運動の学習過程
5. 運動技能の評価
6. 身体運動制御の情報処理的アプローチ
7. 環境との相互作用を通した身体運動制御
8. 運動の発達過程
9. 身体教育及び健康を取り巻く現状と課題
10. 運動の個人差と体力・運動能力
11. 子どもの体力・運動能力の現状と課題
12. 学校教育における運動指導の実際
13. 生涯スポーツとしての身体運動
14. 運動指導における安全教育と安全管理
15. まとめと確認（総合的な討議）

**特記事項:** なし

**授業方法:**
1. 講義
2. 講義，ディベート，グループワーク
3. 講義，ディベート，グループワーク
4. 講義，ディベート，グループワーク
5. 講義，ディベート，グループワーク
6. 講義，ディベート，グループワーク
7. 講義，ディベート，グループワーク
8. 講義，ディベート，グループワーク
9. 講義，ディベート，グループワーク
10. 講義，ディベート，グループワーク
11. 講義，ディベート，グループワーク
12. 講義，ディベート，グループワーク
13. 講義，ディベート，グループワーク
14. 講義，ディベート，グループワーク
15. 講義，ディベート

※全て対面で行います

**予習・復習・宿題など（内容・時間）:**

各回の授業につき1時間の予習と3時間の復習を課す。
復習はテキストや資料、関連文献の振り返りを行い、予習は次回の授業用資料等について学習することを求める。

| 評価方法： | 授業へのとりくみ： | 40 % | 確認テスト： | － % | レポート： | 60 % |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | その他1： | | | % | | |
| | その他2： | | | % | | |

**評価基準：** 身体教育に関する基礎的知識を身につけている（可）
身体教育に関する基礎的，応用的知識を身についけている（良）
身体教育に関する知識を身につけ他の事象と関連づけて論じることができる（優）

**課題へのフィードバック：**

小レポートや小テストについては採点後講評する。

**教科書：** シュミット, R. A. (1994) 運動学習とパフォーマンス 大修館書店

**参考書：** なし

**授業・準備学習のアドバイス：**

ヒトの運動は合目的的に果たされることが多いため、課題（原因）と成果（結果）が直接的に結びついていると捉えがちです。しかし、複雑な身体構造や神経システムは必ずしも直接的な因果関係だけで説明できるものではありません。これらの基盤となる諸原理を理解するためには、現象の巨視的及び微視的な視点が必要となります。この点を踏まえた上で学習に臨んでほしいと思います。

**科目ナンバリングコード／ディプロマポリシーに基づく修得できる力（学部科目のみ）：**

https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/data/data-09.html